

大分大学
国際教育推進センター
紀 要 第3号

大分大学国際教育推進センター

Global Education and Intercultural Advancement Center
Oita University



目 次

報告

I. 留学生受け入れプログラム

令和3年度短期交換留学プログラムIGLOBE(E)の実施報告	長池 一美 ブルカート 香織	1
令和3年度短期交換留学プログラムIGLOBE(J)の実施報告	南里 敬三	6
令和2年度後期－令和3年度前期の日本語日本文化研修留学生プログラムの実施報告	南里 敬三	10

II. 日本語・日本文化研修生研究論文

地方国立大学生へのコロナ禍の影響	サンパーニット・ソーラヴィット	15
慣用句・諺における「水」から見た日本人の思考の特徴		
－ベトナム語の慣用句と対比しながら－	ブイ・ティ・ホン・ズオン	30

III. 海外派遣留学

令和3年度海外派遣留学プログラム実施報告	ブルカート 香織	45
令和3年度韓国夏季短期語学研修実施報告	西島 順子	50

IV. 留学生支援

修学・生活支援関連報告	西島 順子	53
国際交流ボランティア会の活動	西島 順子	56
帰国留学生送別会	西島 順子	58
「OITA学生提言フェスタ」と「おおいたワールドフェスタ2021」	西島 順子	60

研究

研究論文

売れるファッション誌はまだ作れるのか	緊縮デフレ下の日本のファッション誌	61
	南里 敬三	

Complexity of Intercultural Communication in Selected Scenes: DeVito's Theory Applications

Kaori I. Burkart	115
------------------	-----

資料

令和3年度国際教育推進センター関連行事	123
国際交流協定校等	124
令和3年度国際教育推進センター開講授業科目一覧	126
令和3年度国際教育推進センター提供授業	128
国際教育推進センター教員，学生・留学生支援課職員名簿	141

報 告

I. 留学生受け入れプログラム

令和3年度短期交換留学プログラムIGLOBE (E) の実施報告

長池 一美
ブルカート香織

要 旨

平成30年度から短期交換留学プログラムが一本化され、名称も新たにIGLOBE (Intercultural and Global Oita based Education) となった。本稿ではIGLOBEの中でも特に英語を媒介言語として履修する短期交換留学生に提供するプログラム (IGLOBE-E) について実施状況を述べる。令和3年度は2年度に引き続き、コロナ禍で留学生が渡日できない状況下でのプログラム実施について、特に、学生の受入れ数や出身国、カリキュラムの構成などについて考察する。

1. はじめに

IGLOBEとは、学生交流協定に基づいて、大分大学の協定校から半年間（1学期）または1年間（2学期）に交換留学生を受け入れるプログラムである。IGLOBEは国際教育推進センター（英語名 Global Education and Intercultural Advancement Center, 通称GAIA）が中心となり運営を行っている。IGLOBE-Eとは基本的に英語を媒介とした授業から成り立っている。参加学生は日本語の授業に加えて、本学が提供する英語による授業を履修する。受け入れには語学要件としてTOEFL-PBTで500、TOEFL-IBTで61、IELTSで6程度としている。英語の母語話者、またはそれ相当であると判断される場合は、英語の語学要件は科されない。

前述の通り、IGLOBE-Eプログラムの参加学生は英語の語学要件が受け入れの条件とされる一方で、日本語の語学力は一切問われない。参加学生の日本語力はゼロ初級から上級まで多岐に渡り、学生はプレースメントテストの結果に従って個人のレベルにあった日本語科目を受講する。同時に、日本語のクラスに加えて文化、社会、経済など英語で提供される専門科目も履修する。また、日本語上級レベルの学生は、本学の正規学生に提供されている教養教育科目や専門科目を履修することも可能である。令和3年度は2年度に引き続き、コロナ禍の影響で学生が渡日できない状況でのプログラム実施となった。そのような状況下でのプログラム実施について、特に学生の受入れ数や出身国やカリキュラムの構成などについて考察する。

2. IGLOBE-E参加学生の受入れ数と出身国の内訳

まず、これまでのIGLOBE-E（旧IPOUプログラムを含む）に在籍した学生の国別内訳を表1に示す。

表1 IGLOBE-E（旧IPOU）学生の国別受入れ数の推移：平成13年度—令和3年度

プログラム	IPOU																		IGLOBE-E		
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
アメリカ	2	1	6	11	8	12	10	12	11	10	10	8	6	4	2	3	4	2	1	0	0
イギリス	1	1	0	0	1	2	0	1	0	2	0	2	8	6	3	5	9	4	9	9	0
ドイツ	2	4	3	2	5	5	4	5	5	7	7	6	8	5	8	5	5	5	5	0	6
オランダ	0	1	0	0	1	1	0	0	2	0	3	3	5	2	4	4	2	4	2	1	3
スウェーデン							1	1	1	0	1	1	0	0	1	0	1	1	4	0	0
ハンガリー								4	5	4	3	1	1	0	1	4	3	3	1	0	0
中国（香港）	9	9	7	12	6	5	6	3	4	6	6	2	4	2	3	2	4	5	2	1	1
韓国	3	3	2	4	7	1	0	1	3	2	3	0	1	0	1	1	0	2	2	0	0
タイ					0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
インドネシア				1	1	2	3	2	0	2	1	1	0	0	1	0	3	2	2	0	0
フィンランド									2	2	2	2	2	0	1	3	2	0	0	0	3
ノルウェー								0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オーストラリア							0	0	3	3	4	2	1	2	3	2	0	0	0	0	0
フランス										2	2	4	3	2	0	1	1	2	0	0	1
ベトナム										0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
シンガポール												2	0	4	2	3	1	2	2	0	0
イタリア												0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
台湾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
チェコ																				0	0
ポーランド																		0	0	0	0
合計	17	19	18	30	29	28	24	29	39	42	45	34	39	28	30	34	38	33	31	11	17

令和3年度のIGLOBE-Eの国別参加者の内訳は、ドイツ6名、フィンランド3名、オランダ3名、イタリア3名、フランス1名、中国1名の計17名となった。コロナ禍で留学生の渡日ができない状況で実施されたオンラインプログラムであることを考慮すると、前年度よりも参加学生が6名も増加したことは、本プログラムがそれ相応に一定評価されているものと判断できる。上記の国別参加者の内訳には、コロナ禍で新しく協定を結んだイタリアのカ・フオスカリ大学からの3名も含まれている。令和4年度はいわゆるWithコロナの社会的情勢の中で参加学生が実際に渡日し、本プログラムに参加できる状況となることが見込まれる。しかし、コロナ禍でアカデミックのあり方も大きく変容しているため、本プログラムをいかに新常識に沿って改革し、それをどのように協定大学や学生に周知するのか、また目まぐるしく変容するアカデミック環境において、いかに留学生と大分大学の学生とを交えた多文化理解教育を推進していくのかを考える必要がある。

本学のIGLOBE-Eのプログラムの特徴として、欧米圏からの参加人数が多いことが挙げられる。本学では、特に欧米の大学に留学を希望する学生が多いので、派遣留学促進という点からもIGLOBE-Eは、本学の国際化戦略に大きく貢献しているといえよう。今後はWithコロナで受入、および派遣のバランスが取れるような取り組みをさらに促進していく必要がある。

3. 日本語科目

IGLOBEではGAIAが提供する日本語科目を履修する。本来であれば参加者は来日してすぐに行われるプレースメントテスト（オーラルテストを含む）によって、初級者から超級までの6段階の中で適切なクラスに振り分けられて、1クラス15人以内の少人数制で各自の日本語レベルに応じた細やかな指導を受けるところながら、今年度はコロナ禍で学生が渡日できない状況の中で本学独自のプレースメントテストとJ-CATを併用し、日本語レベルを判定した。IGLOBE-Eは通常欧米からの参加者が大多数を占め、日本語初級（レベル1）から中級（レベル3）に集中する。GAIAでは、交換留学生の受け入れのため、政府の水際対策の状況を注視しつつ、入国が可能となった時点で随時留学生を受け入れる姿勢で、いつ受け入れが始まっていいようにと粛々と準備を進めてきた。

例えば、前述のように日本語レベル1からレベル3を履修する欧米の学生が渡日できるまで無理なく欧米からでも同時双方向型のオンライン授業に参加できるように授業時間を夕方以降に変更するなど措置を講じた。それでも欧米時間の早朝から行われるオンライン日本語の授業に参加する留学生の疲労は週ごとに増していく様子が伺えた。また、後半には授業の内容も難しくなり、理解度が落ちる様子は著しかった。いつ渡日が可能になるかもわからず、ただ期待だけが心の支えとなっているような状況では、後半に士気が薄れて授業に集中できなくなっていく参加者も少なくなかった。本来ならば、日本に滞在し、実際の生活や交流の中で日本語を勉強していくところであるが、週3コマ（4時間半）の授業で講師とのやりとりの中でしか日本語に触れない状況下では来日して対面授業を受けるのと同じ効果は期待できなかった。ただ、希望者全員に日本語チューターをつけて、日本語の習得を支援した。また、話す練習に力を入れた授業を行ったり、その課で習得した文法を使ってある題目について作文をしたりと、課題に工夫を凝らして授業の内容を理解できているかどうかを確認した。参加者のために従来の対面授業とは違ったオンライン授業ならではの工夫やケアを惜しまぬ努力はGAIAの受け入れ準備ポリシーを反映したものといえる。

4. グローバル科目

グローバル科目とは、主に交換留学生を対象としており、人文、社会、経済、理工学などの科目が英語、英語&日本語、日本語で提供されている。これらの科目は日本人学生も履修可能であり、大分大学では留学生と日本人学生との知的交流を提供するプラットフォームの役割を果たしている。令和2年度までは英語&日本語の2言語で開講する科目が限られていたが、令和3年度はIntroduction to Japanese History, Culture and Society（前後期）、Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies（前後期）、Intercultural Communication（前後期）、Japanese Popular Culture Studies（前期）、Manga Studies（後期）、Grammar and Discourse（後期）、Sustainability & Glocal Development in Oita 2（前期）、Sustainability & Glocal Development in Oita（後期）の延

べ10科目を新たにバイリンガル科目として提供した。2言語で授業を開講することによって、英語力のハンデがあり、英語のみで教授される授業の履修を躊躇する日本人学生を多く取り込むことができる。授業理解度に関しても、英語で理解が十分でなかった点について日本語で補うことが可能になった。また、日本語ベースのプログラムであるIGLOBE-Jの学生も履修できる科目数を増やすことによって、より一層インクルーシブな授業を提供することができた。令和3年度は前年度に引き続くコロナ禍で、学生が渡日できず、全てのグローバル科目がオンライン（またはハイブリッド）で実施されるという、外国人学生と日本人学生の知的交流という点からは難しい状況下であったが前年度と比較すると令和3年度にグローバル科目を履修した日本人学生の増加があったことを考慮すると、バイリンガル授業数の増加が一定の効果を得ているのではないかと推測される。交換留学生は日本人学生との知的なインターアクションを目的にIGLOBEプログラムに参加する。その点においてもコロナ禍でもオンライン授業で知的交流を促進しながら多文化理解を目指すというプログラムの目的がある程度は達成できたと思われる。

表2 令和3年度に開講されたグローバル科目一覧

開講部局	科目名	使用言語
国際教育推進センター	Analysis of Japanese Grammar (Spring)	Japanese
	Business Japanese Seminar 3 (Spring)	Japanese
	Business Japanese Seminar 4 (Spring)	Japanese
	Learning OITA Through Kyogen (Spring)	English & Japanese
	Sustainability and Glocal Development in Oita 2 (Spring)	English & Japanese
	City Project: Oita and Beppu (Spring)	English & Japanese
	Oita Area Studies (Spring)	Japanese
	Intercultural Communication (Spring & Fall)	English
	Japanese Popular Culture Studies (Spring)	English & Japanese
	Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies (Spring & Fall)	English & Japanese
	Introduction to Japanese History, Culture and Society (Spring & Fall)	English & Japanese
	Japanese Presentation Skill (Fall)	Japanese
	Japanese Linguistics I (Fall)	Japanese
	Business Japanese Seminar 1 (Fall)	Japanese
	Business Japanese Seminar 2 (Fall)	Japanese
	Manga Studies (Fall)	English & Japanese
	Japanese Grammar and Discourse (Fall)	English & Japanese
	Social Networks and Introduction of Oita to the World II (Fall)	English & Japanese
	Sustainability and Glocal Development in Oita (Fall)	English & Japanese
経済学部	Ethnographic Study on Rural Japan (Spring)	English
	Globalization of Japan's Economy (Spring)	English

	The Politics and Economics of the EU (Spring)	English
	Introduction to Japanese Management (Fall)	English
教育学部	Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics (Fall)	English
理工学部	Theoretical Framework for Integral Calculus (Spring)	English

本学には教育学部、経済学部、医学部、理工学部、福祉健康科学部の5学部が設置されているが、医学部と福祉健康科学部を除く3学部よりグローバル科目授業が留学生履修可能科目として英語で開講されている。したがって、ジャパニーズ・スタディーズ専攻以外の留学生でも、3学部に関連する専攻であれば履修が可能である。しかしながら、過去の報告書でも述べたように、センターからの科目提供数に比べると、経済学部を除く学部からの科目提供数が少なく、特に前期のグローバル科目の内容が人文分野に偏ってしまっているのが課題である。本学のグローバル教育の拡大のためには、英語もしくはバイリンガルでの提供科目の増加が不可欠であり、引き続きの検討課題となるであろう。IGLOBE-Eのプログラムで提供できない専門分野については、「Independent Research Project」の履修を勧め、学生が専門教員と個別に研究できるようにしている。

5. おわりに

本稿では令和3年度のIGLOBE-Eプログラム実施について、学生数の推移、授業開講科目の特徴などの事項を中心に考察してきた。既述したように、前年度に引き続きコロナ禍の影響下で、参加する学生のみならず、担当教員にも大きな負担を課す中でのプログラム実施となった。オンラインのみの授業履修は日本社会・文化の理解促進を目的としてプログラムに参加した学生にとって現地でのフィールドワーク、日本人学生や地域住民との交流ができないという非常にストレスフルな状況をもたらした。また、教える教員も時差の関係で授業時間を移行したり、ハイブリッド型やオンデマンド型の授業を取り入れながらの授業となり、授業準備等で少なくともコロナ禍以前の2倍以上の時間を費やしたことは間違いない。前述したようにIGLOBEプログラムは大分大学の国際教育推進のコアを担っている。Withコロナで次年度からどのようなプログラムへの学生受け入れが可能になるのかを模索しながら、やはりプログラム参加学生が渡日し、大分大学で学ぶことによって真のプログラムの成功になり得るのではないかと実感した。しかしながら、コロナ禍で激変したアカデミックの状況で新しくプラスとなった大学教育の事項を考慮しながらプログラム運営をしていく必要があるだろう。

令和3年度短期交換留学プログラム IGLOBE (J) の実施報告

南里敬三

1. はじめに

令和3年度の「Intercultural and Global Oita Based Education (IGLOBE)プログラム (J)」における特筆すべき事項は、新型コロナの世界的流行により渡日できなくなった短期交換留学生を交えての Zoom 授業の継続だろう。Zoom は国境を越えて人をつなげてくれるツールであり、知識の効率的な導入が行えるツールでもある。だが、その効率性のゆえに使う側のコミュニケーション力が試されるツールでもある。本稿では Zoom の使用により日本人学生のコミュニケーション能力の向上が必要であることが明確となった事例の報告を行いたいと思う。

以下、過去3年の IGLOBE (J) の受け入れ留学生数の増減を概観し、ネット上でのオンライン参加の短期交換留学生と本学正規生との繋がりを簡単に見た後、留学生との協働作業を通して見えた日本人のコミュニケーション力に言及する。

2. IGLOBE (J) の受け入れ状況

令和元年度は IGLOBE(J)の受け入れ人数は46名であったが、同年度末に発生した新型コロナウイルス感染症の世界的拡大で、令和2年度前期、短期交換留学生の受入れは停止となり、同年度後期はオンライン留学という形で交換留学生9名を受け入れることとなった。(表1参照のこと。)

令和3年度も引き続き、オンライン留学という形で IGLOBE (J) の交換留学生27名を受け入れた。令和3年度の IGLOBE (J) 受入れ者数を国別でみると(表2参照のこと)、中国が21名で最も多く、続いて韓国の4名、台湾とタイ王国の1名となっている。原籍校別にみると、内蒙古大学が9名、中南財形大学が5名、黒竜江大学、北京林業大学、及び、西京大学校が2名、遼寧師範大学、培材大学校、大邱大学校、東海大学、コンケン大学がそれぞれ1名となっている。令和2年度コロナ禍で落ち込んだ受け入れ留学生数だが、オンライン授業の提供でかなりの数を巻き返すことが出来たことは喜ばしい限りである。

表1. 国別受け入れ状況

国名	令和元年	令和2年	令和3年
中国	28	7	21
韓国	14	1	4
台湾	2	1	1
タイ王国	1	0	1
ハンガリー	1	0	0
合計	46	9	27

3. ネットでつながる学生の輪

IGLOBE プログラムの強みの一つは大分地域の社会・文化を考察する科目の提供だが、令和3年度前期開講の『大分地域理解』は、複数の文化や言語の視点をもって、大分の社会や歴史を学ぶことを目的とした科目で、グループワークやフィールドワークを通じて、大分の歴史や文化を楽しく学べる科目となっている。

異なる文化的背景を持つ日本人学生と受入れ留学生が授業でのディスカッションを行い、その成果をインターネット上で発表するという形式を取るこの科目は、受講者が「母語+1言語」で活動することでつながる科目でもある。将来グローバル時代の科目と言ってよいだろう。

ネットを介した学生の異文化的つながりは、他のIGLOBE科目でも重視されている。例えば、『日本文法とディスコース』では、受講者は格助詞の機能に焦点を置いた構文分析法を習った後、実際に日本語のテキスト(昔話や社説)を分析するのだが、その分析結果の是非を受講者にディスカッションさせている。

つながりをもたらしているのはディスカッションだけではない。日本古来の演技でも学生はつながっている。『狂言で大分を学ぶ』では受講者はZoomを介して狂言の基本動作や発声法を学び、(Zoom通して観る)YouTube動画から、例えば、大分の大自然を知る。そして、大分の自然を謳う創作狂言が出来上がり、それを、海外参加の受講者が自宅の居間や自宅近く空き地で演じ、それを、多国籍の受講者がZoomで鑑賞するのである。狂言という日本の伝統芸が国境を越えた学生のつながりを生み出しているのである。

Zoomという新奇なツールを使うことを強いられたコロナ禍の授業であったが、そのお陰で色々な繋がりが生まれてきていることは特筆すべきことである。

表2. 原籍校別受け入れ状況

国名	原籍校	令和元	令和2	令和3
中国	内蒙古	3	3	9
	中南財形	5	0	5
	黒竜江	5	1	3
	北京林業	3	2	3
	遼寧師範	1	0	1
	香港	1	0	0
	深圳	5	1	0
	陝西師範	2	0	0
	河北師範	1	0	0
韓国	西京	5	1	2
	培材	0	0	1
	大邱	0	0	1
	釜山	2	0	0
	嶺南	3	0	0
	順天	2	0	0
	江南	1	0	0
	江陵原州	1	0	0
台湾	東海	1	0	1
	開南	1	1	0
タイ	コンケン	1	0	1
ハンガリー	カーロリ	1	0	0
合計		47	9	27

ただ、そのような Zoom も諸刃の刃であることも認識しておきたい。それを次の節で述べてみる。

4. 今後の課題と展望

IGLOBE (J) の報告書では、受け入れ留学生に関することを書くのが通例であるが、本稿では受け入れ留学生との協働学習における日本人学生の役割に焦点を当てて話をしてみたい。焦点となるのは日本人学生のコミュニケーション力である。ここが改善されれば、IGLOBE 科目の最大の特徴、日本人学生と受け入れ留学生の協働学習がより潤滑に行えることになる。

以下、『ソーシャルネットワークと大分からの発信 II』（以下『ソーシャル』）での事例で上記の問題を考えていく。因みに、『ソーシャル』は、日本語と英語を媒介言語とする科目である。

ブレイクアップセッションの機能

Zoom での授業は、周知の通り、教師と受講者のコンピュータ画面一つ隔てての対面の形を取る。教室での授業であれば、教師と受講者の間の「間（ま）」がある種の緩衝材となり、ゆっくりとした時の流れを作り出してくれることが多々ある。が、Zoom だと、そういった間は取りにくいのが実情だ。よって、間が最小限度に抑えられるとこととなるのだが、これは、授業で導入する情報量の増大を意味する。また、学習者は、授業内容に興味を失えばいつでも簡単に授業から脱落できる。そこで、それを防ぐ手立てとして、ブレイクアップセッションにおけるグループディスカッションがあるわけだ。だが、ここで日本人学生のコミュニケーション力がストレートに試されることになったようだ。

試された日本人学生のコミュニケーション能力

授業では、日本人学生と受け入れ留学生（以下「留学生」）との協働作業を行う為、日本人学生数と留学生数ができるだけ均等になるようにグループ分けを行い（但し、日本人学生の方が数が多い）、各グループでリーダーを選んでもらうのだが、この時日本人学生がリーダーに選ばれることが多い。問題は、日本人学生が留学生とディスカッションを行う時、日本人学生から留学生への情報提供が潤滑に行われないケースが発生したことだ。これはグループ内に英語話者の留学生がいる場合顕著であった。留学生と英語で話したいと申し出てきた日本人学生がグループ内に複数いたにもかかわらず、この意思疎通問題は起こっていた。グループ内の当該留学生は協働作業内容が理解できておらず、本来の実力を発揮できずに授業が終わってしまうところであった。

英語の話者である留学生と日本人学生との意思疎通がうまくいかなかったのは、多数派である日本人学生が日本語でディスカッションを始めると惰性でそのまま日本語でディスカッ

ションを続けてしまい、英語での説明を当該留学生に行わなかったのが直接的原因であったようだ。学期初めの頃は留学生に対してのケアはあったようだが、それが段々と薄れていったと考えられる。実は、こういった状況はコロナ以前にも観察されていたことではあったが、コロナ禍で Zoom で授業をやり始めて、頭わになったと考えられる。Zoom の授業では相手はだれであれ、意見交換の相手とはコンピュータ画面一つ隔て対峙することになる。このような一対一の情報伝達環境が生み出されることで、日本人学生のコミュニケーション能力がストレートに試されることとなった結果、それがコミュニケーション上のストレスとなり、留学生への情報提供が行われにくくなったのではないかと考えられるのである。

コミュニケーション向上の工夫の必要性

筆者が知る豪州の教育システムでは小学校 1 年次からスピーチの訓練が始まり、人を説得する話術を 12 年に渡って身に付けていく。そういった教育を受けてくる欧米からの留学生は言葉を用いての他者への情報伝達の重要性をよく心得ていると思われる。翻って、日本の言語教育にはそういったスピーチの訓練はないと言ってよいだろう。喋るよりも黙って人の言うことを聞く文化に育った日本人には話すことを通して相手に伝わるように伝えることが不得手であるのは不思議でも何でもないと言いきかかもしれない。ただ、学校教育において情報伝達の重要性を考えてこなかった日本人学生にいきなりその重要性を認識させるのには無理があるだろう。

そこで、来年度からは『ソーシャル』の授業では NASA が開発したコンセンサスゲームを取り入れ、グループ内での同意を得ながら一つの目的を達成するトレーニングを入れていく考えである。日本人学生のコミュニケーション能力が上がれば授業内での協働作業も今よりもきつとうまくいくだろう。その成果は来年度の IGLOBE (J) の報告書において報告する。

令和2年度後期－令和3年度前期の日本語日本文化研修留学生プログラムの実施報告

南里敬三

1. はじめに

本報告では、令和3年度前期終了の本学日本語日本文化研修留学生（以下「日研生」）による論文の内容紹介を行い、日研生指導での気づきについてまとめた後、今後の本学日研生プログラムの課題と展望について述べることにする。

2. 令和2年度前期提出論文について

本学では令和2年度後期から令和3年度前期までの期間に2名の日研生を受け入れた。令和2年度前期に日研生プログラムを修了したのは、ブイ・ティ・ホン・ズオンさん（大学推薦）、サンパーニット・ソーラヴィット君（大使館推薦）の2名であった。この2名が提出した論文は表1の通りである。

表1. 令和2年度前期に提出された日研生論文

氏名、原籍大学	国籍	論文のタイトル
ブイ・ティ・ホン・ズオン ベトナム国家大学 ハノイ校外国語学部	ベトナム	慣用句・諺における「水」から見た日本人の思考の特徴 --ベトナム語の慣用句と対比しながら--
サンパーニット・ソーラヴィット ブラパー大学人文社会学部	タイ王国	地方国立大学生へのコロナ禍の影響

簡単に論文内容の紹介をしておこう。

ブイさんの論文は、水という表現（又は概念）を含む日本語の慣用句100をベトナム語の慣用句98と比べて、日本人の思考にどのような特徴があるか調べてみた論文で、日本語の慣用句には「自然性」という神道的思考が抽出されるという。水の流れは世界と自然の移り変わりを象徴しており、日本人はこの移り変わりを尊重しているが、日本人にとってはその移り変わり、もしくは、水は非常に怖い世界であると結論付けている。

ソーラヴィットさんの論文はコロナ禍の大学生への影響について分析した。現在、コロナウイルスの感染拡大が全世界の人々に様々な影響を与えている。これは、日本でも例外では

なく、コロナ感染者の数が急速に増加している（令和3の現在）。大多数の人たちがコロナ禍の影響を受けており、大学生に与える影響も例外ではない。その影響は学習面や経済面など多岐に渡り、影響をポジティブに受け入れられる学生もいれば、そうではないものもいる。日本の大都市（東京など）ではコロナの感染者が多く、逆に、地方ではそのような大都市に比較すると非常に少ない。しかし、コロナ禍の影響が地方でも拡大していることは事実だ。そこで、地方に位置する国立大学（大分大学）の学生がどのような影響を受けているか、学習面、経済面、娯楽等を中心に調査を行い、分析をした。

3. 日研指導のまとめ

今回の論文指導に当たっての反省点を一点述べることにする。論文には二種類あると言える。一つはアンケートを行って仮説の検証を行うもの（「アンケート型論文」）と、もう一つはテキスト（例えば、新聞記事や文学作品）からデータを抽出して仮説の検証を行うもの（「テキスト分析型論文」）だ。論文の難易度から言えば、後者の方が前者より圧倒的に高い。これまでは、どちらのタイプの論文を書くかは日研生に全面的に委ねて来たのだが、これからは日研生が高度な抽象的議論を日本語で行うことが難しいと判断される場合は、後者は勧めるべきではないと改めて思った次第である。

仮説を立ててその仮説が正しいことを論じていくのが学術論文であるが、その際最も大きな問題となるのは仮説を証明する目的で収集したデータを分析することによって得られる何らかの陳述（これを「抽出陳述」と呼ぶ）が仮説を証明したことになっているか否かである。抽出陳述が仮説を証明していなければ、データの分析法を変えるか、データの収集法を変える必要が出てくる。但し、そこでデータの分析法、あるいは、収集法を変えた場合、仮説の修正も当然必要となってくる。抽出陳述が仮説を大きく離れている場合は、新たな仮説を設定することになるので、問題解決はある意味シンプルであると言える。問題なのは抽出陳述と仮説の乖離が微妙である場合だ。（つまり、抽出陳述が仮説を必ずしも肯定しているわけではないと結論付けられる場合だ。）この場合、アンケート型論文なら、仮説を支持しないアンケートの回答結果を分析から除外することで乖離を取り除くことが出来る。しかし、テキスト分析型はそうはいかない。データ収集が論文作成開始時の仮説に基づいて行われている結果、当初の仮説が収集されたデータ全体に色濃く反映されているからである。今回はそのようなケースが発生したのだが、分析するデータにふるいをかけ、仮説の修正を最小限度に食い止めることで事なきを得た次第である。ただ、この最小限度の修正は、日研生と何度もデータの分析結果を見直し数週間結論が全く見えない状況を経ての修正であったことを付け加えておきたい。当該日研生は勉強になったと言ってくれたが、データ分析結果の高度な抽象化が必要だったことを考えると、当該日研生には多大なストレスをかけたことは否めない。次回から日研生の日本語の能力をしっかりと見極めて論文指導に当たりたい。

4. 課題と展望

日本はとてもユニークな経済状態にある。戦争・紛争などで政治・経済的に異常な状態にある国を除き、日本のように過去四半世紀に渡って実質賃金が下がり続けている国は存在しない。優秀な日研生の獲得においてこれほどネガティブな要因は存在しないだろう。日本ブランドの衰退がすでに始まっていると考えるのが妥当だからだ。だが、ここに日本に来て学ぶべき研究対象が存在している。

経済の日本化

日本の実質賃金の下落だが、それは日本社会が先端テクノロジーを取り入れた作業の合理化を行って来なかったのが原因だと原田（2021）は言う。アトキンソン（2020a）も日本の中小企業が生産性の向上を怠ってきた事が賃金下落の根本的原因だと言う。アトキンソン（2020b）は日本の中小企業が単純作業の機械化を怠ってきた事に言及し、更に、生産性の低い企業を日本政府が保護してきたことも日本における実質賃金下落、あるいは、日本経済衰退の要因だと言う。

これに対し、労働者の実質賃金の下落は日本だけの現象ではなく、世界的な現象であると中野（2021）は指摘する。（原田は [2021] 米国において所得額において下位 50% の平均所得額は 1990 年から一貫して減少していることを指摘している。）中野（2021: 111-118）は、労働者の賃金低下の背後には、企業というものが株主中心の経営方針への転換を余儀なくされ、その結果、企業の成長のためのコストが「削減」され、株主への「配当」が極端に増えることとなってしまった現実がある、と述べている。ということは、世界的な労働者の実質賃金の下落の優等生が日本であるということになる。（なぜなら、日本におけるような実質賃金の低下は諸外国では起こっていないからだ。）日本経済の現状は行き過ぎた経済的グローバル化の結果だと言うことになるだろう。これは不名誉な称号と呼ぶべきものだが、この日本の経済現象は、対岸の火事ではないと見る向きが米国で起こっている。Pesek(2021)は日本の経済的衰退を「日本化」と呼んでおり、この日本化が他の先進諸国にも起こってきつつあると警鐘を鳴らしている。更に Pesek(2021)はこの経済の日本化の処方箋を日本自らが見つけてくれることも期待しているのである。

前置きが長くなったが、これが日本に日研生が来る意義である。では、日研生にどんな研究を行わせることが可能なのだろうか。筆者は日本におけるメディア研究と日本文化再考を挙げたいと思う。

マスメディア研究

よく聞かれる言説に、日本は国債の発行で国家破綻かそれに準ずる経済状況にいずれ落ち

込み、それを回避するには緊縮財政政策を取るしかない、という言説がある（小幡 2021）。が、国債は借金と呼ぶべき存在ではなく、国民に対する通貨の供給であるとの理論が存在する（中野 2021: 79-84）。この理論が正しいなら、国家破綻・財政緊縮論は幻想である可能性が高いということになるが、ただ、ここで留意したいのは国家破綻・財政緊縮論が真実か否かという点ではなく、それ以外の言説がなぜ現れてこないのかである。Nanri（2014）は財務省の主張と寸分たがわぬ議論が日本の全国紙及び多くの地方紙の社説に書かれていることを指摘している。これは記者クラブを介した記者と行政・立法との親密な関係が存在していることを示唆している。1980年代後半からマスメディアに対する批判がマスメディア内部から盛り上がり 1990年代まで続いたが、いまではマスメディアの中からの自己批判は全く聞こえてこない。いま、もう一度日本におけるマスメディアのあり方を考えるべき時ではないだろうか。『ソーシャルネットワークと大分からの発信2』では、これまでソーシャルメディアの存在意義をばかり考えてきたが、その存在理由をマスメディアのこれまで取ってきた政治的スタンス・機能と対比して見ていこうと考えている。実際にこの分野での研究はマスメディアが生産してきたテキストの内容分析になるが、こういった分析を通して、日本におけるマスメディアの特質が理解できるようになり、日本のマスメディアが訴える理論の穴が見えてくるようになる。その穴から覗いた日本経済は、従来言われている言説とは違う風景になる事だろう。

日本文化再考

日本のマスメディアの振る舞いは、日本が単一政党による独裁国家ではないことを考えると、政府との同調を目指す行為であり、日本的「和」を実現しようとするマスメディア内部からの自発的行為と考えることが出来る。ここでのキーワードはなんとなく出てくるマスメディアによる「同調」、言い換えれば、「自主規制」である。嘗てカレル・バン・ウォルフレン（1990）が指摘したように、責任の所在が明確ではなく、なんとなく政治的見解が維持されている、それが日本文化なのかもしれない。

過去四半世紀に渡って実質賃金が減ってきているのにもかかわらず、「身を切る改革」で増税を受け入れ、社会保障費の増加も仕方なしと受け入れてきた。なぜに、これほどまでに日本人は政府に同調的なのだろう？日本が素晴らしい政府を持っているからだろうか？

日本のマスメディア再考の時期は日本文化再考の時期でもあるだろう。日本の中山間地の町や村は神社・寺が中心的存在となっているが、そういった神社仏閣の荒廃は著しい。地方交付金の減額で宗教的遺産の継承が難しくなっている。にもかかわらず、緊縮財政が支持されているのは何故なのか。自らの文化が消滅していくとしても緊縮財政を取るメンタリティは何なのか？もしかしたらこのメンタリティが過去四半世紀に及ぶ実質賃金の下落の原動力なのかもしれない。いま仮に中野（2021）の言う通り、日本は財政危機状態にあるので

はないとの言説が正しいとすれば、病んだ日本文化への処方を考えることで、Pesek(2021)の期待に答えることが出来るのかもしれない。

今の日本ほど日研究生が学ぶことが多い時期は嘗てなかったのではないだろうか。

参考文献

アトキンソン, デービッド (2020a) 「日本は生産性が低い」最大の理由は中小企業だ/誰も言
い出さない「生産性の衝撃的な本質」 <https://toyokeizai.net/articles/-/339534>.

アトキンソン, デービッド (2020b) 「日本の労働生産性は「韓国以下」世界 34 位の衝撃/最新版
「世界ランキング」の凋落が止まらない」 <https://toyokeizai.net/articles/-/362247>.

小幡績 (2021) 「このまま行けば日本の財政破綻が避けられない決定的理由/「自国通貨持つ国
は安心」は大間違い」 <https://toyokeizai.net/articles/-/362247>.

中野剛志 (2021) 『変異する資本主義』東京：ダイヤモンド社.

Nanri, Keizo (2014) *Japanese Journalistic Communities: Politics, the Newspaper and Nico Nico Doga,*
Japanese Journalism and the Japanese Newspaper, New York: Teneo Press.

Pesek, William (2021) 「世界経済を襲う「日本化」、脱する道はあるか」
<https://shikiho.jp/news/0/471973>.

報 告

II. 日本語・日本文化研修留学生研究論文

地方国立大学生へのコロナ禍の影響

サンパーニット・ソーラヴィット

1. はじめに

現在、コロナウイルスの感染拡大が全世界の人々に様々な影響を与えている。これは、日本でも例外ではなく、コロナ感染者の数が急速に増加している（令和3年現在）。大多数の人たちがコロナ禍の影響を受けており、大学生に与える影響も例外ではない。その影響は学習面や経済面など多岐に渡り、影響をポジティブに受け入れられる学生もいれば、そうではないものもある。日本の大都市（東京など）ではコロナの感染者が多く、逆に、地方ではそのような大都市に比較すると非常に少ない。しかし、コロナ禍の影響が地方でも拡大していることは事実だ。そこで、地方に位置する国立大学（大分大学）の学生がどのような影響を受けているか、学習面、経済面、娯楽等を中心に調査を行い、分析をした。

2. 先行研究

コロナ禍で激変した大学生の生活や学習に関して様々な調査研究が行われている。調査研究の主体は当事者である学生を対象としたアンケート調査が主であり、収集されたデータを社会的、もしくは心理学的論点から分析している。先行研究では特にオンラインに移行した授業形態の影響、人間関係への影響、SNS利用やコミュニケーションスキルへの影響などについて注目している。国立教育政策研究所の大学生の学習実態に関する調査研究（2016）では、コロナの前の学習実態は、授業の出席時間や予習・復習の時間が、アルバイトの時間数と共に変容しており、または、学生たちが良い成績をとり、グループワークにある程度参加しているが、コロナ後、オンラインに移行した授業形態の影響で、この実態が変わる可能性が高いことを指摘している。

また、先行研究では、コロナが大学生の総合的な生活に様々な影響を与えており、このような激変した現状をポジティブに捉えられるかどうかの分析もなされている。例えば、SNSの使用時間、学習の効果、人間関係などの影響関係が深く関連するとも考えられる。コロナ禍における大学生の主観的幸福度（京都大学高等教育研究第26号、2020）に関する研究によると、このような状況でも調査対象の大学生の主観的幸福度に大きな変化はみられなかったが、SNSの使用時間、学習の効率、人との接触する機会などには、注目すべきところが見られる。この先行研究で特に注目すべき点は大学生の生活に欠かせないと思われるSNS利用とコロナ禍の影響である。SNSの使用時間について、過半数の学生のSNSの使用時間が3時間以上で

あり、男性より女性のほうが使用時間が長かった。また、SNS を使用する目的は、90%がコミュニケーションツールであり、78%が他人の投稿の閲覧、また、90%は情報収集のものとして使われている。しかし、SNS の使用時間と学生の幸福度に関係が見られなかった。

学習の効率について、コロナ禍では、3%が「よくなった」、「今の方が幸せ」、と回答している一方であり、35%が「悪くなった」、「以前の方が幸せ」を選択している。このような状況で、大学の多くの授業がオンライン化されており、オンライン授業のある意味距離を隔てた授業形態では、学生の集中力も下がる可能性が高く、それに伴って学習の効率が下がる可能性があるともいえる。

人との接触する機会に関しては、授業以外で人と接する機会が「とても減った」と回答した人と、「少し減った」と回答した人の人数は132人となり全体の92%であった。これは、ほとんどの学生が授業以外で人と接する機会が減少したと考えられる。しかしながら、この状況もコロナ現象の始まりから1年以上が経ち、学生も徐々に外出する機会が増加し、人と接触する機会も増加してくることが予想される。

更に、相対的な視点から考えると、コロナ禍では人との接触する機会も減少し、社会的スキルとしての対人関係やコミュニケーション力も減少する可能性も考えられる。特に、大学生にとって人間関係の根幹となる友人関係も以前と比較して疎遠になっている可能性も考えられる。また、アルバイトやサークル等の大学活動も厳しく制限されているため、人間関係やコミュニケーションスキルの関連からネガティブな影響を与えていると言えるだろう。

以上のような先行研究の分析を総合的にまとめると、コロナ禍で生活状況が悪化していると考えられる大学生も少なくないだろう。コロナ禍での生活は様々な面でネガティブな影響を与えており、ストレスが増加している学生も少なくない。しかしながら、その一方で、コロナ禍での生活様式の変容が大学生にポジティブな変化をもたらしている側面も少なからずみられる。

本稿では先行研究が分析の論点としたコロナ禍での大学生の学習、生活面、人間関係のファクターを同様に分析の中心とし、コロナ禍の大学生への影響について分析する。この分析では、特に地方の国立大学の大学生に調査対象を限定することで、先行研究とは異なった調査結果が見られる可能性もある。また、この研究では特にコロナ禍で大学生のマインドがどのような状態にあるのかについて注目したい。コロナ禍が地方国立大学生の心理状態にどのような影響を与えているか、大学生はこの状態をポジティブもしくはネガティブに捉えているのか、また、ストレスの度合いに関係があるのかという視点から分析を行いたい。

3. アンケート調査と分析

地方国立大学生へのコロナ禍の影響について、調査を行った結果、様々なデータが収集でき、その分析を行った。

【フェイスシートのデータ分析】

アンケート調査対象を大分大学正規学生に限定し、85人の学生から回答があった。そのうち男性が49.1%（42人）であり、女性も同様に49.1%（42人）、その他が1.2%（1人）だった。学年について、調査を回答した人の内、1年生が最も多く、39人（45.9%）となった。次いで、2年生（25.9%）、3年生（18.8%）、4年生（7.1%）、大学院生は2人（2.4%）となっている。

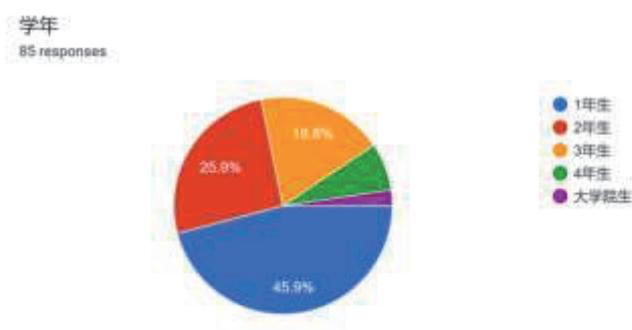


表1：学年

学部については、「経済学部」の割合は41.2%（35人）であり、最も多い。次いで、「理工学部」（27.1%）、「教育学部」（18.8%）、「福祉健康科学部」（7.1%）、最後は「医学部」の5人（5.9%）となっている。

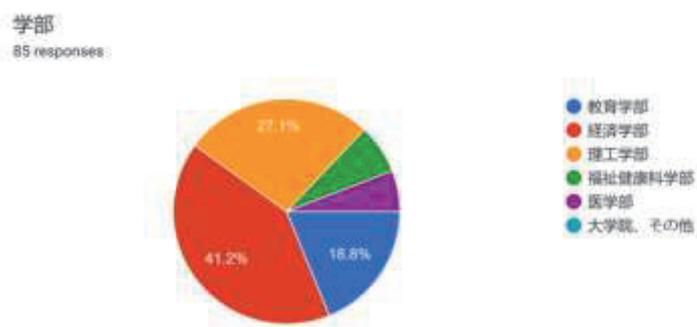


表2：学部

居住形態については、「一人暮らし」は54.1%（46人）であり、「家族」は41.2%（35人）である。また、その他は4人（4.7%）となった。

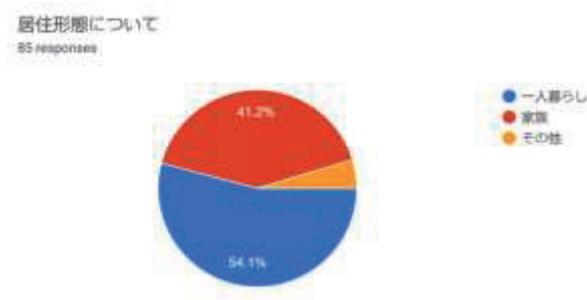


表 3：居住形態について

【コロナの影響について】

コロナの影響による心理的な変化についての質問をした。コロナ禍で生活の辛さを感じた学生では、「強く思う」や「思う」と回答した人の割合は 63.3% (54 人) であり、半数以上である。その一方、「思わない」や「全く思わない」と回答した人の割合は 17.7% (15 人) である。また、コロナ禍でストレスが増加したと感じた学生では、「強く思う」や「思う」と回答した人の割合は 58.8% (50 人) である。一方、「思わない」や「全く思わない」と回答した人の割合は 21.2% (18 人) である。これは、地方大学の学生はコロナの影響が大きく、生活の辛さやストレスを感じる学生が半数以上いるが、あまり影響を受けず、コロナ禍でも自分の生活が以前と変わらないが、生活の辛さやストレスを感じるかどうかはどちらとも言えないと思う学生がいると考えられる。

しかし、「コロナにかかった人は自業自得だと思いますか」という質問では、「思わない」や「全く思わない」と回答した学生の人数は「強く思う」や「思う」と回答した学生より多い。

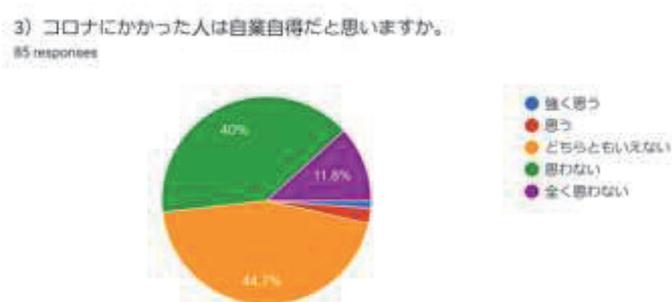


表 4：コロナにかかった人は自業自得だと思いますか

先行研究である京都大学の研究者の大学生を対象とした調査 (2020) では、コロナに感染した理由は「本人のせいである」と回答した学生は 6 割以上いると示している。これは、地方 (九州) のコロナ状況は、大都市と比較すると、感染者数が少なく、大都市圏の地方との状況の差が、このようなコロナ感染の責任度に関する認識の違いをもたらせているのではない

かと考えられる。先行研究では日本人の国民性への言及があり、「自己を律する」ことが求められる日本社会ではコロナ感染者への責任論が他国に比べて大きいと分析されていた。大都市での日本国民性が地方では若干緩やかになるのか（例：地方に居住する日本人の寛大な村意識など）と言う議論も可能であるが、この論文では議論提議に留め、将来の研究につなげたいと思う。

また、「コロナ禍の影響で自分の性格が変わったと思いますか」という質問では、「思わない」や「全く思わない」と回答した学生は5割以上おり、「強く思う」や「思う」と回答した学生は23.5%（20人）となった。このような結果は、ストレスが増加しても自分の性格が変わらないと思う人が多い一方で、ストレスが増加したと思わない人は性格が変わったと思う人や思わない人もいると分類される。更に、ストレスが増加したと思う人の中でも、性格が変化したと思う人が11人くらいいる。その一方で、ストレスが増加したと感じる人の中で自分の性格が変化しないと思う人が24人くらいおり、最も多かった。

次に、コロナ禍の間、一番困っていることについて質問したが、一定の傾向が浮かび上がってきた。大きく共有される点は、「友達ができないこと」や「外出が制限されること」などである。この問題を学年のクラスターに分けると、1年生が最も多く、これは授業がオンライン化され、教室内での交流機会が激減した影響だろうと考えられる。また、「外出が制限されること」を挙げた学生たちは、外で遊べなくなったことだけではなく、友達に会えなくなり、更に、大分県外の学生は帰省できなくなったなどの悩みに繋がると考えられる。

【大学での学習について】

オンライン授業へ移行した授業形態の効果や影響についての質問を行った。授業がオンラインになると、集中力が下がると感じたかという質問では、「強く思う」や「思う」と回答した学生が7割以上いる。その一方で、オンライン授業はいつもの授業より疲れを感じた学生の割合は50.6%（43人）であり、「感じない」や「全く感じない」と回答した学生の割合は27%（23人）である。また、「オンラインと対面、どちらのほうが学習効果があると思いますか」という質問では、対面と回答した人が78.8%（67人）、オンラインが21.2%（18人）であった。また、オンラインではその環境から誘惑が多いため、集中力が下がると思う人もおり、対面のほうが集中しやすいという意見も見られる。また、オンライン授業の方が学習効果があると回答した人たちにはオンデマンド形式を挙げた学生もいた。これらの学生は、「オンデマンド」は何回も繰り返し見ることができ、個々の学生が自分のペースで学習することに適しており、その結果、オンライン授業の方が学習効果が上がっているという学生もいると考えられる。加えて、理想の授業形式について質問したが、もちろん、対面と回答した人は多いが、オンラインと対面のハイブリッド型が好ましいという意見も多い。例えば、「英語科やゼミなど、会話をすることでより内容を深めたり考えたりできる科目は積極的に対面を

実施し、一方的に講義を聞くという科目はオンラインで対応する」(教育学部 1年生)や「オンラインで対応できるような教科は、オンラインで良いが、専門教科や実験は対面で行う」(理工学部 2年生)などという意見が出た。

【生活や健康について】

コロナ禍で最も多い食事方法は「自炊」であり、79.8% (67人)である。次いで、「外出」や「テイクアウト・出前」の割合は各方法では4.8% (4人)であり、「その他」は10.7% (9人)であった。また、現状での食事方法に「強く満足している」や「満足している」と回答した人は、7割以上である。更に、「コロナ禍でなければ現在の食生活はもっと良くなると思いますか」という質問では、「思わない」と「全く思わない」と回答した人が5割以上と多く、自身の食事方法がコロナ禍にあまり影響されていないと思う学生が多いと考えられる。

睡眠時間について、最も多いのは「7時間以上8時間未満」(36.1%)である。次いで、「6時間以上7時間未満」(26.5%)、「5時間以上6時間未満」(16.9%)である。更に、「5時間未満」(13.3%)となり、「8時間以上9時間未満」や「9時間以上」と回答した人は少なかった(3.6%)。また、「コロナ禍で、寝不足だと感じますか」という質問では、「感じない」や「全く感じない」と回答した人の割合は61.5% (51人)であり、「感じる」や「強く感じる」と回答した人の割合は21.7% (18人)である。この結果を見ると、睡眠時間はコロナ禍での大学生に大きな問題とはなっていないと考えられる。

また、コロナ以前と比較し、健康が悪くなったと感じたかという質問では、「感じない」や「全く感じない」と回答した人の割合が51.8% (43人)であり、「強く感じる」や「感じる」と回答した人が34.9% (29人)である。「強く感じる」や「感じる」と回答した人は、学習や生活に影響していると考える人が6割以上いる。しかし、「感じない」や「全く感じない」と回答した人の割合は23.3% (7人)となっており、健康が悪くなっても、大きな問題ではないと思う人も一定数いることがわかった。

SNSについて、利用時間が一番多いのは、「4-9時間」(48.2%)である。次いで、「1-3時間」(29.4%)であり、「1時間以下」(15.3%)、「10時間以上」(7.1%)となった。先行研究の結果と本アンケートのデータを比較すると、どちらも約半数の学生が3時間以上となっており、大きな差異が見られなかった。加えて、コロナ以前と比較し、SNS利用時間が増加したかという質問をしたが、「大いに増えた」や「増えた」と回答した人の割合は73% (62人)であり、非常に多かった。「減った」と回答した人の割合(2.4%)と比較し、大きな違いが見られた。更に、「大いに増えた」や「増えた」と回答した人は自分の生活にネガティブな影響があると思うかという質問では「ある」と回答した人が55.6% (35人)であり、「ない」と回答した人が44.4% (28人)である。加えて、「ある」と回答した人はどのようなネガティブな影響かという質問したが、特に多いのは「授業中にスマホを使ってしまうこと」、「視力

の低下」、「姿勢への影響」、または「心理的な悩み」などである。

SNSの利用目的については複数選択可と質問を設定し、「情報収集」と回答した人の割合は76.2%であり、最も多い。次いで、「娯楽」(72.6%)、「投稿等の閲覧」(71.4%)、「コミュニケーションツール」(67.9%)、「自己発信」(22.6%)である。更に、回答者が選択したSNSの利用方法に満足しているかと質問したが、「大いに満足している」や「満足している」と回答した人の割合が84.7%(72人)である

【友人関係について】

コロナ以前と比較し、友人との連絡が増加したかという質問では、「大いに増えた」や「増えた」と回答した人の割合が24.7%(21人)であり、「減った」や「大いに減った」と回答した人の割合が36.5%(31人)であるが、想定したような大きな差は見られなかった。一方、友人とのコンタクトについて、「オンライン」で友人と連絡する機会のほうが「対面」より1割くらい多かったが、「オンライン」と回答した人は友人と心が離れたと感じるかという質問では、「感じない」や「全く感じない」と回答した人の割合が41.1%(23人)であるが、「感じる」や「大いに感じる」と回答した人の割合が35.8%(20人)であり、想定していたような選択肢の割合よりも差が小さかった。オンラインで友人とコンタクトすることは心が離れたと感じさせると思う人がいることは間違いない。しかし、コロナ禍で、友人との関係が悪くなったと感じるかという質問では、「全く感じない」、「感じない」、「変わらない」と回答した人の割合が94.1%(80人)であり、心が離れても関係性は変わらないと思う人が大きな割合を占めている。

【外出や人との接触について】

コロナ禍で、外出の回数が減少したと思う人や強く思う人の割合は、92.8%(78人)であり、「思わない」と回答した人の割合が3.6%(3人)である。また、「コロナ禍で、外出の回数が減ったと感じますか」という質問で「強く思う」や「思う」と回答した人の中で、「孤独感が増していると思いますか」との質問に対し、「思う」や「強く思う」と回答した人の割合が51.3%(39人)であり、「思わない」と「全く思わない」と回答した人の割合が33.3%(26人)であった。これはコロナ禍で外出が制限されるため、人(特に友人)に会えなくなり、孤独感が増したためと予想できる。

また、「混雑した場所にいるとき、コロナになる不安がありますか」という質問では、「強くある」や「ある」と回答した人の割合が69.6%(59人)であり、「ない」や「全くない」と回答した人の割合が17.6%(15人)となった。このデータからは、外出することに制限があるなしに関わらずコロナになる不安がある人が一定数いることが考えられる。更に、バスや電車などの交通機関を使うとき、コロナになる不安がある人の割合も61.2%(52人)、「ない」

や「全くない」と回答した人の割合が21.2%（18人）であった。交通機関を使うときに、コロナになる不安がある人の割合は人数は半数以上であったが、アンケート前に想定していた割合を下回った。これは、若者である大学生が持つコロナへの感染不安が、中高年と比べると少ないことが要因として挙げられる可能性もある。

【趣味について】

「コロナ禍で、自分の趣味を楽しめる時間が増えましたか」という質問では、6割以上の人が「大いに増えた」や「増えた」と回答した。また、現在の趣味に対する考えがポジティブに変化したと思う、強く思うと回答した人の割合は、45.2%（38人）である。加えて、現在の趣味をコロナ禍以前のように楽しめているかという質問では、「強く思う」や「思う」と回答した人の割合が49.4%（42人）である。更に、コロナは趣味にどのような影響を与えているのかという質問では、主な回答が二つに分けられる。一つ目は「インドア趣味」である。「インドア趣味」を回答した人の中には、「趣味の時間が増える」や「新しい挑戦ができる」などのような意見が見られる。しかし、全体の生活がオンライン化されると飽きやすいと回答した人もいる。そして、二つ目は「アウトドア趣味」である。「アウトドア趣味」を回答した人の中では、「外出が制限されるため、趣味ができない」や「部活が制限されるため、趣味ができない」という意見が見られ、これはコロナ禍において「アウトドア趣味」では様々な活動が制限され、自分の趣味が十分に楽しめる機会がなかったとも言える。一方、バイクやランニングなど個別で行える趣味の時間が増えたと回答した人もいる。しかしその一方で、運動の時間が減少したと回答した人もいる。これは、「インドア趣味」、「アウトドア趣味」に限らず、コロナ禍に置かれた状況をポジティブに考えるか、ネガティブに考えるかが影響を与えているとも考えられる。

【サークル活動について】

「コロナ禍で、サークル活動ができましたか」という質問では、「できなかった」や「全くできなかった」と回答した人の割合が9割以上であり、非常に高く、これは大学が要請した活動自粛や人数制限が理由になって、サークル活動ができなかった学生が大半であったと理解できる。一方、「できた」と回答した人は一人に限られた。また、サークル活動ができなかった学生で大学生生活の満足度にマイナスの変化があったと思う人の割合が75%（42人）であり、これはサークル活動が大分大学の大学生にとって一つの大切な役割を果たしていると考えられる人が多いことが分かった。

また、大学生生活の満足度にマイナスの変化があった人の中では、どのような面でマイナスの変化があったと思うかと質問した。複数選択可と質問を設定し、その結果、「学生同士の間関係」と回答した人の割合は95.2%であり、最も多かった。次いで、「生活面」（50%）、「学習面」（21.4%）、「教員との人間関係」（14.3%）、「就職活動」（9.5%）である。加えて、その

結果をナンバリングの形で設定したが、「学生同士の間関係」が一位であり、「生活面」が二位になった。「学習面」、「教員との人間関係」、「就職活動」は回答者によって異なっている。これは、やはりコロナが「学生同士の間関係」や「生活面」に大きな影響をもたらし、学生がマイナスの変化として認識していることを裏付けている。

【ボランティア活動について】

対象者の85人の内、45人がこの項目に回答した。「コロナ禍で、ボランティア活動ができましたか」という質問では、「できなかった」や「全くできなかった」と回答した人の割合が約8割であり、「できた」や「よくできた」と回答した人の割合が8.8%（4人）となった。

「できた」、「よくできた」と回答した人の中で、「留学生の支援活動」を挙げている人が含まれる。これは、少数ではあるが、コロナ禍の中でも、オンラインでの活動などを中心に異文化理解やグローバルな共生に関心があり、その実現に向けて実践している学生がいることがわかり、このような閉塞感がある状況で一つの光となっている。更に、「できた」や「よくできた」と回答した人の中で、ボランティア活動が自分自身の学習や就職のためになったと思う人が3人いるが、「どちらともいえない」と回答した人は一人となった。

【アルバイトについて】

「コロナ禍で、アルバイトは減りましたか」という質問では、「どちらともいえない」と回答した人の割合が最も多く、64.1%（41人）である。次いで、「大きく減った」（15.6%）、「減った」（10.9%）、「増えた」（9.4%）となった。アルバイトが減ったと回答した人の割合は、26.5%（17人）と言う事になる。また、アルバイトが減少した理由についても質問したが、「客数が減少した」や「臨時期間の影響」などが多くあげられている。これは、臨時期間の影響のため、客数が減少したことによって大学生のアルバイトの機会が削減されたとも考えられる。更に、「大きく減った」や「減った」と回答した人は、不満やストレスが大きくなったと思うかという質問では、18人が「強く思う」や「思う」と回答し、その割合が44.4%（8人）であり、「思わない」が27.8%（5人）、「どちらともいえない」が27.8%（5人）となった。これは、アルバイトの減少のため、不満やストレスが増加したと感じる人が一定数いると言える。

【学生の意見】

調査対象者からのコロナ禍についてのコメントを抜粋する。これらの学生からの生の声は上記の分析結果に更なる信憑性を与える。

- 「コロナ禍以前も以降も一長一短。オンラインは楽で嬉しいが、友人に会えないのは寂しくて辛い。家に閉じこもってばかりで不健康。等々いい事、悪い事両方ある。自由に使える時間が増えた人は趣味や資格の勉強に利用する。友人がいなければSNSで作

る。たしかに人生を楽しみにくくなっているが、コロナのせいにはいけないと思う。あと、絶対に対面授業の方が学力は上がると思う。ある程度の先生からの監視、圧力がある事で授業に集中できる。わからないところがあれば友人と共有できるし、空きコマでは図書館や食堂で予習、復習ができる。しかしオンラインの方が圧倒的に楽なので対面を反対する学生の気持ちもわかる。経済面でもオンラインの方がアルバイトがしやすく、便利ではあると思う」(理工学部 4年生)

- 「基本的にインドア派なので、コロナ生活は全くつらいとは感じません。ただ、友達ができにくかったり、せっかく時間のある学生生活の中で気軽に旅行したりできないのがすごく残念です。また、留学もしたかったので早く落ち着いてほしいと思っています。」(経済学部 2年生)
- 「いくら我慢しても、自粛しない人がいるのでそれが結構ストレスだけど、自分の大切な人に感染させるわけにはいかないので、これからも必要以上に出かけるのはなるべく控えようと思う。」(医学部 1年生)

4. おわりに

行なったアンケート調査結果を分析すると、予想していた結果や先行研究から分析したことは異なっていることがわかる。元々、地方大学(九州)の大学生の心理状態に対するコロナ禍の影響について分析するために調査を行ったが、意外な結果が見られた。勿論、大学生に対する生活の辛さやストレスの増加などの影響も見られたが、それらのことよりも、「生活に対する影響」のほうが大きいことがはっきりした。ポジティブもしくはネガティブな影響でも、地方大学(九州)の学生の様々な考え方が浮き彫りになったことがこの研究調査の成果としてあげられる。更に、影響だけではなく、記述式の質問からの意見の中でも活用できるアイデアも発見することができた。この分析を第一歩にして、今後はこの感性症の影響が長く続いている状況で、どのように大学生の心理状況が変化していくのかの研究につなげることができる。

参考文献

- 北條睦実子・戸城美佑・遠山美樹・中里英史・古川真守・城越望・下村昂平・森脇真人・石原慶一(2020)「〈招待論文：学内論考〉コロナ禍下における大学生の主観的幸福度」『京都大学高等教育研究』第26号, pp. 41-50
- 橋本剛(2021)「コロナ禍初期における大学生の心理社会的ストレスに関する探索的検討：社会規範としての援助要請スタイルの効果も含めて」『人文論集』第71巻, 第2号, pp. 15-34

- 加納寛子（2020）「コロナ禍における高等教育でのオンライン授業の可能性について～学生のオンライン授業のための通信環境と ICT 機器の所有状況に関する調査より～」『日本科学教育学会第 44 回年会論文集』 pp. 521-524
- 栗田智未・内野悌司・小島奈々恵・黄正国・大島啓利（2019）「大学生が困っていること及び関連する心理的要因 —— 日本人大学生のインターパーソナルな問題について——」『健康科学研究』第 3 巻，第 1 号，pp. 9-20
- 峰尾菜生子（2017）「大学生における日本社会に対する社会観の特徴 —— 自由記述に基づく社会観尺度の作成と妥当性の検討——」『青年心理学研究』第 28 巻，第 2 号，pp. 67-85
- 国立教育政策研究所（2016）「大学生の学習実態に関する調査研究について（概要）」 (https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf06/160330_gaiyou.pdf)
（2020 年 12 月 20 日取得）
- 峰尾菜生子（2019）「大学生の自己および他者に対する信頼感が社会観に与える影響」『青年心理学研究』第 31 巻，第 1 号、pp. 45-53

参考資料

実施したアンケート

【基礎情報】

- ・性別（選択式）：「男性」「女性」「その他」
- ・学年（選択式）：「1 年生」「2 年生」「3 年生」「4 年生」「大学院生」
- ・学部（選択式）：「教育学部」「経済学部」「理工学部」「福祉健康科学部」「医学部」「大学院、その他」
- ・専攻（記述式）：
- ・居住形態について（選択式）：「一人暮らし」「家族」「その他」

【コロナの影響に関する質問】

- 1) コロナ禍で生活が辛いと思いますか（選択式）：「強く思う」「思う」「どちらともいえない」「思わない」「全く思わない」
- 2) コロナ禍でストレスが増えたと感じますか（選択式）：「強く思う」「思う」「どちらともいえない」「思わない」「全く思わない」
- 3) コロナにかかった人は自業自得だと思いますか（選択式）：「強く思う」「思う」「どちらともいえない」「思わない」「全く思わない」
- 4) コロナ禍の影響で自分の性格が変わったと思いますか（選択式）：「強く思う」「思う」「どちらともいえない」「思わない」「全く思わない」
- 5) コロナ禍の間、一番困っていることは何ですか（記述式）：

【大学での学習について】

- 1) 授業がオンライン化になると、集中力が下がると感じますか（選択式）：
「強く思う」「思う」「どちらともいえない」「思わない」「全く思わない」
- 2) オンライン授業で勉強しているとき、いつもの授業より疲れたと感じますか（選択式）：「強く感じる」「感じる」「どちらともいえない」「感じない」
「全く感じない」
- 3) オンラインと対面、どちらのほうが学習効果があると思いますか（選択式）：
「オンライン」「対面」
- 4) 3)の選択肢を回答した理由を教えてください（記述式）：
- 5) 自分が理想とする授業形式について書いてください（記述式）：

【生活や健康について】

- 1) コロナ禍で、食事はどの方法が最も多いと思いますか（選択式）：「自炊」
「外出」「テイクアウト・出前」「その他」
- 2) 1)で選択した食生活に満足していますか（選択式）：「強く満足している」
「満足している」「どちらともいえない」「満足していない」
「全く満足していない」
- 3) コロナ禍でなければ現在の食生活はもっと良くなっていたと思いますか（選択式）：「強く思う」「思う」「どちらともいえない」「思わない」
「全く思わない」
- 4) コロナ禍で、睡眠時間はどのくらいですか（選択式）：「5 時間未満」
「5 時間以上 6 時間未満」「6 時間以上 7 時間未満」「7 時間以上 8 時間未満」
「8 時間以上 9 時間未満」「9 時間以上」
- 5) コロナ禍で、寝不足だと感じますか（選択式）：「強く感じる」「感じる」
「どちらともいえない」「感じない」「全く感じない」
- 6) コロナ以前と比べてコロナ禍で健康が悪くなったと感じますか（選択式）：
「強く感じる」「感じる」「どちらともいえない」「感じない」「全く感じない」
- 7) 6)で「強く感じる」、「感じる」を選択した方は、学習や生活に影響していると思いますか（選択式）：「強く思う」「思う」「どちらともいえない」
「思わない」「全く思わない」

【SNS について】（SNS を利用している方のみ）

- 1) コロナ禍で SNS の利用時間は毎日何時間くらいだと思いますか（選択式）：
「1 時間以下」「1-3 時間」「4-9 時間」「10 時間以上」
- 2) コロナ以前と比べて、SNS 利用時間は増えましたか（選択式）：
「大いに増えた」「増えた」「変わらない」「減った」「大いに減った」

3) 2)で「大いに増えた」、「増えた」と回答した方は自分の生活にネガティブな影響があると思いますか（選択式）：「ある」「ない」

3.1 「ある」と回答した方はどのような影響か教えてください（記述式）：

4) SNS を何のために利用しますか（複数選択可）：

「投稿等の閲覧」「自己発信」「情報収集」「コミュニケーションツール」
「娯楽」

5) 4)で選択した SNS 利用に満足していますか（選択式）：「大いに満足している」
「満足している」「どちらともいえない」「満足していない」
「全く満足していない」

【友人関係について】

1) コロナ以前と比較して、コロナ禍で友人との連絡は増えましたか（選択式）：

「大いに増えた」「増えた」「変わらない」「減った」「大いに減った」

2) コロナ禍で、友人とのコンタクトは対面とオンライン、どちらのほうが多いと思いますか（選択式）：「対面」「オンライン」

3) 2)で「オンライン」と回答した方は、友人と心が離れたと感じますか

（選択式）：「大いに感じる」「感じる」「どちらともいえない」「感じない」
「全く感じない」

4) コロナ禍で、友人関係が悪くなったと感じますか（選択式）：「大いに感じる」
「感じる」「変わらない」「感じない」「全く感じない」

【外出や人との接触について】

1) コロナ禍で、外出の回数が減ったと感じますか（選択式）：「強く思う」「思う」
「どちらともいえない」「思わない」「全く思わない」

2) 1)で「強く思う」、「思う」と回答した方は孤独感が増していると思いますか（選択式）：「強く思う」「思う」「どちらともいえない」「思わない」
「全く思わない」

3) 2)で「強く思う」、「思う」と回答した方は、学習面や生活面で影響が出ていると思いますか（選択式）：「強く思う」「思う」「どちらともいえない」
「思わない」「全く思わない」

4) 混雑した場所にいるとき、コロナになる不安がありますか（選択式）：
「強くある」「ある」「どちらともいえない」「ない」「全くない」

5) バスや電車などの交通機関を使うとき、コロナになる不安がありますか（選択式）：「強くある」「ある」「どちらともいえない」「ない」「全くない」

【趣味について】

1) コロナ禍で、自分の趣味を楽しめる時間が増えましたか（選択式）：

「大いに増えた」「増えた」「変わらない」「減った」「大いに減った」

2) 現在の趣味に対する自分の考えがポジティブに変わったと思いますか（選択式）：

「強く思う」「思う」「どちらともいえない」「思わない」「全く思わない」

3) 現在の趣味をコロナ禍以前のように楽しめていると思いますか（選択式）：

「強く思う」「思う」「どちらともいえない」「思わない」「全く思わない」

4) コロナが自分の趣味にどのような影響を与えているのか教えてください

（記述式）：

【サークル活動について】（サークル活動をしている方のみ）

1) コロナ禍で、サークル活動ができましたか（選択式）：「よくできた」「できた」

「どちらともいえない」「できなかった」「全くできなかった」

2) 1)で「できなかった」、「まったくできなかった」と回答した方は大学生生活の

満足度にマイナスの変化があったと思いますか（選択式）：「強く思う」「思う」

「どちらともいえない」「思わない」「全く思わない」

3) 2)で「強く思う」、「思う」と回答した方はどのような面でマイナスの変化が

あったと思いますか。該当するものすべてを選んでください（複数選択可）：

「(1) 学習面」「(2) 学生同士の人間関係」「(3) 教員との人間関係」

「(4) 就職活動」「(5) 生活面」

4) 3)で選択したものにマイナス度が強いものからナンバリング（例：1 . 2 .

3）してください（ナンバリング）：

【ボランティア活動について】（ボランティア活動をしている方のみ）

1) コロナ禍で、ボランティア活動ができましたか（選択式）：「よくできた」

「できた」「どちらともいえない」「できなかった」「全くできなかった」

2) 1)で「よくできた」、「できた」と回答された方はどのようなボランティアに

参加したか簡潔に書いてください（記述式）：

3) 1)で「よくできた」、「できた」と回答された方はボランティア活動が自分

自身の学習や就職のためになったと思いますか（選択式）：「強く思う」「思う」

「どちらともいえない」「思わない」「全く思わない」

【アルバイトについて】（アルバイトをしている方のみ）

1) コロナ禍で、アルバイトは減りましたか（選択式）：「大きく減った」「減った」

「どちらともいえない」「増えた」「大きく増えた」

2) 1)で「大きく減った」、「減った」と回答した方は、その理由を教えてください

（記述式）：

3) 1)で「大きく減った」、「減った」と回答した方は、不満やストレスが大きく

なったと思いますか（選択式）：「強く思う」「思う」「どちらともいえない」

「思わない」「全く思わない」

【自由記述】

その他ご意見等ありましたら、どんなことでも書いてください（記述式）：

慣用句・諺における「水」から見た日本人の思考の特徴 —ベトナム語の慣用句と対比しながら—

ブイ・ティ・ホン・ズオン

「自然が直接に風土を決定するものでなく、自然に立ち向かう人間が、そして人間生活の広がりである社会関係が、自然を一つの風土へと転化せしめて行くのである」(...)。このような典型が、日本のかんがい農業の歴史であり、そこから日本民族の「水社会」—土地と水と人間がワンセットになった村落共同体—が形成され、それが現代においても未だに日本人の精神や思考・行動様式の基底を形づくっているといわれている。

(大橋 2011)

1. はじめに

水は人間の生命と文明にとって重要な要素である。したがって、水は人間の考え方に強い影響を及ぼすものと考えられるが、水の持つ意味は国によって異なると言える。本稿では、「水」にまつわる諺・慣用語句の分析を通して、日本文化の特徴を浮き彫りにして行きたいと思う。

文化を知る手立てとして民間伝承がある。その国の長い歴史の中で生まれてきた民間伝承は、その国の文化のアーカイブである。それゆえ、その国の文化について学びたいときは、その国の民間伝承について学ばないわけにはいかない。中でも、民間伝承の中で生活に最も身近なものである諺や慣用句は、その国の民族の知恵や独特の発想の宝庫となっている。しかしながら、残念なことに、こういった諺・慣用句（以下「慣用句」と呼ぶ）の分析を通しての文化研究はあまり多くないようだ。特に、本稿が取り上げる「水」という表現を含む慣用句が意味する文化的価値について議論している研究は見受けられない。そのため、「水」に関わる慣用句の分析を通しての日本文化研究を本稿のテーマとした。この研究が、日本文化研究の更なる発展に貢献できれば幸いである。

2. 先行研究

諺・慣用語句を研究することで、その国の文化的特徴を理解することができる。山口仲美(n.d.)によると、慣用句は、現在まで残ることなく消えてしまった他の表現に比べて、長い年月を耐えぬいた卓越した表現であると言う。このような表現には、その民族の長い間の知恵や発

想が蓄積されているからだ。翻って、日本語における慣用語句の研究を見てみると、認知的視点から文化に迫るアプローチがある事が分かる。

日本の慣用語句の研究は、1940年代の白石大治の研究に始まる（呉琳 2017）。白石の一連の慣用語句研究は、慣用語句研究への萌芽段階にあるもので、慣用語句がどういうものであるかという本質的な規定を確立させることが出来なかったという（呉琳 2017）。その後、中村(1977)が固定された連語が意味の抽象化を起し慣用語句となったとの理論を展開し、中村(1985)では身体部位詞を含む慣用語句を取り上げ、慣用語句形成における比喩性の意義へと慣用語句の認知的研究が進んでいくことになる。その多くがどちらかと言えば普遍論的心理学的アプローチである。この慣用語句研究にあって、文化的特質の抽出を試みるアプローチも出てくる。支・吉田(2003)がその一例である。支・吉田(2003)は日本語の「目」の意味と中国語の「眼」の意味を3種類に大別し、日中両言語における、認知的共通項の抽出を試みているのである。この共通項の抽出の試みは将に、日本語とその他の言語の認知的相違点の抽出に使えることは間違いない。残念ながら慣用語句の認知論的アプローチからは日本文化の特異性を抽出する研究は現れてきていないようだ。だが、先に述べたように、慣用語句にはその慣用語句が用いられている文化の考えが蓄積されていることは間違いない。

本稿では「水」という視点から慣用語句を分析し、日本文化の特質を抽出したいと思う。

3. データ選定と分析手順

3.1 データの収集法

本稿では、先述の通り水をテーマとした日本の（よって日本語）の慣用語句を分析していくが、日本語の特徴を際立たせるためにベトナム語（よってベトナム語）における水をテーマとする慣用語句との比較も行う。（但し、飽くまでも主たるデータは日本語の慣用語句である事は言うまでもないが。）

日本語のデータは、米川明彦・大谷伊都子編『日本語慣用語句辞典』、小学館国語辞典編集部『例解学習ことわざ辞典』及び、ことわざ辞典オンラインと Jlogos のオンラインの情報源から収集した。収集した日本語の慣用語句は合計で 100 であった。

ベトナム語の「水」（nước）の単語を含む慣用語句は、Nguyen Lan による「Từ điển Thành ngữ - Tục ngữ Pháp - Việt」（フランス語とベトナム語における慣用語句の辞典）、Nguyen Luc と Luong Van Dang による「Thành ngữ tiếng Việt」（ベトナム慣用語句）から収集した。収集したベトナム語の慣用語句は合計で 98 であった。

3.2 データの分類法

岩戸（n.d.）が指摘しているように、慣用語句とは教訓あるいは何らかの哲学の伝授をするものが多いようだ。本稿では慣用語句中に用いられている水の機能・意味に注目して慣用語句を分

類し、ベトナム語の慣用句との比較も交えてながら、慣用句全体が意味する教訓・哲学を抽出しながら、データ中に現れている日本的思考の特殊性を抽出していく。(但し、次節に述べるように収集したデータ全ての分析はできなかった。) 分類法は次節で説明する。

3.3 分析手順

本稿ではまずデータの慣用語句をそのテーマに基づいて7つのグループに分け、グループごとにその特徴を解説し日本的思考を抽出していく。(表1参照の事。)

表1.データの分類

	自然			流動性	二者の 関係	清爽性	魂を慰 める水	その他	特殊
	自然の 摂理	世界の 現実	災難・邪 魔	のある 水の特 性					
日 本 語	40 (40.0%)			19	17	6	3	--	15
	20 (20.0%)	9 (9.0%)	11 (11.0%)	(19.0%)	(17.0%)	(6.0%)	(3.0%)		(15.0%)
ベ ト ナ ム 語	40 (40.9%)			19	11	2	2	18	6
	13 (13.3%)	19 (19.4%)	8 (8.2%)	(19.4%)	(11.2%)	(2.0%)	(2.0%)	(18.4%)	(6.1%)

その7グループとは、表1に示している通り、「自然(じねん)」、「流動性のある水の特性」、「二者の関係」、「清爽性」、「命の糧」、「その他」、「特殊」の7グループである。この内、本稿で分析するのは最初の「自然」のグループのみである。

「自然」グループは、「もの自ずから然る」というスキーマで当該慣用語句が説明が出来るグループである。「自然」のスキーマの詳しい説明はテキスト分析のセクションで行う。本稿では、この「自然」のグループのみを分析の対象とする。

残りの6グループについて簡単に説明しておく。「流動性のある水の特性」とは流体としての水に言及した慣用語句のグループで、流れる水、或いは、飲む水という水の物理的特性に言及した慣用語句のグループ、「二者の関係」とは水と何かを取り上げて水とその何かの関係について言及した慣用語句のグループ、「清爽性」とは水のもたらす爽やかさに言及した慣用語句のグループ、「魂を慰める水」とは死者を癒すものとして水に言及した慣用語句のグループ、「その他」とはベトナムの慣用語句にはあるが日本の慣用語句にはない水の解釈を行っている慣用語句のグループ、「特殊」と分類されたものは、その慣用語句中で使用されている「水」という漢字が他の漢字・表現と結合して水そのものとは違う表現となっている(例えば「水母」)慣用語句の

グループである。

これら 6 つのグループを分析から除外した理由は以下の通りである。

まず、「特殊」グループであるが、水と関連付けられた用語（例えば「水母」）は水そのものに関わる表現ではないので、本稿の分析から割愛した。続いて、「流動性のある水の特性」、「二者の関係」、「その他」のグループについては、共通項としての教訓・哲学を見出すことはできなかったのが割愛の理由だ。「清爽性」及び「魂を慰める水」に属する慣用句は、サンプル数が少ないという理由でテキスト分析から除外した。

それぞれのグループに属する例を出しておこう。下の二例は「流動性のある水の特性」の例。（「その他」のグループはベトナム語の慣用句で、上記で説明した「その他」以外のグループに入れられないものを取りまとめたグループであり、これも分析から割愛する。）まずは流動性のある水の例である。

- (1) 湯水のように
- (2) 我田引水

次の二例は「二者の関係」の例である。

- (3) 水と魚
- (4) 花情あれども流水意なし

次の二例は「清爽性」の例である。

- (5) 水清ければ月宿る
- (6) 潁水に耳を洗う

最後に「特殊」の例も二例出しておこう。

- (7) 水母の行列
- (8) 好いた水仙好かれた柳

4. データ分析

「自然」グループは三つのサブグループに分けられる。一つは水への言及を通して「自然（しぜん）の摂理」を語るグループ。二つ目は水で「現実の世界」を語るグループ。三つ目は水を「災難・邪魔」と捉えるグループである。最初の「自然の摂理」は更にいくつかの概念に

分けられる。以下、必要に応じベトナムの慣用句と対比しながら、「自然の摂理」のサブグループを順に見て、「現実の世界」及び「災難・邪魔」のグループへ進み、最後に「その他」のグループに言及し、日本の思考法を浮き彫りにしていく。

4.1 「自然」グループに見る日本の慣用句の特長

自然とはあるがままの状況を言うが、水に関わる日本の慣用句はまさに、あるがまま、なされるがまままで特徴づけられるようである。

その構成要素の1つ「自然の摂理」のグループをまずは見てみよう。このグループは、水を「世界の原点」とみなし、その水が流れることで「世界の流れ」が含意され、その「流れに沿って生きることが良い」とみなされる。その「流れに逆らうこと」は流れに逆らうことで推奨されず元の状態に戻ることを意味する。更に水は変化に富む「うつろいやすい」世界を形成し、人にとって災難・辛苦となり得、人の住みにくい「現実の世界」を構成する、それが日本の水である。日本の水に関わる慣用句は受身で個人の力による未来の切り開きという点では内向的だという事が可能だが、それはベトナム語の慣用句との比較で一層明らかになるだろう。

以下、実例を上げながら上記の理論の例証を行う。

4.1.1. 水の流れは自然の摂理

世界の原点

次の3つの例を見てみよう。

- (9) 水泡に帰す
- (10) 水の泡
- (11) 雪や氷も元は水

(9) と (10) の水泡とは消えてなくなるものである。消えてなくなれば、水泡は、ただの水となる。雪も氷もその元は水。しかし、そのただの水が最初の状態なわけだ。水の泡とは、努力した行為の結果がまったく無駄になってしまうことだが、それは、物事の初め状態に戻ることを意味する。

ベトナム語の慣用句との比較

ベトナム語のデータにはこのように水で出来事が始まる以前の状態を指すことはない。ベトナムの慣用句において水は万物の始まりではないのかもしれない。

水の流れが時間の流れを介して、世界の流れを生み出す

水は流れるものである。

(12) 立て板に水

立て板に沿って水は流れる。流れていけば、そこに時間の経過があるのは言うまでもない。流れていく作用に例外はなく、何が起こっても、水に流していくことになる。

(13) 水に流す

流れは逆流しない。嘆いても仕方がない程に。

(14) 覆水盆に返らず

一度してしまったことはとり返しがつかない。別れた夫婦の仲はもどらないように。そして、

(15) 落ちれば同じ谷川の水

(15) のように、どんなに裕福な人であっても、結局人間は死に「同じ谷」へと流されていく訳だ。出発地が異なっても、最終目的地は同じ。水は万民に等しく流れていく。同様のことが下の四例でも語られている。

(16) 窪いところに水溜まる

(17) 低き所に水溜まる

(18) 水到りて渠なる

(19) 水の低きに就くが如し

水の流れは防ぎ難し。ただ、言論の自由を封じることは更に困難らしいが。

(20) 民の口を防ぐは水を防ぐよりも甚だし

人間の生活、及び、すべてのものは、浮かぶ雲や流れる水のようなものであり、そのルールを妨げることはできない。

(21) 行雲流水

(21) のように、水の流れは時間の流れ、人間の生命の流れ、宇宙の流れの象徴であり、直線的であり、その流れを止めたり、逆行させたりすることは決してない。それが日本の慣用句から見えてくることである。

ベトナム語の慣用句との比較

ベトナム語の慣用句においても水は常に流れている。流れる水は時間を生み、その流れは、社会の営みの流れとなる。

(22) Nước chảy bè trôi (水が流れると、流れている水とともに水面の上にある板も漂う)

高所から低所へと水は流れる。

(23) Nước chảy chỗ trũng (窪いところへ水が流れる)

そして、その流れにはベトナムでも逆らえないことは言及されている。

(24) Nước đổ khó bóc (水が注がれると、それを再び拾うことはできない)

自然界において、流れる水は同じ地点を二度と通ることはない。これはベトナムでも同じである。

流れに沿って生きるのが良いこと

再び日本語の慣用句に戻る。流れに沿って行けば、悪いことは起こらない。

(25) 流れる水は腐らず

(26) 水は三尺流れれば清くなる

(27) 山紫水明

流れる水は、絶えず更新され、純粋な水だ (25, 26)。例え水が汚されたとしても、それは流れが浄化してくれる。そうやって、美しい風景が出来上がる (27)。

ベトナム語の慣用句との比較

興味深いことに、流れに沿って生きることを推奨する慣用句はベトナム語のデータには一つしかない。下がその例だ。

(28) Nước chảy đá mòn (長い間水が流れると石はすり減っていく)

ただ、日本語の慣用句の様にただなされるがままで流されていけばよいというわけでもない。この慣用句は、最初は非常に難しい仕事であっても、忍耐強い意志があれば成功するという意味であり、個人の努力が必要な点で、日本的流れに沿う生き方の推奨とは異なる点に留意しておきたい。(この点については後に議論することになるだろう。)

流れに沿わないと元の世界(水)に戻る

流れに沿って生きることを推奨しているだけでなく、日本語の慣用句は、流れに沿わないと、すべての努力が無駄になり、戻って最初からやり直す必要が出てくるかもしれないと警告をする。

(29) 湯の辞儀は水になる

(30) 湯を沸かして水にする

お風呂が沸き、遠慮をしていると、湯が水になってしまう。素直に流れに従うことを推奨していると考えられる。

ベトナム語の慣用句との比較

該当する慣用句はベトナム語のデータにはない。

世界は流れうつろいやすい

こうやって流れを作っている水が参画する世界は、どういったものかと言えば、まずはすぐに消えてなくなる世界である。

(31) 陽炎、稲妻、水の月

それは水そのものが、環境に臨機応変に変化するものだからかもしれない。

(32) 水は方円の器に随う

正方形の容器に水が流れると、水も正方形になり、円形の容器に流れると、水も円形になる。定形のない柔軟性のある水に世界の本質を見る日本人の世界観は示唆的である。

ベトナム語の慣用句との比較

このうつろいやすい世界の例もベトナム語のデータには該当例がない。

4.1.2 災難・辛苦

水はまた災難や邪魔な存在として描かれることがある。(33) がその例。

(33) 蛙の面に水

この慣用句は、何が起こっても落ち着いて平気である性格を推奨する慣用句だ。カエルはどんなことをされてものんびりと平気である生き物とされるが、ここでの「水」はカエル以外の生き物には何らかの辛苦を与えるものと解される。

同様に、下の3例も水が辛苦（或いは、苦難）を表しているものと考えられる。

(34) 水火も辞せず

(35) たとえ火の中水の中

(36) 火を避けて水に陥る

水は更に災難として記述されることもある。下の例の「洪水」がそれにあたる。

(37) 千日の旱魃に一日の洪水

(38) 我が亡き後に洪水よ来たれ

災難ほどまで行かないが、通常的生活に不都合をもたらす程度の存在としても水は登場する。例えば、下の例の「雨」がそうである。

(39) 頼む木陰に雨漏る

雨宿りするつもりで木陰に来たが、そこは雨が漏っている状況で快適な休息が取れないという意だが、雨が当て外れという不都合を引起したものとして言及されている。

このように災難・辛苦まではいかないものの、不都合な存在としての水に言及する慣用句は割と日本語においてはポピュラーのようである。下に、データからの例のみ記載する。

- (40) 大水に飲み水なし
- (41) 寝耳に水
- (42) 年寄りの冷や水
- (43) 頭から水を浴びたよう
- (44) 冷や水を浴びせる

ベトナム語の慣用句との比較

ベトナム語のデータにも、水を災難・辛苦と捉える例はある。例えば、

- (45) Nước mưa là cửa trời (雨水は空からのこぎりのようなものである)

雨水が日常生活の破壊を引き起こすほどの現象である事に言及した慣用句である。そして勿論、災難・辛苦まで至らないものの、日常生活に不都合（或いは、不快感）をもたらすものとして言及されている例もベトナム語のデータに存在する。下の2例がその例である。

- (46) Chửi như tát nước vào mặt (顔に水をはねかけるように叱る)
- (47) Như giội gáo nước lạnh (誰かに冷水をはねかける)

(47) は、他人に意志を失わせて、落胆させる行動または言葉を指す慣用句である。

日本語では、(34)、(35) のように果敢に何かチャレンジするという意味の慣用句があるが、これに相当するものとしてベトナム語には下の様な例がある事を指摘しておきたい。

- (48) Chọc trời khuấy nước (空を突き、水をかき混ぜる)

これは、何ものをも恐れず、勇敢に行動することを推奨した慣用句である。空と水のような恐ろしい力さえも恐れぬ。 恐れだけでなく、あえてそこで騒ぎを起こす。これは通常、英雄の取る行動である。そう考えたとき、下の様な例（日本の (34) (35) に相当する）の持つ意味も違ってくると言える。

- (49) Không quản nước sôi lửa bỏng (沸騰したお湯と燃える火も辞せず)

困難に立ち向かうという行為がベトナムの慣用句においては推奨されていることが窺える。

((49) は沸騰したお湯という困難で危険状態にあつて、恐れたり落胆したりしないことを推奨している慣用句である。)

4.1.3 水は現実の世界

前節の例は、水が災難・辛苦をもたらす例であつたが、この延長線上に水が行動の仕方を知らない者にとっては時に命を奪いかねない現実世界として記述される慣用句の例がある。例えば、下の例である。

(50) 鵜の真似をする鳥水に溺れる

鵜をまねる鳥は水に溺れるとするこの慣用句において、水は、身の程を知らない者へ災いをもたらす現実の世界として言及されていると考えられる。下の二例も身の程を知らない者への現実の世界として水が語られている。

(51) 螻蛄の水渡り

(52) 土仏の水遊び

土中にある螻蛄は水中に入ると泳ぎますが、大きな川は泳ぎきることができない。また、土で作られた仏は水に触れると溶けてしまう。この様な身の程知らずに対して、水は容赦のない現実世界として記述されているのである。

そのような現実世界は他人に溢れかえっている社会とみれば、次の三例の慣用句も意味が明らかになってくる。

(53) 血は水よりも濃し

(54) 水が合わない

(55) 水になれる

(53) においては、他人の無関心・冷たさで溢れる社会(水)において、血(親族)は結束すべきものという意が込められていると言えるだろう。この親族(「うち」)に対して、水は「そと」であり、生き残っていく上においてその水と自らを合わせたり(54)、それに慣れたり(55)することが大切という理論になっていくのだろう。

そんな水の持つ社会性に通常の知識しかもたない者は気が付かない。よって、下の二例があると言えるかもしれない。

- (56) 餓鬼の目に水見えず
(57) 魚の目に水見えず、人の目に空見えず

餓鬼道におち飢えと渇きに苦しんでいる亡者には水が理解できず（単に見えないという意味だけではなく）、また、水の中で生きるのが当然と思っている魚にも水は見えないという解釈が可能ではないだろうか。しかるに、知者にはその水が理解できるとして、下の例があるのではないだろうか。

- (58) 知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ

(58) は水に対する日本語には少ない前向きな姿勢を示す慣用語句であるのだが、「ものの道理をわきまえた人は、判断に迷いがなからよどみなく流れる川を愛し楽しむ」ことが出来るわけである（ことわざ辞典オンライン n.d.）。

ベトナム語の慣用語との比較

水面下の水を長い困難の過程とみなした例を出しておこう。

- (59) Lặn ngòi ngoi nước （水中に潜り、水面に到達しようとする）

水中という困難なスペースを泳ぎ切って困難を克服するというのがこの慣用語の意味である。ただ、この例にも合わられているように、水自体が冷酷な現実になるといった慣用語は上記一例しかない。

では、ベトナムでは、水は人（及びその他の生命体）に対してネガティブな現実とはなり得ないのか。そうではない。ベトナムにおいて水は漠然とした恐れや恐怖の対象ではなく、村落生活における具体的な害として言及されている。下に三例掲載する。

- (60) Ao tù nước đọng （水が溜まっている流れのない池）
(61) Đòng chua nước mặn （畑の土は酸性で、畑の水は塩害である）
(62) Gạo chợ nước sông （市場の米粒のように、川の水のように）

(60) の池は浅く、魚などは住んでおらず、水が溜まって流れもなく、徐々に異臭を放つ池で、そのような池は、村落生活を阻害するものである。海に近い農村部では、耕作は海水の影響を強く受け、人々の生活に大きな影響を与える。よって塩害を恐れる慣用語が (61) である。(62) は米の取引が行われる市場への不信が行くあての分からない水に重ねられている。

こういったベトナムの視点から日本の慣用句を眺めてみると、日本には現実世界に対して本質的に否定的に捉える傾向があると言えるそうだ。

4.2 まとめ

前節のテキスト分析のまとめをしておく。

日本の水に関わる慣用句の特長はその自然（じねん）性に現れていると言える。日本社会にとって水は原初的で、その流れは時間の流れを形成し、その流れに沿って世界が構成されていると信じている。その流れは常に存在し、止められない流れである。絶え間ない水の流れを見て、日本人は、良い生活を送るためには、その流れに従う必要があると信じている。水の流れは、清らかさをもたらすからだ。だからこそ、水の流れに従わないと、すべてが無駄になり、役に立たなくなるという。それは、湯を勧められ拒み続けると湯はほどなく通常の水に戻り、湯としての価値を失うと言う慣用句（29）によく表れている。すべてはもの自ずから然るわけで、それに逆らわないという哲学がこれら自然の慣用句には貫かれている。

最後に、また、水は人命に危険を及ぼす可能性のある恐ろしい世界を表すことが出来る。そこは、例（53）で語られるような、他人がいっぱいの世界であるがために、「血」の結束が必要な社会でもあると言える。

総じていえば、現実世界に対してはかなり否定的でありながら、その世界において生きるには流れに任せるのが得策だと考えていると言える。なぜなら、すべては自ずから然るのであるからと言える。

5. 結論

本稿は水という表現（又は概念）を含む日本語の慣用句 100 をベトナム語の慣用句 98 と比べて、日本人の思考にどのような特徴があるか調べてみた。その結果、既に述べたように、自然性という思考的特徴が抽出されたわけだ。水の流れは世界と自然の移り変わりを象徴しており、日本人はこの移り変わりを尊重している。しかし、日本人にとってはその移り変わり、もしくは、水は非常に怖い世界であるのである。

このような特徴が抽出出来た一方で、とても興味深い結果を得ながら本稿では言及できなかった例がある事を最後に記しておきたい。それは「二者の関係」のグループに見出されるものであった。次の例を見られたい。

- (63) 水魚の交わり
- (64) 水火の争い
- (65) 水と油

(66) 落花情あれども流水意なし

「二者の関係」とは水と他の何かのとの関係なのだが、水と魚の関係が最も多く、それ以外は、当然のことながら、水と魚以外の要素との関係になる。それで、水と魚の関係だけが良い関係で(63)、それ以外の二者の関係は否定的な関係となっている。例えば、水と火の(64)、水と油の(65)、花と水の(66)。どうして、良好な関係が水と魚だけで、それ以外の関係が否定的なものしかないのか。これは実に興味深い問題であったが、本稿ではなぜ、このような結果になっているのかは分からなかった。

最後に今後の筆者の研究について言及しておきたい。今後も水にまつわる慣用句の研究を行っていきたいが、今後の研究では、水の意味を他者との関係性の観点からで明らかにしたい。具体的には、次の4つの問題を解決できるようにしたい。

- ① 人と人との関係を表すために「水」と共にどういった要素（他者）が使用されているか。
- ② その関係における水は何を意味するのか。
- ③ 水と他者との関係に言及する場合、ある他者に関して水は良いが、別の他者に関しては良くないのはなぜか。
- ④ こういった水と他者との関係性は日本人の思考の特徴にどうかかわるのか。

この4つの問題全てに解答が見つかれば、本研究の結果は補完され、日本の文化をより包括的に説明できる方法を打ち出すことができるだろう。

参考文献

- 井沢元彦（1991）「言霊 なぜ日本に、本当の自由がないのか」, 祥伝社.
- 大橋欣治（2011）「『水』—それが持っている多面的な意味」, 『水利科学』215, pp.1-18, 水利科学研究所.
- グエン・ティ・トゥ・フオン（2019）「日本語の慣用句における使われた「一」から「十」までの数字の文化特徴—ベトナム語との対照」, 『博士論文』, ハノイ国家大学.
- グエン・ラン（1992）「Từ điển Thành ngữ - Tục ngữ Pháp - Việt [フランス語とベトナム語における慣用句・ことわざの辞典]」, 教育出版社.
- グエン・ルック ルオン・ヴァン・ダン（2009）「Thành ngữ tiếng Việt」（ベトナム慣用句）, 科学社会出版社.

- ことわざ辞典オンライン (n.d.) 「知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむについて」
<https://kotowaza.jitenon.jp/>.
- コトバンク (n.d) 「慣用句」 <https://kotobank.jp/word/%E6%85%A3%E7%94%A8%E5%8F%A5-49719>.
- 呉琳 (2017) 「日本語の慣用句に関する研究の概観」, 『日中語彙研究』 6, pp.87-150, 愛知大学
中日大辞典編纂所.
- ゴー・ミン・トゥイ (2001) 「日本語・ベトナム語における動物に関する慣用句の比較対照」,
博士論文, ハノイ国家大学.
- 小学館国語辞典編集部 (2001) 「例解学習ことわざ辞典」 第2版, 小学館.
- 佐佐木隆 (2013) 「言霊とは何か - 古代日本人の信仰を読み解く」, 中央公論新社.
- ディン・ラン・ニー (2021) 「動物の単語のペアを含む日本語の慣用句__ベトナム語の同等の
ユニットと対照」, 『卒業論文』, ハノイ国家大学.
- 支洪濤・吉田則夫(2003) 「身体部位名称を含む慣用句についての日中対照研究—「目」の場合
—」『岡山大学教育学部研究集録』 124, pp. 93–100, 岡山大学教育学部.
- 米川 明彦・大谷 伊都子 (編集) (2005) 「日本語慣用句辞典」, 東京堂出版.
- 中村明(1977) 「語の意味と固定連語の扱い (〈特集〉日本語の表現—慣用語句、特別な言い回し
—)」, 『日本語教育』 33, pp. 43–54 日本語教育学会.
- 中村明(1985) 「慣用句と比喩表現」『日本語学』 4 (1), pp. 28–36, 明治書院.

報 告

III. 海外留学派遣

令和3年度 海外派遣留学プログラム実施報告

ブルカート 香織

1. はじめに

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、人の動きが著しく制限されたこの2年間は、学生の派遣留学や留学生の受け入れに従事する世界中の高等教育機関にとっても見通しの悪い不安定な2年間となった。本学でもコロナ禍において、そもそも派遣留学を志望する学生数の減少や派遣決定後に断念する志望者の推移に彼らの不安が如実に現れていたように思われる。令和3年度に派遣留学専攻試験に合格したのは17名で、実際に出国できたのは本学ではわずか5名であった。本稿では、令和3年度の派遣留学プログラムの実施報告として、コロナ禍における派遣留学へのハードルと海外派遣留学へと出国していったそのわずか5名のケースを報告する。

2. コロナ禍における派遣留学へのハードル

コロナ禍での派遣留学へのハードルは多岐にわたる。コロナ禍における出入国の際の水際対策に費やされる経済的そして精神的な負担や健康管理上の問題を考えて断念する学生も多かった。実際に渡航できず、バーチャル交換留学を試してみた学生の苦悩は顕著であった。時差を覚悟で派遣先の協定校へ赴くことなく、オンラインでさまざまなクラスを受講することとなったが、英語で行われるオンライン授業にはそれ相応の語学力が求められるため、初めのオリエンテーションで圧倒されてオンライン留学を断念するケースもあった。また、1セメスターはどうにか参加できたものの、成績が振るわず、協定校からも辞退するよう促されたケースもあった。その他多くの学生は従来通りの留学を強く望み、オンライン留学には参加しないという結論に至って留学を先送りにしたケースも多かった。

コロナ禍における留学では派遣留学生本人はもとより、その家族も新型コロナウイルス感染の可能性を危惧しており、実際に渡航するまでに至らなかったケースが多かった。令和3年度には新型コロナワクチンの接種が可能となったが、これも年齢や既往症の有無等で優先順位が設けられており、留学に行こうなどという健康な大学生は、当然ながらワクチン接種の優先順位は低く、出国までに2回の接種ができるかどうかは渡航の判断に大きく影響を及ぼしたのは間違いない。通常、派遣留学生の出発は、通常前期が終了する8月中旬から9月中旬ごろであるが、令和3年度に出国した5名のうち、4名は個別に医療機関等に相談して、出国前に2回のワクチン接種を完了することができた。残る1名は受け入れ国が定める別の予

防接種の要件を満たすため、新型コロナワクチンを接種せずに渡航すると決断した。このようにコロナ禍における健康管理上の問題に対応するために、新型コロナワクチンの接種は一つの選択肢を増やしたことになるが、令和3年度に至ってはその開始時期が遅く、渡航時期に間に合わないと判断した派遣留学生は多かった。

さらに、日本を出国する際に求められるPCR検査も経済的、物理的ハードルを設けることになった。派遣学生にとってはPCR検査事態が予期せぬ出費であるばかりか、現地まで行く時間と交通費がさらに経済的負担となったことは否めなかった。またPCR検査結果の有効期限（例えば、入国前48時間など）が設けられている国への入国は特に注意が必要であった。大分のような地方都市からでは少なくとも日本国内で乗り換え、派遣地域によっては海外でも経由地を経て現地到着となる場合には、余裕を持ってPCR検査を受けておかなければならないが、PCR検査を受けられる保健機関は限られており、の有効期限が守れるかどうかという懸念がハードルとなった場合もあった。もしフライトのキャンセルや遅延が発生した場合は、期限切れとなることも覚悟しておかなければならなかった。このような幾つもの不確実な要因はコロナ禍の派遣留学の大きなハードルとなったことは間違いない。

日本学生支援機構（以下、JASSO）の要請で、外務省の感染症危険レベルが2以上となる場合は派遣ができなかったのが、危険レベルは2以上のままでも令和3年6月に条件付きで派遣留学への渡航を認める方針を示した。その条件とは海外の大学での学位取得を目指す、いわゆる正規留学生として渡航予定のある者だったり、日本の大学に在学中で留学が必須の課程での学位取得を目指す者であったり、交換留学であっても渡航期間が9ヶ月を超える留学に限って、出国が認められることとなった。また、要件を満たすものにはJASSOの奨学金も支給された。本学の派遣留学予定者の多くは半年または1年間の派遣留学を計画するが、留学が半年の予定者は必然的に除外されることとなった。期間を9ヶ月以上とする渡航条件の他にはワクチンの接種が強く推奨されたが、上記の通り、接種券が届いたのは渡航に間に合うかどうかという微妙なタイミングだった。

さらに、通常であれば派遣留学へ行くためには、まず協定校からの受け入れ通知 Certificate of Eligibility (COE)が必要であるが、コロナウイルス感染症が確認された昨年度は受け入れそのものが中止となったり、オンラインにてバーチャル派遣留学となったりするケースが相次いだ。そのため、昨年度実際に渡航できた派遣生は0名で、オンライン留学に参加したのはわずか2名であった。その2名のうち1名はドイツのパダボーン大学のオンライン留学に参加したが、初めの1週間で時差と慣れない外国語でのオンライン授業について行く自信を失って辞退した。残る1名も米国のアイオワ州立大学にオンライン留学して1セメスターは参加したが、同じく時差と慣れない英語でのオンライン講義に苦戦を敷かれ、2セメスター目は協定校から促される形で、辞退することになってしまった。

今年度に渡航できた5名に至っては、現地の新型コロナウイルス感染症の流行具合によってはオンライン授業に切り替わったり、対面になったりと変容しつつも現地で学ぶことができた。しかし、それでもコロナ禍において心身の健康状態が懸念され、緊急帰国になったケースもあった。令和3年度に派遣した5名のケースの詳細について、国際教育推進センターの各担当教員から聞き取り調査をして、次にまとめた。

3. 令和3年度派遣留学生のケース

令和3年度には5名の派遣留学生が渡航した。内訳は次の通りである。：釜山大学（韓国）1名、サンフランシスコ州立大学（米国）1名、NHL Stenden 大学（オランダ）2名、カーロリ・ガシュパール・カルビン派大学（ハンガリー）1名。今年度に渡航できた5名に至っては、現地の新型コロナウイルス感染症の流行具合によってはオンライン授業に切り替わったり、対面になったりと変容しつつも現地で学ぶことができた。

3.1 ケース1：釜山大学（韓国）

新年度に入り、渡航できるかどうかなど、全く予測ができないまま、前期も中盤戦に差し掛かった頃、急遽渡航許可が降りた。まず家族の了承を得て、渡航準備に取り掛かった。本学生は、渡航についてはほとんど諦めていたこともあり、その準備については全くの手付かずのままで、急発進となった。ただ、韓国へ留学が決まっていた他の学生が準備しているのを見て、少しずつ自主性が芽生え、指導教員のアドバイスを受けながら、最終的には自ら行動することができた。コロナ禍において、通常通りの派遣とは異なる変則的な状況で、本人の自主性が高まったといえる。例えば、ビザに関しても通常よりも時間がかかったり、大使館に直接問い合わせたりすることが多かった。また、フライトの便数にも制限があったり、現地の空港での検疫や水際対策のために隔離期間が設けられていたりと変則的な対応に迫られた。さらに、ソウルから釜山までは国内線の飛行機での移動が一般的であるが、留学生だけを輸送する専用列車が走っており、その手配にも翻弄された。このように全てが変則的な派遣留学の状況で、自主的に動くことは必須であった。

他にも、母子手帳のワクチン接種記録を見ながら、釜山大学の留学に必要なワクチンの接種がなかったため、自分でその接種ができる病院を探して接種した。ただ、この接種をすることで、新型コロナワクチンの接種ができなかった。新型コロナワクチンの接種は強く推奨されてはいたものの義務ではなかったため、前述のワクチンの接種が優先された。このワクチンを接種してから、次のいかなるワクチンの接種も決まった期間をおかなければならなかったため、新型コロナワクチンの接種ができなかったのである。当該学生を担当した教職員は現地に到着し、ワクチンの接種ができるようであれば本人の意思に基づいて、接種をするようアドバイスをした。

本派遣生は順調に留学生活を送っていたものの、1月ごろより体調を崩し、現地で通院していたが、心身ともに不調をきたし、途中で留学を断念して3月上旬に帰国した。

3.2 ケース2：サンフランシスコ州立大学（米国）

当該学生は留学へ対する意識が非常に高く、年度当初の不安定な時期であっても、「いつ行けるよくなるのかわからないから、渡航許可が出たらすぐに出国できる準備をしておくように」という指導教員のアドバイスで、ビザの申請や健康診断等の必要な手続きを着々と進めていた。また当初から協定校のアドバイザーとも連絡をとり、何が必要であるかとか、何をしなければならないかということも理解して行動できていた。コロナ禍でも（米国ではなく）渡航中の家族がいるという稀な家庭環境も手伝ってか、この時期の海外渡航についても強い懸念もなく、家族の理解や支援が大きかったと思われる。

渡航直前に2回のワクチン接種を終え、サンフランシスコでは、オンラインや対面授業を履修している。月例報告にもその充実した派遣留学生活の様子が伺える。また国際教育推進センターの担当教員とも1-2ヶ月に一度はZoomで面談をしながら春学期が終わった後のインターンシップ等の話も進んでいる。

3.3 ケース3：カーロリ・ガシュパール・カルビン派大学（ハンガリー）

コロナ禍の渡航で最も困難だったのはワクチンの接種のタイミングの見極めとハンガリー大使館でアポイントメントをとることであった。前述の通り、若い世代へのワクチン接種は優先順位も低く、接種券がいつ来るかによって渡航前に2回の接種ができるかどうかは左右された。ワクチンを2回摂取してから渡航する場合は、現地での隔離が免除されるため、ワクチン接種は必至とわかっていても、新学期が始まるタイミングで交換留学に参加するのとても重要であったため、一時はワクチンを接種せず、現地で2回接種するということも考えた。ただ、見知らぬ土地で、言語に不自由することを考慮して、その選択肢は躊躇された。

現地のオリエンテーションに間に合うためには8月31日に出国しなければならなかったため、そのタイミングでまずは飛行機のチケットを予約した。その後、ハンガリー大使館にビザ取得のためのアポイントメントを入れると、3週間待ちという状況で、出国前に東京のハンガリー大使館でビザを取得し、そのあしで渡航するという強行軍となった。結果として、無事に渡航できて、オリエンテーションにも間に合って、現在充実した留学生活を送っているものの、本人やその家族はもとより、担当教職員のストレスは相当なものであった。年末年始頃より、緊張が高まったロシアとウクライナの戦争においても、ハンガリーはウクライナの隣国であるが、令和4年3月現在のところは、大きな影響もなく、安全に生活できている。指導教員との連絡もSNSを通じて定期的に行っている。

3.4 ケース4 : NHL Stenden 大学 (オランダ)

本学生については、交換留学に関して常に積極的で、大学や担当教職員のアドバイスや指示の前に自主的に準備等を進めていた。結局、上記の通り、出国前にワクチン接種ができるかどうか焦点となったが、無事に接種を終えて、渡航した。本学生に関しては親戚が現地にいるということで、渡航へのハードルが他の学生よりも低かった印象がある。現地でも充実した留学生活を送っているようである。

3.5 ケース5 : NHL Stenden 大学 (オランダ)

本学生は、留学したい気持ちは十分にあるが、コロナ禍で現地での生活が心配であったり、言語の壁が心配であったりと、渡航や留学に関して複雑に入り混じった感情があったように思われる。やはりコロナ禍の慣れない外国生活で、語学力が伴わなかったり、コミュニケーション能力が発揮できなかったりして、体調を崩してしまい、本人の精神状態と協定校からのアドバイスを受けて、急遽帰国することになった。派遣前から担当教員は協定校とのやりとりに多大な時間と労力を費やし、出入国やオリエンテーションの遅延の件など多くの交渉や折衝を行った。また、協定校の協力を得て、本学生を無事に帰国させることができたのも、担当教職員の尽力が大きい。予測できなかった中途帰国という結果となってしまったことで、支給されていた JASSO の奨学金の停止業務や、水際対策徹底のためのプロトコールの遂行や危機管理対策など、本人はもとより、関係教職員への多大な心身的な負荷が懸念された。

4. まとめ

令和3年度もコロナウイルス感染拡大の影響が著しく、本学の派遣留学も大変厳しい状況を強いられた。ただ、一昨年度と比較するとワクチンが全世界で一般的に普及したことや、コロナウイルス感染の実態が科学的にも理解が広がったことで、その予防や対処策を十分に講じた上で渡航が可能になった。コロナ禍の派遣留学には自分の力ではどうにもならないハードルもあって渡航には困難をきたしたが、本学は5名の派遣留学生を4カ国に派遣することができた。このわずか5名の派遣生はそれぞれのハードルを飛び越えながら、短時間で渡航準備を整え、出国した。その成功は本人の努力もさることながら、家族の理解や担当教職員の多大な支援なしでは表現できないところである。

令和3年度 韓国夏季短期語学研修実施報告

西島^{よりこ}順子

1. プログラム実施概要

本学では海外派遣（交換）留学プログラムの他に、長期休暇中に協定校が提供する短期語学研修プログラムへの学生派遣を実施している。韓国に関しては例年、夏季休暇にソウル女子大学校や培材大学校が提供するプログラムに2週間ないし3週間、本学学生が参加し、現地で韓国語や韓国文化の研修を行っている。令和2年度はパンデミックの影響で、いずれのプログラムも中止となったが、令和3年度は幸いにもオンラインプログラムとして再開されるものもあった。その中から今年度はソウル女子大学校と釜山大学校のプログラムに、それぞれ1名と2名の学生が参加した。各プログラムの概要は表1のとおりである。

表1

	ソウル女子大学校	釜山大学校
研修日程	8月23日～9月10日	7月8日～7月29日
期間	3週間	3週間
総授業時間	60時間	30時間
授業の内訳	語学研修：60時間 文化交流：10時間（希望者のみ）	語学研修：24時間 文化研修：6時間
参加費	60万ウォン	無料（協定校のため学費免除）

ソウル女子大学校では、開講前にプレースメントテストが行われ、初級から中級の8段階のレベルのいずれかのクラスに配置され、1クラス、5～9名という少人数制で指導が行われた。授業時間のすべては韓国語学習に充てられており、受講者は毎日4時間、単語や文法、読解、作文、会話の学習を集中的に行った。また、今回のオンラインプログラムの特色として、ソウル女子大学校の学生らとのオンライン交流会や、彼らと個人的に交流できるドゥミ制度が設けられており、受講者はそれらの機会を利用することができた。

釜山大学校も開講前にプレースメントテストが行われ、初級から中級の6クラスのうちのいずれかのレベルに配置され、1クラス20人程度で授業が行われた。授業は主にコミュニケーションの内容で、日常場面で遭遇する会話を中心に学習した。中級のクラスではプレゼンテーションの課題にも取り組んだ。また、週末には英語で韓国文化を学ぶ授業があり、韓国神話

や伝統建築について学んだ。ほかにも、約 200 名の受講者と釜山大学の学生が一堂に会す機会が設けられ、ダイナミックな交流が図られた。

2. 受講の成果

今回初めて行われたオンライン留学が受講者にどのような影響や成果をもたらすのか、実施前は未知数であった。集中的に語学研修を行う点では、言語能力の向上は予想された。一方、文化体験などは現地を訪れてこそ経験できることが多いため、その点における成果は不明であった。しかしながら、研修実施後に受講者が提出した報告を分析したところ、以下の三点で成果が認められた。

第一の成果は言語能力の向上である。ソウル女子大学校の受講者は、単語力、ハングルで書く力、正確に話す力、コミュニケーション力が向上した。特に書くことに関しては、参加前ほとんどできなかったが、受講後は苦手意識を感じることなくできるようになり、その上達を実感していた。釜山大学校の受講者の 1 名は、大分大学で履修した韓国語の授業の復習と日常会話の向上を目的として参加した。すでに学んでいた発音や助詞の理解を一層深めただけでなく、挨拶の仕方や注文の仕方、場所を示す方法など具体的に表現できるようになり、身に付いたと感じていた。また、釜山大学校のもう 1 名は、プレゼンテーションの課題に取り組む際にグループ内で韓国語を使用したため、会話量が圧倒的に増え、自分の考えを話すことができるようになったと達成感を得ていた。三者とも今回の受講で言語能力を高めていた。

第二の成果として、異文化理解があげられる。各大学で韓国文化の講義や韓国人学生との交流の機会が設けられていた。韓国の木造建築を学んだ際に、日本との類似点に気づき、古来、日韓の関係が親密であったと理解する学生や、現地学生との個人的な交流を通して、韓国のドラマや歌だけではなく、食文化や習慣などさまざまな学びがあったと実感する学生がいた。オンライン留学であるため物理的距離を排除することはできない。しかし、現地の講義を受け、学生と直接交流する中で、普段メディアを通して知る韓国とは異なり、リアリティーをもってその文化に触れていたことがわかる。

第三の成果は受講者の意識変容である。特に、他国の受講生や韓国人学生から多大な影響を受けていた。授業で欧米や中国の学生が積極的に発言する様子や、交流会で同じ世代の韓国人学生が流暢に英語で司会をする様子に驚き、刺激を受けたり、3 言語を話す学生や異なる文化の中で生きてきた学生と交流することで、自身の学習のモチベーションを高めるなどしていた。また、英語に対する考え方の変化も見られた。韓国語で伝わらない時に英語で表現するよう求められるため、共通語である英語のスキルが必要であるという気づきを得たことや、英語を話すことの恥ずかしさを払拭できたことなどあげる者がいた。

これらのことから、受講前の予想以上に、参加者たちは非常に多くの成果を得ていたことがわ

かる。言語力が伸びたという確かな実感を得るだけでなく、韓国文化への関心や理解をより一層深め、また研修を通して知り合う多様な人々から日常では得られない貴重な刺激を受け、自身の意識改革へとつなげていた。このように言語の学びに留まらず、異文化理解や自己変容が認められることから、オンラインの短期語学研修であっても、多様な効果が得られることがわかった。

3. 課題と展望

令和3年度の韓国短期語学研修プログラムは、パンデミックの影響でオンラインになったものの、その成果に鑑みて参加する意義は大きかった。しかしながら、受講者はオンラインによる弊害を全く感じていなかったわけではない。テキストが入手できない、あるいは現地から届くはずの物が届かないというハプニングや、オンラインではその場の雰囲気がわかりにくく、正確に伝えることに苦慮したという報告もあった。異文化理解力に関して理解と言えるほど文化の面に触れることができなかったと述べる者もいた。また、現地に行けないことは受講者にとって心残りのおようで、3名とも、言語を使用するため、また体感するために現地に留学したいと述べている。

このようなオンラインゆえの不自由さはあるものの、受講者の満足度は高い。その理由として、先述の成果に加え、オンライン留学は安価であることや、多忙でも参加できること、またSNSなどを活用して現地とつながりを持てることなどが挙げられていた。パンデミックの終息後も、現地留学ができない場合の代替ではなく、一つの選択肢として残ることも期待される。

令和4年度も韓国短期留学はオンラインになる予定であるが、そのメリットとデメリットを理解したうえで、本学学生の積極的な短期語学研修を促進すると同時に、今後再開されるであろう現地での短期留学の再開にも備えたい。

報 告

IV. 留学生支援

修学・生活支援関連報告

西島^{よりこ}順子

1. 生活関連指導・説明会・行事等

令和3年度に計画・実施された主な生活関連指導・説明会・行事等は表1の通りである。特に対象者を指定していないものについては、全外国人留学生が対象である。なお、計画されていたものの、新型コロナウイルスの影響により実施ができなかったものについては*を記す。また、感染拡大防止のため、各オリエンテーションはオンラインで実施された。

表1 生活関連指導・説明会・行事等

月	指導・説明会・行事等
4	<ul style="list-style-type: none"> ・前期短期留学生対象生活オリエンテーション* ・前期正規生および研究生対象生活オリエンテーション ・前期国際交流会館入居者対象オリエンテーション ・新留学生および渡日時支援チューター研修旅行*
5	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流会館消防訓練*
6	<ul style="list-style-type: none"> ・後期国際交流会館入居者選考
7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期帰国予定留学生対象ガイダンス ・後期渡日時支援チューター選考 ・大分市主催「ななせの火群まつり」への留学生参加の促進、引率等*
9	<ul style="list-style-type: none"> ・後期渡日時支援チューターオリエンテーション
10	<ul style="list-style-type: none"> ・後期短期留学生および日研生対象生活オリエンテーション* ・後期正規生および研究生対象生活オリエンテーション ・後期医学部正規生および研究生対象生活オリエンテーション ・後期留学生寄宿舍・国際交流会館入居者対象オリエンテーション ・新留学生および渡日時支援チューター研修旅行*
11	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流会館消防訓練*
1	<ul style="list-style-type: none"> ・後期帰国予定留学生対象ガイダンス ・次年度前期国際交流会館入居者選考 ・次年度前期渡日時支援チューター選考
2	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度留学生寄宿舍・国際交流会館の会館チューター選考
3	<ul style="list-style-type: none"> ・新渡日時支援チューターオリエンテーション ・新会館チューターオリエンテーション

上記指導、説明会及び行事等は総て国際教育推進センター（GAIA）及び学生・留学生支援課と各行事の関係団体等の協力・連携の下に実施された。

2. 修学・生活相談／指導

本学で受け入れている外国人留学生の修学・生活上の相談・指導などのサポートは、各留学生の指導教員及び GAIA 専任教員が主に担当する。また、生活上の相談については学生・留学生支援課職員も対応にあっている。

正規生・研究生の指導教員は各学部所属教員であるが、外国人短期交換留学生の多数、及び日本語・日本事情研修生（日研生）については GAIA 専任教員全員が指導教員として相談・指導を担当している。令和3年度はパンデミックによる入国制限により、短期留学生の来日は叶わなかったが、海外からオンラインで受講する交換留学生それぞれに、担当教員が付き、履修や学習、またオンライン受講で生じるシステムの相談などに応じ、指導に当たった。一方、来日した日研生に関しては、週1回のゼミナールの時間が設けられており、その際に教員が学習面や生活面での指導を行った。来日したとはいえ、リモート授業が続き、人間関係の構築が難しいなか、心身ともに疲れも見られたが、GAIA のサポートで留学生生活を無事に過ごした。

挟間キャンパスにおける医学部外国人留学生対象の修学・生活相談時間は、毎週月曜日の日本語補講後の昼休みに設定されている。これは当日日本語補講を担当する教員の兼務である。日本語補講は GAIA の全専任教員5名が交替で担当し、修学・生活相談も同様である。今年度も従来通りの態勢をとっていたが、オンライン授業だったということもあり、実際の相談は極わずかであった。医学部の外国人留学生はほぼ全員が20代後半以上で、大学院生か研究生である。母国では各々病院等に勤務している社会人も多く、個人的な問題や悩み等については各自対処法を既に心得ていると考えられる。

また、本学には学生が留学生をサポートする体制が整備されている。チューター制度と呼ばれ、「渡日時支援チューター」「日本語学習支援チューター」「会館チューター」の三つがある。

まず、「渡日時支援チューター」とは、新規来日の留学生に対してサポートを行う日本人学生や先輩留学生のことである。コロナ禍で新規来日留学生はわずかであったが、今年度もチューターによる支援が行われた。この渡日時支援は留学生の来日前から始まる。まず、チューターはメールを通して留学生に大学の様子や大分の町を紹介し、彼らからの質問に答える。次に、留学生の大分到着の日時を確認し、大分駅あるいは宿舎で出迎える。その後も、新生活に必要な準備や、市役所での手続き等のサポート、キャンパスツアー、指導教員への挨拶の付き添い等のサポートを行う。例年は、新学期開始後第3週目あたりの土曜日にチューターと留学生との親睦を深める目的で、大分県内の日帰り研修旅行を「大分大学外国人留学生友の会」の支援を受けて実施しているが、パンデミックの影響でこの2年、行えない状況が続いている。コロナ禍で活動が制限さ

れているものの、このチューター制度によって新規渡日の留学生は、新たな環境で生活を始めるにあたっての不安を解消し、スムーズに新生活を開始することができている。

次に、「日本語学習支援チューター」がいる。このチューターは留学生の学習支援を行っている。留学生が日本語学習のサポートを希望すれば、指導教員はこのチューターを手配する。日本語学習に限らず、専門教育についても要望があれば実施する。ただし、専門に関する支援は各学部がチューターを手配している。指導教員の下、留学生は学習計画を立案し、チューターと共にその計画に沿って学習を進めることとなる。今年度は海外からの受講が多かったため、学習支援チューターも必然的にリモートで行われた。リモートとはいえ、週に1度、定期的に顔を合わせるため、自然と交流が生まれ、学習支援という範囲にとどまらない、友人関係を構築していった。

また、留学生の二つの寮には「会館チューター」がいる。国際交流会館に2名、寄宿舍に3名配置されている。会館チューターは大分大学の学生から選出されており、彼らは主な業務として、共用スペースの管理やごみの分別指導、騒音などの苦情への対処などを行い、留学生の宿舎での生活が支障なく行えるよう補助している。令和3年度の入居者は少数ではあったが、チューターは通常通り業務にあたった。

3. まとめ

学内外の方々の理解・協力・支援の下、GAIA は上記のとおり本学留学生の留學生活の充実のために、さまざまな修学・生活支援関連の業務を遂行した。令和3年度後期まで、新型コロナウイルスの影響による入国制限は続き、留学生数は一時的に減少しているが、令和4年2月に政府が外国人の新規入国の緩和措置を決定したことにより、令和4年度前期には留学生がキャンパスに戻ってくるが見込まれる。そのために現在、GAIA は留学生受け入れの盤石な体制を整え、準備を進めている。今後も学生・留学生支援課を始めとする学内諸部局・部署及び地域社会の理解と協力を得、また連携することにより、本学留学生の留學生活がより充実したものとなるよう、更なる修学・生活支援の方策の検討を行っていく。

国際交流ボランティア会の活動

西島^{よりこ}順子

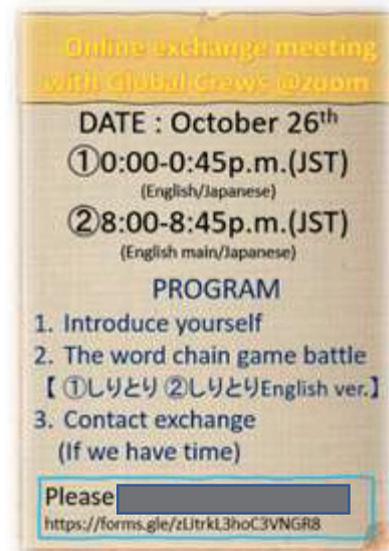
「国際交流ボランティア会」とは、国際交流に関心のある大分大学の学生の集まりを示す総称で、現在約 180 名が登録している。国際教育推進センターは彼らにさまざまな国際交流に関わる情報を提供し、交流を促進している。

なかでも、特に積極的に留学生との関わりを求める学生たちによって構成されている国際交流ボランティア会執行部 Global Crew (通称 GC) がある。彼らによって例年、留学生のための「歓送迎会」や「大学開放イベント」、「国際文化祭」などの企画・運営が行われていたが、令和 2 年の前期より約 2 年間、コロナ感染拡大の影響で留学生の多くが来日できなかったことから、ほとんどのイベントや活動が見送られ、活発な国際交流の機会が失われた。そのような状況ではあったが、令和 3 年度は海外で受講する留学生や大分に在学する留学生に向けたイベントを以下の通り企画、運営した。

1. 海外で受講する留学生に向けたオンライン交流会

前期は 6 月、後期は 10 月に留学生に向けたオンライン交流会を開催した。留学生が日本語でも英語でも参加できるよう、また時差のあるヨーロッパの学生も参加しやすいよう、言語や時間を分けて 2 部開催された。

会のはじめに自己紹介などお互いを知り、その後、日本の言葉遊びなどを行った。オンラインであるため、始めはぎこちなさもあったが、その後のゲームは楽しく行ったようである。会の最後には連絡先を交換し、後日それぞれが SNS など交流を続けていた。参加した留学生からも「楽しかった」「またしたい」という声が聞かれた。



2. 在籍する留学生に向けた交流会

パンデミックの影響で数が減少したとはいえ、大分大学のキャンパス内にも正規生や研究生、国費留学生などの留学生が 50 名ほど在籍している。それら留学生に向けたイベントとして、7月に「七夕まつり」、また 12月に「Holiday Party」を開催した。



浴衣を着た留学生たち



短冊に願いを込めて・・・

「七夕まつり」は例年であれば、屋外に笹を飾り、焼きそばを作り、スイカ割をするなど、にぎやかなイベントになるが、今年度はコロナ禍ということもあり、人数を制限し、飲食を伴わない開催となった。

参加した留学生全員が、当センターが用意した浴衣に身を包み参加した。「七夕まつり」が始まると、まず、七夕の由来が紹介された。その後、GCが手作りした短冊に、留学生はそれぞれ願いを書き、楽しそうに笹に飾り、お互いの願い事を読み合った。また、日本に関するクイズ大会も催され、正解した留学生にはささやかなプレゼントも贈呈された。例年のにぎやかさはなかったが、粋で華やかな浴衣に袖を通した留学生たちが伸びやかに過ごす姿は、コロナ禍の閉塞感をしばし忘れさせてくれる時間であった。

「Holiday Party」は、今年度 GC 自らがアイデアを出し、企画したイベントである。留学生と直接交流する機会が減少するなかで、何とか彼らとつながりたいという強い気持ちから開催に至った。パーティーを盛り上げるために教室を飾り、グループに分かれてゲームを楽しみ、1年を締めくくるにはふさわしい和やかなパーティーとなった。留学生との交流が難しい昨今、GCも工夫しながら彼らとかかわるチャンスを創出し、そこで生まれた関係を大切にしていた。コロナが終息に向かうであろう令和4年度は、GCの活動がより一層活発に行われると期待している。



ゲームを通して楽しく交流



パーティーの最後に・・・

帰国留学生送別会

よりこ
西島順子

令和3年度前期帰国留学生の送別会が7月16日に開催されました。例年は、学生交流会館ビ・フォーレで多くの留学生や国際交流ボランティア会の学生、指導教員など100名ほどが集まり盛大に行われますが、今年度はコロナ禍ということもあり、帰国予定の5名の留学生と国際交流ボランティア会の代表者2名、そして指導教員のみでの出席となりました。

まず、下田憲雄国際教育推進センター長から帰国する留学生に、コロナ禍での留学に対するねぎらいとお別れの言葉が送られました。続いて、各留学生に表彰状と記念品の「手拭い」が授与されました。その後、留学生を代表して、ベトナムのブイ・ティ・ホン・ズオンさんから、留学が決まってから帰国までの心の変化（コロナ禍で不安に思いながら来日したことや、大分大学でその緊張が安心に変わっていく様子）とともに、支援してくださった方々への感謝の気持ちを込めた素晴らしいスピーチがありました。そして、それに呼応する形で国際交流ボランティア会会長の佐藤理桜さん（経済学部3年）からお別れの言葉がありました。



留学生代表スピーチ



本来であれば、乾杯や懇談、日本人学生や留学生がゲームをして最後に懇親を深めるところですが、今回はそれらを中止し、写真撮影を行い、閉会となりました。しかし、閉会後も名残惜しそうにその場に留まり、留学生や日本人、教員が歓談を続けていました。

今年度前期、15名の留学生（正規生11名、短期交換留学生2名、日研生2名）が修了し、本学、そして大分を離れます。また、海外においてリモートで授業を受けていた交換留学生21人も日本に来日できないまま、

本学での過程を修了しました。コロナ禍で多様な留学の形式が模索されたこの1年でしたが、いずれの留学生にとっても大分大学での学びが実りあるものであったことを願います。そして、留学生たちの今後の活躍に期待しています。

「OITA 学生提言フェスタ」と 「おおいたワールドフェスタ 2021」

よりこ
西島順子

10月30日に大分駅前祝祭の広場にて秋空の下「OITA 学生提言フェスタ～留学生による日本語スピーチコンテスト～」が開催されました。

このスピーチコンテストは、本学が加盟し、北野正剛学長が理事長を務める「大学コンソーシアムおおいた」によって主催されるもので、留学生と地域住民の交流・相互理解のための国際交流事業として、毎年実施されています。大分市によって同日開催される「おおいたワールドフェスタ」との共催で行われており、今回で第32回目となります。



本年のスピーチコンテストでは、県内の高等教育機関に在籍する留学生6名が1人5分で発表を行いました。本学からは、マレーシア政府派遣の留学生IDRIS HAFIZ BIN SHAHRIL（イドリス ハフィズ ビン シャハリル；経済学部1年）さんが「運命の出会い」というタイトルでスピーチを行いました。マレーシアで出会った日本人の親子が彼の人生を変え、日本に導いてくれたこと。そして、大分大学での経験を通して、母国マレーシアで国際的な学校を設立する夢を持つようになったことを発表しました。はじめは緊張した面持ちでしたが、次第に堂々とした語り口となり、力強く聴衆に話しかけるスピーチは、会場にいたすべての人の心をとらえるものでした。そして審査の結果、優良賞を受賞しました。

また当日は、提言フェスタのほか、本学からは、よさこいサークル「獲天」が留学生と共によさこい演舞を披露し、会場を沸かせました。



研 究

研究論文

売れるファッション誌はまだ作れるのか¹ 緊縮デフレ下の日本のファッション誌

南里敬三

論旨

25年に及ぶ緊縮財政政策下のデフレ不況にあつて²、ファッション誌本流の20代女子のかわいいファッションスタイル、神戸エレガンスの流れを受け継いだ清楚系は衰退を続け、逆に地雷系・韓国風ガーリースタイルが勢いを増してきているという状況が発生している。このような状況の中で、清楚系である赤文字誌はオタクを読者として取込むことに活路を見出そうとしているが、オタクの取込みで自ら推すファッションスタイルの衰退を速めていると思われる。これとは対照的に、読者求心力をなんとか維持している雑誌が少なくとも2誌存在する。その2誌とはGISELeとLARME³である。

本稿は、上記清楚系がなぜ衰退したのか、及び、GISELeとLARMEがなぜ読者求心力を持ちえたのかを解明することを目的とするものである。この解明に当たっては、2000年から2021年の間の赤文字4誌の清楚系スタイルの代表CanCamとGISELe、LARMEの3誌の三つの側面（ファッションスタイル、モデルの属性、情報量）における変化に焦点を当てて行う。（但し、2018年第1四半期まではFUDGEのスタイル及びモデルの属性の変化も追うことにする。）

本稿では次の5点を示唆する。2021年第1四半期（あるいは2020年第4四半期）現在、（1）20代初頭女子によるファッション誌消費について言えば、もはや赤文字誌の清楚系スタイルの提示は読者求心力⁴を持ちえない状況になっている。（2）清楚系スタイルの衰退の原因は二つあり、一つは「自律性」（後述）の高いモデルの採用でファッション情報消費を目的とする読者が雑誌離れを起こしたこと、もう一つは読者の実質賃金の慢性的下落である。（3）ファッション誌に読者求心力を持たせるためには、モデルの自律化を防ぎつつ、ファッション情報

¹ 本稿のオリジナルバージョンは 2021 年ファッションビジネス学会全国大会で発表されたものとなる。発表後多くの方から質問をいただき、そこよりオリジナルバージョンの不備を検討し、かなりの箇所请加筆訂正を行わせていただいた。質問してくださった方々に心より感謝を申し上げます。

² 本稿は、財務省が主張するような形で国債の発行増で国家破綻（デフォルト）あるいはそれに類似する経済的危機が引き起こされるとする仮説は全くの誤りであるとの立場をとる（三橋貴明 2017, 中野剛志 2021）。

³ 本書ではファッション誌の名前を『』で括弧とすることは行わない。

⁴ 発行部数が増えているか、横ばいのであるファッション誌に対して「読者求心力がある」と本稿では表現していく。

のデータベース化を図るか、ファッション誌全体で世界観を出すことが必要だろう。(4) 赤文字誌の清楚系スタイルの衰退により生じた「カワイイ」スタイルの真空地帯に地雷系・韓国風ストリートスタイルが進出している可能性が高い。(5) 日本政府によるデフレ維持政策を止めなければ20代初頭女性向けのファッション誌は消滅する可能性が高い。

1. 初めに

本稿は南里(2020)の続編である。読者求心力を持つ20代女子向けファッション誌とはどんなものなのかを調べた南里(2020)は、赤文字4誌(CanCam、ViVi、JJ、Ray)とGISELe、FUDGE、LARME(以下「GFL誌」)の合計7誌の2017年3月号を分析し、2018年第1四半期現在、20代女子向けのファッション誌で、読者求心力を持つファッション誌はGFL誌のみだと主張した。そして、この3誌が読者求心力を持ちえたのは、3誌が採用したモデルが没固有性という属性を有し、モデルを目立たせるミニマルレイアウトを採用したからだと言及した(2020)。そこで本稿では、この7誌うち、赤文字誌の清楚系スタイルの代表格CanCam、及び、GISELe、LARMEの3誌を取り上げ、2020年第4四半期現在、この3誌のうちどれが読者求心力を持っていて、それはなぜなのかの答えを、東(2001,2007)のライトノベル変遷の解釈法を用いて、探し出し、2021年第1四半期、又は、2020年第4四半期現在読者求心力を持つファッションとはどのようなものなのか示唆する。この解明に当たっては次の3つの視点を用いる。(1)ファッション誌が推すファッションスタイル(以下「スタイル」)の変化、(2)ファッションモデル(以下「モデル」)の属性の変化、(3)アパレル記事に用いられている情報量の変化の3つの視点である。

尚、南里(2020)と同様、本稿でもネット上に流布するファッションに関わる情報を最大限に考慮しながら話を進めていく。

2. 東のライトノベル変遷解釈とファッション誌

東(2001,2007)のライトノベル(以下「ラノベ」)の変遷解釈(ラノベの発生、キャラクターの自律化、情報のデータベース化、今後の展望)と2000年から2021年までの20代女子向けファッション誌の変遷には相通ずるものがある。本稿では前者を後者の合理的な理解のためのフレームワークとして用いることにする。

尚、本稿でファッション誌消費との表現を用いる時、それは20代女子向けファッション誌の消費を意味するものとする。

2.1 東のラノベ解釈

フランスの哲学者レオタール(1986:8)は、1960年代までの先進諸国においては、科学の進歩を正当化する哲学(メタ物語)が存在し、それを多くの人が信じていたと指摘する。と

ころが、こういったメタ物語は 1970 年代には不信感で迎えられようになるのだが、このメタ物語が不信感で迎えられている状況をレオタール (1986: 8) は「ポストモダン」と呼び、メタ物語の衰退を「大きな物語の衰退」と表現したのである (レオタール 1986: 8, 97, 128, 148, 222)。

日本では、1960 年代にオタク系サブカルチャーが生まれ (東 2001: 13)、1970 年代にはサブカルチャーの担い手としてオタクが台頭してくることになる (東 2001: 9-10)。そして、日本も 1970 年代以降ポストモダンの時代に移行して行くと東 (2001: 16) は述べている。ラノベの起源は 1970 年代にさかのぼるが、現在のラノベの特徴があらわとなるのは 1980 年代末で、影響力を拡大していくのが 1990 年代になるという (東 2007: 28)。

大きな物語の衰退とラノベ

大きな物語の衰退と共に現れたラノベは純文学のように現実社会を知るために読むものではない。そこに描かれている世界は虚構である (東 2007: 76-77)。大塚 (2003: 22-24) は、ラノベは、自らが構築する虚構の世界を「写生」しているという点において、自然主義文学の系譜に入る、と述べている。東は、この大塚が指摘したラノベの自然主義文学的性質を「まんが・アニメ的リアリズム」と呼び (東 2007: 84)、ラノベの一形態であるセカイ系の作品においては主人公を巡る「非現実的世界」が淡々と描かれていることに言及し (東 2007: 98)、このような物語の展開を見せるラノベの内容を東 (2007: 183-184) はこう記述している。

...キャラクター小説 [ラノベのこと—筆者注] は、普通に物語を読み、普通に主題を探っているかぎりにおいては、モチーフやガジェットの特異な進化を除けば、基本的にあまり多様な表現形式ではない。むしろ、いままでキャラクター小説を読んだことのない読者が、本書を読んでそれらを読もうとすると、そのあまりの画一性、均質性に驚くはずである。

大きな物語の衰退と共に現れたラノベには、多くの人の心を射止めるような、あるいは、レオタール (1986) の「大きな物語」に通ずるようなテーマは見当たらないと言ってよい。

自律性の高いキャラクター

大きな物語を失った日本社会に生まれたラノベには、そこで語られる物語より遥かに大切なものがあるという。それは、まんが・アニメ的登場人物である「キャラクター⁵」である (東

⁵ 大塚 (2003: 28) はキャラクターを「生身でないものの中に『私』が宿っている」ものと定義している。生身である人間のように死ぬことが可能なまんがの登場人物を念頭に置いての定義である。詳細は大塚 (2003: 第五講) 参照のこと。

2007: 37, 87-90)。一作品としてのラノベが誕生して後、その作品中のキャラクターはやがて原作を離れてオタクたちによってそれ自体で情報消費されていくようになる。東（2007: 39）はこう説明している。

たとえば、「シャア」や「綾波」について語るとき、オタクたちはもはや、原作である『機動戦士ガンダム』や『新世紀エヴァンゲリオン』でのキャラクターの役割をほとんど意識しない。これは言いかえれば、オタクたちの世界では、キャラクターが、特定の作家や作品に帰属するものというより、むしろ、共有材として認識されることを意味する。

キャラクターは単に原作を離れるだけでなく、複数の作品に登場し、それ自体で語られていくことになる。東（2013:31-32）では次のようにキャラクターの性質を説明している。

ぼくは...現代のキャラクターの本質を「メタ物語性」に求めています。メタ物語性とは...ひとりのキャラクターが、複数の物語を横断して存在し、複数の運命を生きるさまを意味します。...登場人物が「キャラクター」になるとは、その存在が原作を離れ、メディアミックスや二次創作の空間の中で、もともとの物語で与えられた生とは矛盾するさまざまな生...を生きはじめることだと定義したいのです。

こういったキャラクターがラノベという作品内に収まり切れない存在になっていくさまを「キャラクターの自律化」と東（2007: 38）は呼び、このような自律化していくキャラクターを内包するラノベは、「決定的な一つの物語」を構築できない状況にあると指摘している（東 2007: 50）。そして、キャラクターの自律化は物語の地位を一層低下させていくことになる（東 2007: 40）。

情報のデータベース化

キャラクターは、上述したように、テキスト横断的に様々な作品へと出現の版図を広げていく。当然のことながら、それに連れて、キャラクターに関わる情報量は増大していくことになる。そういった情報は、やがて整理統合され、データベース構築へと連なっていく。アニメ検索サイト TINAMI がその例である（東 2001: 67-68）。そこでは、まんが・アニメのキャラクターの身体構造が、幾つかのパーツに分割・分類され、それぞれのパーツには複数の選択肢が用意され、それら選択肢は後の検索の便宜のため、インデックスの下に類型化されているのである（東 2007: 67-70, 91）。情報量が増えていけば情報の類型化は当然起こる現象だと言えるかもしれないが、この情報のデータベース化が先のキャラクターの自律性をさらに

高めていくことになる。(東[2007]はデータベースに対して明確な定義を与えていないので、本稿ではITトレンドのデータベースの定義を採用する。詳しくは§4を参照。)

今後の展望

そして、このようなラノベの変容の先に東(2007:289)は、「寓話的で幻想的なポストモダンの実存文学の系譜」が出現するかもしれないと述べているのである。

ファッション誌とのつながり

上記の東(2007)が提示するラノベの変遷解釈(その発生、キャラクターの自律化、情報のデータベース化、今後の展望、改め、幻想的世界観の提示⁶⁾が、20代女子向けファッション誌の2000年から2021年までの変遷を読み解くカギとなっている。その読み解きのアウトラインを提示する前に、本稿の中心的概念の一つとなる「自律性」と南里(2020)の「(没)固有性」の関係を明確にしておこう。

2.2 自律性と没固有性

東(2007)のいうキャラクターの「自律性」は二つのキャラクター解釈法があることを前提としている。一つは特定のラノベー作品の中でキャラクターを解釈するという方法⁷⁾、もう一つはキャラクター自体に対するデータベース的解釈法である。東(2007)がキャラクターが自律性を有すると言う時は、キャラクターの情報消費が後者の解釈法に則って行われ前者の解釈法を否定することが発生する時である(東2007:38-40)。そして、キャラクターが前者の解釈法(ラノベー作品の中でのキャラクター解釈法)を否定することで、その作品中において「決定的な一つの物語」が構築できなくなると解釈出来る(東2007:50)。

ラノベにおけるキャラクターの自律はファッション誌におけるモデルの自律に置き換えて考えることができ、「ラノベー作品の中」に存在するキャラクター解釈法は「ファッション誌の中」でのモデル解釈法だと言い換えができる。このモデル解釈法は、ファッション誌の編集側が提供するファッションスタイルに対して読者が持つ解釈法であり、ファッション誌が推すファッションスタイルの維持を阻害することも厭わない解釈法であるとする。すると、自律性の高いモデルとは、ファッション誌が推すスタイル存続の維持ができない状態へ導く、つまり、そのスタイル(ファッション誌における「決定的な一つの物語」に相当)を衰退へと

⁶⁾ 寓話性については割愛させていただく。

⁷⁾ 東(2007)は特定のラノベー作品内の話の進展を「物語」という表現で言い表すことがある。次の箇所(東2007:46)がその例である。「ライトノベルのキャラクターは、個々の物語を越えたデータベースの中に存在している。」キャラクターが自律しているのはこの「物語」に対してということになるが、この時この「物語」は当該ラノベ作品の中に作られる話の進展によってもたらされた談話的意味ということになる。

導く結果を招くモデルだと表現できるようになる。

さて、話を没固有性の方に振ってみよう。南里 (2020) は「没固有性」を有するモデルを採用しているファッション誌に読者求心力があり、「固有性」を有するモデルには読者求心力がないと述べた。前者の例は GISELe と FUDGE のモデルで、この 2 誌が採用している無名の白人モデルが「没固有性」を有するモデルの典型例だとしたわけだ。この無名白人モデルは 2018 年第 1 四半期現在、2 誌の発行部数の増加に貢献し、2 誌の推すスタイルのプロモートに寄与していると考えられることから (南里 2020)、この 2 誌の白人モデルはファッション誌からは自律していないと判断できることになる。

南里 (2020) は「没固有性」を「モデル一人一人が名前を持つ固有の人物として認識されていない」モデル属性であると定義した。この定義は Them Magazine の編集長の Ukon (2016) よりコアコンセプトを拝借した定義⁸で、彼のコンセプトを借りて「没固有性」を説明すると、「読者 (20 代の日本人女子) の住む世界とは明らかに異なる世界の住人で、一体どんな人なのか限定が難しいと感じさせるモデル属性」だと説明することができる。

後の議論の便宜を考えて、固有性及び没固有性が何により構成されているかモデルの「演じ」という観点から考察しておく。

没・固有性の構成要素

固有性を有するモデルは、ファッション誌の中では、読者になりきって読者の日常を演じる「女優型の演じ」を行うか、読者に話しかける「ラジオパーソナリティ型の演じ」を行っている。例えば、OL に扮して、職場での異性との人間関係に悩んだり (CanCam 2006: 225-239)、友人の結婚式に呼ばれたりするのは前者の例で (CanCam 2005: 58-65)、自分が誰なのか実名 (あるいは、芸名) が明かされた記事内で、独白、インタビュー、コラムの形式を借りて読者に語り掛けるのが後者の例となる (CanCam 2005: 15-21; CanCam 2017: 192-199; CanCam 2021: 15-21)。

また、モデルの演じには、「ファッションモデルとしての演じ」がある。この演じには特定の身体的特徴、モデルとしての技術、モデルとして選ばれるための内面が備わっていないと考

⁸ この定義は Ukon (2016) の次の意見を基に作成したものである。「ファッション雑誌を自負する『Them magazine』では、基本的に外国人モデルを起用します。アメリカ人もいれば、ヨーロッパや南米もいます。ただ、どこの国のモデルかは重要ではありません。逆に、何人かわからないほうが想像が膨らむので良い場合もあります。...イメージーションを喚起する際には、「リアリティ」は不要です。「憧れ」が必要なのです。商店街を歩いている学生さんをモデルにすれば、リアリティはあり、親近感がわき、自分にもこの服なら似合うかな、と思う読者がいるかもしれません。しかし、何度も言いますが、それはファッション雑誌の使命ではありません。」

⁹ 「モデル」「条件」で Google 検索した結果、『ライバーラボ』、『オーディションなび』、及び、『Think』の三つのサイトが上位検索された (2020 年 1 月 12 日現在)。この三つのサイトはモデルになるために必要な身体的特徴に身長、顔、体型、年齢を挙げており、その意見をまとめると、

以上必要)、「顔」(例えば、はっきりとした顔立ちであること)、「体型」(例えば、体全体のバランスがとれていること)、「年齢」で、これに、「モデルとしての技術」(例えばポーズのやり方)を有することと「内面」(モデル本人の面白い性格)という特徴も必要だと考えられている。

ここで言う「モデルとしての身体的特徴」と「ファッションモデルとしての演技」はファッションモデル業界にあつての基準と言えるものだが、そういった基準設定が必要なのは、個々のモデル(志望者)を、彼女らが有する身体的特徴と彼女らのファッションモデルとしての演技によって醸し出される属性を審査することで、ふるいにかける必要があるからだ。本稿では、ふるいにかける基準としての身体的特徴を「没固有性」的属性とみなし、ふるいにかけられる演技属性を個々のモデルの「固有性」的属性とみなす。また、個々のモデルの「内面」はそのモデルによる「ラジオパーソナリティ型演技」及び「女優型演技」を通して体现されているとみなすことにする。(モデルとしての「内面」に関してもモデル業界の基準というものがあるとは思われるが、本稿ではそこまで立ち入らない。)

上記の考察を踏まえると、「没固有性」は、何らかの基準にかなった「モデルとしての身体的特性」と「モデルとしての技術」によって醸し出されるモデル属性からなり、「固有性」は、ファッション誌上に見る「個々のモデルの身体的特性」と、個々のモデルの「女優型の演技」、及び、「ラジオパーソナリティ型の演技」によって醸し出される属性によって構成されることになるが、実はもう一つ大切な固有性の属性がある。

没・固有性の有用性と「ノイズ」

まずは没・固有性という概念の有用性に言及しておく。本稿では、アイドルがファッション誌にモデルとして参入したことが原因でファッション誌が推すスタイルが衰退していく過程を見ていくが、それは取りも直さず、(定義上)ファッション誌に登場するモデルが自律化していることを意味する。上記のように「固有性」と「没固有性」という概念が得られることで、モデルの自律とは次のような現象であることが説明できるようになる。即ち、モデルの自律とは、モデルの持つ「固有性」によって本来モデルが持つべき(と読者が思っている)「モデルとしての身体的特性」及び「モデルとしての技術」によって生み出される属性(つ

身長は165cm以上必要(ライバーラボ 2022, オーディションなび 2020)、顔は「良い」ことが必要で(ライバーラボ 2022)、「はっきりとした顔立ち」が好ましいとある(Think 2020)。体型は体全体のバランスがとれている必要がある(オーディションなび 2020, Think 2020)。年齢については、モデルとしてプロモートする商品のターゲット層の年齢によって適切なモデル年齢が決まるという(Think 2020)。身体的特徴に加えて、モデルとしての技術と内面も必要とされる。前者の例にはモデルがプロモートする商品の「コンセプトを自分なりに理解し」、その商品の「アピールポイントを最大限に出せるような映り方」の工夫が出来る必要があり(オーディションなび 2020)、具体的には、商品をアピールするにあたって適切なポーズやウォーキングが行えることを意味する。後者はモデルが持つ個性や面白さ(ライバーラボ 2022)、他のモデル(志望者)と差別化が出来る「キャラクター」を指すという(Think 2020, オーディションなび 2020)。

まり「没固有性」が否定され、その結果、ファッション誌が推すスタイルが読者よって情報消費されなくなっている状態をモデルの固有性が引き起こしている状態になっていることを意味する。

そして、モデルの自律化の過程を詳しく見ていくとき、もう一つ認識すべきモデル属性が見えてくる。それは、ファッション誌外に発生・存在するモデルに対するある種空気のような評価（メディアを介してばら撒かれる評判、ゴシップ、風評、スキャンダルといった称され方をする情報）である。これによって生み出されたモデルの属性は時としてモデル及びファッション誌に大きな打撃を与える。こういったファッション誌外で作られたモデル属性もモデルの固有性の重要な構成要素であり、このようなモデル属性を本稿では「ノイズ」と呼ぶことにする。

まとめると、モデルの「固有性」は、ファッション誌上に見る「個々のモデルの身体的特性」、「女優型の演技」および「ラジオパーソナリティ型の演技」によって醸し出されるモデル属性と「ノイズ」から構成され、モデルの没固有性は、誰かによって基準として設定された「モデルとしての身体的特徴」と「モデルとしての演技」によって醸し出される属性からなるモデル属性ということになる。

2.3 2000年から2021年までのファッション誌の変遷

ファッション誌3誌（CanCam、GISELe、LARME）の分析の前に、2000年から2021年間の20代女子向けファッション誌の変容がラノベの変遷の4つの要点（大きな物語の衰退、キャラクターの自律化、情報のデータベース化、幻想的世界観の提示）と符合することを簡単に説明しておく。このセクションでは、説明の便宜を考えて、大きな物語の衰退、自律化するモデル達、幻想的世界観の提示、情報のデータベース化の順で説明を行う。

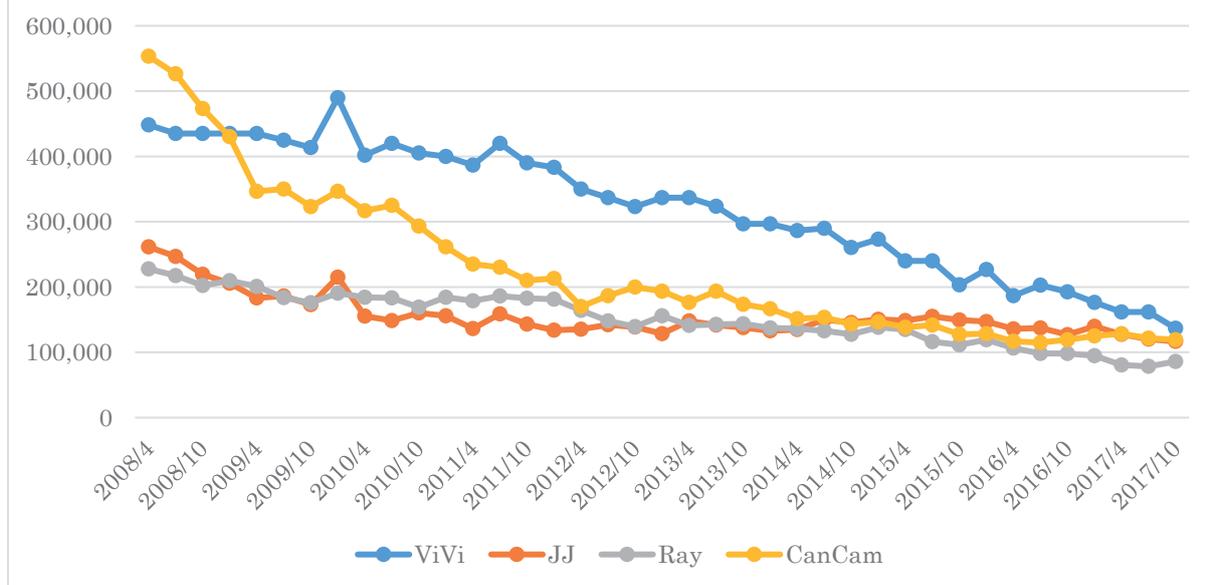
まず、大きな物語を提示したのはCanCamである。

大きな物語の存在と喪失

ファッション誌消費に大きな物語が存在していたのは2000年代初頭のことだ。蛭原友里というカリスマモデルを中心に据えた世界観の提示がそれに当たる。蛭原友里は2002年に赤字誌CanCamにモデルデビューし（小学館2019）、2003年同誌専属モデルとなる（タレント辞典2018）。CanCamの同期モデルには押切もえ、山田優、西山茉希などがいる。蛭原の専属モデル入りはファッション誌消費における「大きな物語」、即ち、CanCamの「めっちゃモテ」ブームの始まりを告げるものであった。

2003年に始まる「めっちゃモテ」ブームは2008年に終わる（文春オンライン編集部2020）。「モテ」とは、「恋愛感情に基づいて異性からちやほやされる状態」（高橋2017）を意味する表現であると考えられるが、やがて男ウケの性格を残しつつ、男女を問わずちよつとずつ

図1. 赤文字誌の発行部数推移



広く愛されるという意味で用いられるようになっていくという（内田 2008: 29）。そして、この男女を問わず愛されるという状況の中で「エビ売れ」（2005-2006 年）現象が起こることになる（digital-zasshi.jp n.d.）。「めちゃモテ」は大きな消費を喚起したブームであった。週刊大衆（2019）は 2019 年 9 月 28 日オンエアの『メレンゲの気持ち』（日本テレビ系）の内容をこう報告している。

蛭原が着たトレンチコートやワンピースが、売れに売れまくった現象“エビ売れ”については、「3000 枚売れるモデルさんっていうのは一流なんですけど」と前置きをしつつ、「エビちゃんの場合って 3 万枚いくんですよ」と桁が違うことを明かし、ファッション界でもかなり異例なことで、「異常なことが起きてましたね」と当時を振り返った。蛭原は、恩人である大西氏 [大西豊。蛭原友里 CanCam デビュー時から同誌全盛期まで CanCam 編集長を務める—筆者注] のコメントに「うれしい」「鳥肌立ってます」と、笑顔を見せていた。

こうして大きな物語となった「めちゃモテ」は 2008 年 12 月号の蛭原友里の CanCam 卒業で幕を閉じることになる。これは CanCam 清楚系スタイルの凋落の始まりなのだが、それは CanCam の発行部数の推移を追うことで確認できる。2006 年 9 月、月間発行部数 80 万部をたたき出した CanCam だったが（読書の力 2021, よっちゃんの徒然日記 2006）、2008 年に入ると急激に発行部数を減らし始め、蛭原友里卒業の CanCam 2008 年 12 月号発売（2008 年第 4 四半期）後、2009 年第 2 四半期には発行部数は 40 万部を通り過ぎ 30 万部台に落ち込んでいくのである¹⁰。（図 1 参

¹⁰ CanCam が 2008 年に急速に発行部数を減らした理由には他に、AneCan 2009 年 1 月号から蛭原友里が同誌の専属モデルになったことも挙げられる（WWD 2016）。多くの蛭原ファンが CanCam

照¹¹。) めちゃモテの終焉はCanCam的清楚系スタイルの衰退の始まりを告げることとなる。

清楚系ファッション誌が発行部数を落としている中で、発行部数を上げるのに成功した GISELe、FUDGE、LARMEにも言及しておこう。GISELeとFUDGEはキレイめ¹²ガーリースタイルを推すことから離脱することで発行部数の回復を果たすかそのきっかけを得たと考えられ、一時期低迷していたLARMEも2020年秋号で量産地雷系ファッション、及び、韓国風ファッションへシフトし発行部数を回復させたようだ。尚、FUDGEについては2018年第2四半期から発行部数を落としている事も付け加えておく。

自律化するファッションモデル

蛸原友里の大きな「めちゃモテ」物語が衰退し、ファッション誌が全面的に売れなくなっていく中¹³、現れ始めていたのは乃木坂 46 を始めとする大量生産された女性アイドル達で、この女性アイドルがファッション誌にモデルとして入ってくることになる。この女性アイドルのファッション誌進出は 2008 年の篠田麻里子の More 専属モデル就任に始まり (eltha 2018)、2011 年元モーニング娘の久住小春の CanCam 専属モデルデビュー (Oricon News 2011)、2012 年の LARME の創刊号の表紙を飾った乃木坂 46 の白石麻衣と AKB48 の渡辺麻友と続く (Sponichi Annex 2012)。それ以降、女性アイドルモデルが増えていくが、残念ながら、こういったアイドルのモデル参入は、ファッション誌の発行部数の減少を押しとどめることはできず、返って減少を加速させたとさえ考えられるのである。そして、その減少の加速化の要因の一つにアイドルモデルの個性、あるいは、彼女らの持つ個性・身体的特徴に対する半ば抽象的な批判があると考えられるのである。これらの批判は結果的にアイドルモデルをファッション誌から自律化させることとなるのである。それはコロナ禍でのジャニーズアイドルのファッション誌参入で明らかとなる。

幻想的世界観の提示

自律化したモデルが参入するファッション誌が発行部数を落としていく中で、LARME は、2020 年秋号で、紫色に染まった嵐に包まれた渋谷というディストピア的世界を誌面上に再現

から AneCan に乗り換えたのは想像に難くない。

¹¹ 本稿で紹介するファッション誌の発行部数関連のグラフ・表はすべて日本雑誌協会がネット上に公開している数値をもとに筆者が作成したものである。

¹² 本稿では「キレイめ」をカジュアルだが上品さ、彩があり、グランジスタイルのように崩し過ぎない主流スタイルの意味で用いることにする。また「清楚系」スタイルについては、キレイめスタイルの下位概念で通勤服と親和性があるスタイルであると定義する。この分類で行くと例えば LARME のストリートガーリースタイルはキレイめスタイルには入らない。なぜならば、それが主流と意識されていないと判断されるからである。

¹³ 赤文字誌の発行部数の減少と入れ替わるようにギャル系・ストリート系誌が 2009 年辺りから発行部数を伸ばしていくが (J-Cast 2009)、これも 2011 年に入ると発行部数を減らしていくことになる。

するのである。

情報のデータベース化

読者求心力を回復した LARME と GISELe はアイドルの取込みを（殆んど）行わず、誌面上の情報量を増やし、LARME は「リレーショナル型データベース」（後述）を、GISELe は「階層型データベース」（後述）を構築する。この時 GISELe が採用したモデルは没固有性を有するモデルであり、LARME は情報過多の状況を作り出し、モデルを没固有化していると考えられるのである。

3. 本稿の展開

以下、本稿は、(1) 本稿でのデータ分析に当たってのデータ選定と分類法の説明 (§4)、(2) 赤文字 4 誌中の CanCam、GISELe・FUDGE、LARME の 4 誌が推すファッションスタイルの変化 (§5)、(3) 衰退を加速化されている清楚系スタイル (§6)、(4) 読者求心力のあるファッション誌 (§7)、(5) 結語 (§8) の順で話を進めていく。

尚、(2) のファッションスタイルの検討に際しては、20 代女子向けファッション誌全体が展望できる「ファッション誌間依存相関図」を作成し、それもスタイル判定の資料とする。

4. データ選定と分類法についての説明

本稿の観察の主な対象（「主データ」）とするのは、赤文字 4 誌（CanCam、ViVi、JJ、Ray）及び GFL 誌の 2017 年 3 月号と同 7 誌の 2021 年 3 月号であるが、JJ が 2021 年 2 月号（2020 年 12 月 23 発売）で休刊となったため、JJ に関してはこの 2021 年 2 月号を分析の対象とする。また、Ray に関しては 2021 年の 2 月号と 3 月号が合併号として発売されており、Ray に関してはこの合併号を主データに入れる。LARME は 2020 年 5 月号で休刊し、同年 9 月に季刊誌として復刊する。なので、LARME 2021 年 3 月号は存在せず、本稿では LARME 2021 年春号を主データに入れる。（主データではないが、LARME 2020 秋号も重要な観察対象とする。）本稿ではこれら 2021 年の 7 つの号を一括して呼ぶときには「2021 年 3 月号」という表現を用いる。本稿で紹介するファッション誌の統計的分析結果はこの主データに掲載された情報の分析結果である。2017 年及び 2021 年 3 月号以外の号（但し上記 7 誌に限る）も必要に応じて見ていくが、それらのファッション誌も 3 月号に限定する。

雑誌の発行部数比較について、本来ならば 2021 年第 1 四半期の発行部数を採用したいところだが、JJ は 2021 年 2 月号で休刊したため同期間の発行部数の記録はなく、また、Ray は 2021 年第 1 四半期から日本雑誌協会への発行部数の提示をやめており、ファッション誌間の発行部数比較を行うにあたっては、2017 年第 1 四半期と 2020 年第 4 四半期の発行部数を採用することにする。

また、ファッション誌掲載の情報を分析するにあたっての数値の算出方法に南里（2020）のそれとは違いがあるので、その違いがどのようなものなのかの説明も交えて、本稿の議論の土台になる数値データの算出法について下に説明をしておく。

最後に、本稿で採用するデータベースの定義を紹介し、アイドルモデルの自律性に関して参考として採用したネット上の意見についても説明する。

情報量

本稿の §7 で当該ファッション誌の情報量を紹介するが、この情報量とは、アパレル記事に掲載された写真に関わる情報量のことである。「アパレル記事」とは、アウター、トップス、インナー、ボトムスのいずれかを紹介することをその記事のタイトルで明示している記事と女性へのインタビュー記事を指すものである。何がアパレル記事かの判定に当たっては、南里（2020）の判定法を見直し、南里（2020）では分析の対象としていなかった頁も本稿では分析の対象とした頁があることを報告しておく。南里（2020）のデータ抽出法の見直しに当たっては、二つの変更を行った¹⁴。

一つは、アパレル記事とそれ以外の記事（例えば小物記事）の分け方の判定に関わる変更である。例えば、ある頁にアパレルアイテムを含む複数のアイテムが紹介されている場合（例えば、アパレルアイテム、小物、鞆を紹介する三種の記事が同じ頁に共存している場合を考えてみよう）、南里（2020）はその記事群の中で多数を占める記事をもってその頁がアパレル記事かそうでないかを判定していたが、本稿ではアパレルアイテム紹介記事の占有面積が当該頁の編集面積の 50%以上を占めている場合にのみ、アパレル記事と認定することにした。

二つ目は、何ををもって女性へのインタビュー記事と見なすかに関わるものである。南里（2020）では、女性インタビュー記事を明らかにファッションアイテム紹介を行っていると思われる記事に限定したが、本稿では原則としてインタビューという形式をとっている全ての女性へのインタビュー記事をインタビュー記事とみなした。

上記の二つの変更で、アパレル記事として認定される頁が増えたため、南里（2020）が分析したデータを最初から分類・分析しなおした結果、本稿で算出した情報量と南里（2020）が算出した情報量に違いが出ることとなった。

更に、南里（2020）では、写真を4種（「人写真」[主にモデルの写真]、「物写真」[商品だけが写っている写真]、「情景写真」、「その他」）に分け、そのうち、人写真と物写真を取り出し、人写真は写真の枚数を数え、物写真は写真に写っている物の個数を数え、その両者を足した数値を情報量としていたが、本稿ではそれ以外の画像情報もカウントしている。つまり、本稿では、「人写真」、「情景写真」、「その他」（主に、イラストと 2cm²以下の面積の写真）の個数・枚数、及び、物写真に写された物の個数の合計が情報量となっている。

¹⁴ アパレル記事の詳しい分類・分析手続きは南里（2020）を参照されたし。

商品価格

本稿の§7で当該誌に掲載されているファッションアイテムの商品価格に言及するが、この価格は当該誌の全頁を調べ、そこに掲載されている当該アイテムを全てカウントして算出した数値になる。ここも南里（2020）と算出方法が異なるので説明しておく。南里（2020）は例えばニットトップスの平均価格を算定するにあたって、プルオーバー型で袖丈が肘が隠れるもののみを考察の対象とし、肘が隠れているかどうかは判定できない場合は考察の対象から外していた。本稿では、このアイテム確認法をとりやめ、商品詳細欄にニットと書いてあれば、袖丈が確認できるかどうかにかかわらず考察の対象とする事にした¹⁵。同様の判定をシャツ、ブラウスについても行った。（但し、「プルオーバー型である」という条件は除外。）また、南里（2020）では、着回しコーデで同じアイテムが紹介されるごとに同一アイテムの価格を価格計算に入れていたのだが、本稿ではそれを一切やめ、着回しの場合、価格計算に入れるのは初出の一回きりにした。

データベース

本稿では IT トренд（2021）のデータベースの定義を採用する。即ち、「データベースとは、決まった形式で整理されたデータの集まりで、データを検索しやすくしたもの。」その決まった形式とは、「階層型データベース」「リレーショナル型データベース」「ネットワーク型データベース」の三つである。本稿とかかわりがあるのは「階層型データベース」と「リレーショナル型データベース」の二つである。階層型データベースとは「ツリーのようにデータを関連付け」「上層から下層に分岐する 1 対多の形でデータが整理」されたものを言い、「リレーショナル型データベースとは「Excel のような表の形式でデータを管理」するものを言う（IT トренд 2021）。

アイドルモデルの自律性の参考資料

女性向け掲示板『ガールズチャンネル』に 2020 年 5 月にたったトピック「何故ファッション雑誌にアイドルが出るようになったのか」に寄せられた 191 名のネットユーザーの反応を女性アイドルモデルの自律性を示唆する資料として採用する。

5. 4誌のスタイルの変化

先述の通り、2000 年から 2021 年の間に起ったファッション誌におけるファッションスタ

¹⁵ ニットトップスで形状が前開きのアイテム（つまりカーデガン式のものは除外している。但し、当該ニットトップスがインナーに使われていてカーディガン式であるかどうか確認できない場合もニットトップとしてカウントしている。

イルの変化を、CanCam、LARME、GISELe、FUDGE が推すスタイルの変化に絞って見ていく。

(但し FUDGE 観察は 2018 年第 1 四半期までとする。) CanCam のスタイルは、2005 年、2006 年、2017 年、2021 年の 3 月号に掲載されたコーデを中心にいき、それ以外の 3 誌については基本 2017 年と 2021 年の 3 月号に掲載されたコーデを中心にいきながら、それぞれのファッション誌が推すスタイルの特徴、及び 2000 年から 2021 年の間のスタイルの変化を特定していく。GISELe と FUDGE のスタイル観察については、2 誌の 2017 年及び 2021 年の 3 月号に掲載されているスタイルで 2 誌が推すスタイルを特定していくが、それと同時に、この 2 誌が読者求心力を回復した原因（あるいは遠因）となっていると思われるスタイル的变化の記述も行うこととする。

が、そのスタイル特定をする前に、ファッション誌間依存関係図がどのようなものであるか説明をしておこう。

ファッション誌間依存関係図

雑誌販売専門サイト Fujisan.com で特定のファッション誌を検索すると、その雑誌と一緒に購入されている 6 つの雑誌のリストが出てくるが、この「ついで購入」関係を 20 代女子向けファッション誌を中心に選んだ 34 の女性ファッション誌に対して調べた結果をまとめたものがこの依存関係図である。

雑誌 A の購入者が雑誌 B を購入している場合、A は B に対し依存関係にあるとみなし、A から B に矢印を描く。これは A の購入者が A では紹介されていないスタイルが B には存在しており、そのスタイルが欲しいと考えたから B を購入したためではないかという仮説に基づくものである。ただ、この時 B が選ばれるには B のスタイルが A のスタイルを否定するものではないという仮説も必要だろうと考えられる。つまり A の購入者は、B のスタイルが A のスタイルに対して親和性があると感じているはずだということだ。

話しを先の依存関係に戻すと、更に雑誌 B の購入者も雑誌 A を購入している場合、雑誌 A と B は相互に必要とし合う関係にあると解して、両雑誌を矢印のない濃い実線（以外「実線」）で結ぶ。（この場合の AB の関係を「A と B は相互依存関係にある」と表現する。）この二つ作業を 34 のファッション誌に対して行ったものが図 2 の雑誌間依存関係図である。但し、図中の黒塗りの雑誌 2 誌については、この 2 誌から見た他のファッション誌への「ついで購入」関係は、図が見づらくなるので、記入していない。

5.1 赤文字誌清楚系スタイル代表の CanCam

図 2 で赤文字 4 誌のファッションスタイル的立ち位置をみてみよう。このファッション誌間依存関係図中、赤で強調したのが赤文字 4 誌である。CanCam と ViVi が相互依存関係にあ

って赤文字 4 誌の中核をなし、この 2 誌に対して Ray と JJ が依存している関係が見て取れる。

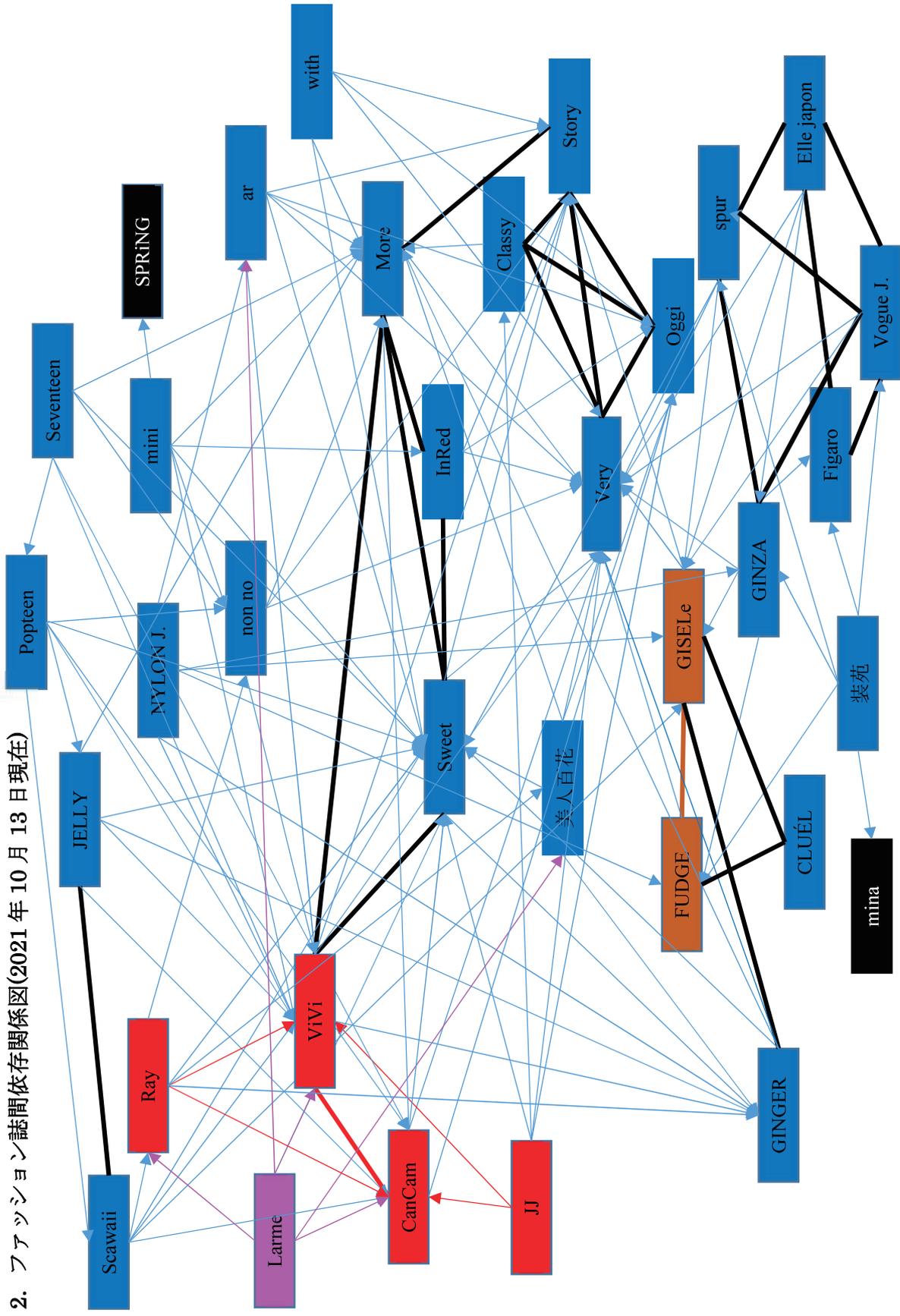
2021 年時点で、『ファッション雑誌ガイド』は CanCam のスタイルを「20 代中心の OL/通勤服&フェミニンスタイル」と紹介し、ViVi のスタイルを「10 代後半～20 代の大人ギャル系 & ガーリースタイル」と紹介しているが (ファッション雑誌ガイド 2021a, 2021b)、本稿では、ViVi のスタイルを「ギャル系」¹⁶と呼び、そして、CanCam のスタイルを「清楚系」と呼ぶことにする。そうすると、ViVi 以外の赤文字 3 誌は ViVi のギャル系スタイルに対して依存関係にあり、CanCam 以外の赤文字 3 誌は CanCam の清楚系スタイルに対して依存関係にあると表現できるようになる¹⁷。

では、「大きな物語」を体現した CanCam の清楚系スタイル (2005 年、2006 年) とは具体的にどのようなものであったのだろうか。また、そのスタイルは 2017-2021 年期にはどのように変化しているのだろうか。

¹⁶ ViVi 2017-2021 年 3 月号より ViVi の「ギャル」アイテムの典型例を出すと、トップスだと、フーディやスエットシャツ (ViVi 2017: 58, 78, 79, 94, 108, 123; ViVi 2021: 44, 75, 77, 91, 93, 100, 103, 117, 118, 119)、パーカやウィンドブレーカー (ViVi 2021: 105, 110)、(特にロゴ入り) T シャツやロング T シャツ (ViVi 2017: 46, 54, 79, 115, 120; ViVi 2021: 81, 89, 90, 112, 113, 114, 115)。CanCam であればトップスはニットやカットソーになるところ。ボトムスだと、(特にスリットが入った) ワイドパンツまたはフレアパンツ (ViVi 2017: 44, 50, 51, 60, 64, 66, 98; ViVi 2021: 23, 103, 119, 128)。スカートでは、ミニスカートまたはミニワンピース (ViVi 2017: 34, 35, 42, 46, 49, 52, 59, 64, 71, 74, 75, 79; ViVi 2021: 46, 73, 74, 76, 77, 87, 89, 90, 105)。特にミニスカート着用に当たってはタイトなコーデで体のラインがはっきりと分かるコーデも特徴的。対称的に、CanCam のコーデは後に見るように、体のラインを隠す方向に変容している。

¹⁷ これは赤文字雑誌群の中核である CanCam は清楚系の中核で ViVi はギャル系の中核で、それ以外のスタイルの中核は赤文字誌群の中には存在しないという仮説に基づくものである。

図2. ファッション誌間依存関係図(2021年10月13日現在)



大きな物語のスタイル

渡辺（2016: 83-84）によると、赤文字3誌（ViVi 以外）共通のフェミニンなスタイルは、1990年代のストリートファッションと入れ替わる形で再浮上したスタイルで「紺のワンピースや、ファンシーツイードのスーツ、リボンやパイピングのディテールなど、清楚で上品なイメージ」を特徴とするスタイルを源流とする。この「神戸エレガンス系」（渡辺 2016: 84）と呼ばれるスタイルは JJ によって積極的にプロモートされ（Elastic 2006）、2001年 OL 層を中心に全国的に大ブレイクするが（imididas n.d.）、このスタイルはその後 CanCam の「コンサバ」スタイルに押され、2004年以降この CanCam のスタイルに主導権を明け渡すことになる（内田 2008）。

大きな物語期の CanCam のスタイルを同誌全盛期の 2005-2006年 3月号掲載のコーデで特定してみよう。この当時、CanCam のスタイルは大きく二つのスタイルに分かれていた。CanCam 2005年 3月号に蛭原友里、山田優、押切もえの3人のモデルの対決形式のファッション記事が掲載されているが（CanCam 2005: 88-119）¹⁸、この中で蛭原は「かわいい系」スタイルの、そして、山田は「カッコイイ系」スタイルの代表という設定になっている。この二つのスタイルは CanCam 2006年 3月号掲載の「オフィスおしゃれ頂上対決」と題する記事（CanCam 2006: 94-107）でも取り上げられている。この二つのスタイルは CanCam のベースラインを形成し、蛭原のスカートベースの「かわいい系」が CanCam の清楚系スタイルを代表し、山田の「カッコイイ系」は同誌のデニムパンツベースのマニッシュなシュカジュアルコーデを代表していたと考えられる。以下、本稿では蛭原の清楚系スタイルコーデにのみ焦点を当てながら、CanCam の清楚系がどのようなスタイルなのか特定するが、その際、使用する表現は「清楚系」とし、「かわいい」は後に CanCam のスタイル展開の状況観察の時に取り上げることにする。

それでは、CanCam 全盛期の清楚系スタイルを見ていこう。

2005-2006 年期の清楚系の特徴

2005-2006 年期の清楚系について、まず押さえておくべきことは、CanCam が掲載する衣服は通勤服と親和性の強いものであるという点だ。この親和性は CanCam が当時好んで用いていた「OL 対決」という状況設定でのコーデ紹介によく表れている¹⁹。OL という職業に合ったコーデを紹介しているという点で（飽くまでも当時のレベルで）保守性の高い衣服のプロモートを行っていたと言える。

¹⁸ 既に述べたことだが、本稿で引用するファッション誌は LARME 2020 年秋号を除いてすべて 3月号である。よって、標記「CanCam 2005」は、CanCam 2005年 3月号を意味する。

¹⁹ OL 対決をテーマとしたアパレル記事は CanCam（2005:88-119）、CanCam（2006: 96-107）を参照のこと。

その清楚系の特徴だが、スカートでは、膝丈または膝上 10 センチ以内（膝上丈）が主流²⁰。10 センチをわずかに超えるミニスカートの着用はあるものの数は多くなく、マイクロミニ着用例はない²¹。膝下丈の場合は膝がやっと隠れる程度の長さで²²、ミモレ丈・ロング丈のスカート着用例はない。シルエット的にはタイト又はフレア系となっている。

トップスは、スカートとの組み合わせでいけばプルオーバー型ニットトップスが基調となっているようだ²³。袖丈は短いものが多い。トップスの肌見せには気を遣っていて、肩見せはドレスかノースリーブのニットトップ着用の場合だけで²⁴、トップがベアトップあるいはキャミソールの場合はアウター（ジャケットかカーディガン）を必ず纏っている²⁵。

また、白・黒のコントラストも特徴的である。明度の高い白、及び/あるいは、明度の低い黒のアイテムを組み合わせたコントラストコーデの採用。典型例を指摘すると、黒のニットトップと白のミニスカートのコーデ（CanCam 2005: 92, 94; CanCam 2006: 28, 57）、白のキャミソールと黒のスカートのコーデ（CanCam 2006: 54）、ピンクのカーディガンと白のワンピースのコーデ（CanCam 2005: 97）、白のワンピースコーデ（CanCam 2006: 36, 42-43, 66）、黒のジャケットと白のスカートまたはワンピースのコーデ（CanCam 2006: 66-67）などが挙げられる。これら以外にも明度の高い白と明度の低い黒を取り入れたコーデは CanCam2005-2006 年 3 月号の随所に掲載されている。

さてこの清楚系スタイルは 11 年後どう変わったのか、次に見ていこう。

2017-2021 年期の清楚系

一番大きな特徴は、肌見せの回避である。まず、スカート丈（ワンピースも含む）から見ていくと、2017 年 3 月号では、膝上丈、膝丈、膝下丈、ミモレ丈の使用が多く、この中で最も

²⁰ 本稿では、ファッションスタイルの判定に当たっては、モデル着用のコーデでスカート丈が判定できるもののみを考察の対象とする。

²¹ 膝丈のスカートは CanCam (2005: 96) のペンスルスカート、CanCam (2005: 147) のイレヘムスカート、CanCam (2005: 177) のシフォンスカート、CanCam (2006: 54) の黒のスカート、CanCam (2006: 66) の下の段の右側の三つのスカートなどがある。2005 年は膝上丈が主で、ミニスカートの例は CanCam (2005: 52) の左端のティアードスカート、CanCam (2005: 92) の中央の白のスカートを参照のこと。マイクロミニスカートは押切もえ（例えば、CanCam [2005: 158] の上段のミニスカート）や西山茉希（例えば、CanCam [2006: 78] 上段のミニスカート参照）の担当となっている。

²² 膝下丈は 2006 年 3 月号に多く掲載されている（例えば CanCam [2006: 67] の下段右端の二つのスカート）。

²³ CanCam (2005: 92) の右端と中央の黒ニットと白のミニスカートのコーデがその一例。CanCam (2006: 66) の頁上段左端の二つのスカートコーデも参照のこと。

²⁴ CanCam (2006: 94) の頁左端のコーデ、CanCam (2006: 67) の頁中央のコーデ参照のこと。

²⁵ キャミソールの例は CanCam (2005: 96) の頁下段の左から二番目のコーデ、CanCam (2006: 54) の頁右端のコーデ参照のこと。ベアトップの例は CanCam (2005: 178) の頁下段右端のコーデ、CanCam (2006: 69) の頁上段の右から 3 番目のコーデ参照のこと。

着用例が多いのはミモレ丈である²⁶。この脚を覆う現象は2021年3月号では更に強まり、主流丈はロング丈に移行しており²⁷、そのうち過半数がワンピースとなっている。シルエット的にはフレア系が基調となっている。

トップスは、2017年では、プルオーバー型ニットトップスが主流で²⁸、袖丈は長袖及び七分袖が大多数を占めている²⁹。2005-2006年期と比べると、スカート同様、トップスも肌を隠す方向にシフトしているのが分かる。このシフトは2021年3月号でも維持されているようで³⁰、同号ではモデルが纏うコーデでモデルの全身が確認できるコーデ総数のうち、トップスの長袖の採用率は全体の半数を超えている³¹。2021年のスタイルと2017年のとの違いは他に、王道ニットトップスの使用頻度が下がったことと、ワンピースの使用頻度が上がったことだろう。2017年ではスカートコーデのおよそ半分がニットトップであったものが、2021年には20%に減っている。2021年のトップスの使用例をみるとワンピース、スエット、パーカ、Tシャツといったアイテムが選択されているのに気づく³²。更に、純度の高い白・黒を入れたコントラストコーデは完全になくなっている。

肌見せがなくなり、色のコントラストも明確でなくなり、ワンピースの増加で体全体はすっぽりと覆われ、体の輪郭を隠すスタイルとなっている。このスタイルを2005-2006年期の

²⁶ 例えば CanCam (2017: 24) のギンガム柄スカート、CanCam (2017: 38) のグリーンのレアスカート、CanCam (2017: 139) のイレヘムスカート参照のこと。

²⁷ 例えば、CanCam (2021: 15) のロング丈ワンピース、CanCam (2021: 23) の花柄ロングスカート、CanCam (2021: 50) のロング丈プリーツスカート参照のこと。

²⁸ 先に紹介した CanCam (2021: 50) のロング丈プリーツスカートのトップスはプルオーバー型ニットトップとなっているが、その時々適切なカート丈ニットトップ（柄無し単色）は清楚系一での王道あると言えそうだ。

²⁹ CanCam (2021: 50) のニットトップスはまた七分袖のアイテムでもある。この写真で向かって左の袖は五分丈見えるが、肘の辺りで折り曲げてある。

³⁰ 先に紹介した CanCam (2021: 50) のプリーツスカートのトップスの一つがインナーのニットトップである。

³¹ 2017年3月号スカートコーデは全部で39点。（モデルが纏うコーデでボトムスの丈が判定できるものに限定していることに注意。これはこの次の脚注も同様。）そのうち、最も多いのがミモレ丈スカートで掲載点数13点（全体の33.3%）。これに、膝上丈が8点（20.5%）、膝下丈が6点（15.4%）と続き、ロング丈、膝丈、ミニがそれぞれ4点（10.3%）と続く。2021年3月号のスカートコーデは全部で50点。そのうち最も多いのはロング丈の34点（68%）で、これにミモレの8点（16%）、膝上丈の7点（14%）、ミニ丈の1点（2%）と続く。袖丈でみると、CanCam2017年のスカートコーデ39点中、長袖は14点（35.9%）、七分袖は13点（33.3%）、これに五分袖と不明（アウターに隠れて判別が出来ないケース）がそれぞれ5点（12.8%）、半袖とノースリーブがそれぞれ1点（2.6%）となっている。2021年のスカートコーデ50点中、長袖トップスを採用しているのは26点（52%）、七分袖と五分袖がそれぞれ5点（10%）で半袖とノースリーブがそれぞれ3点（6%）、不明が8点（16%）となっている。スカートコーデ50点の形態の内訳をみると、ワンピース25点（50%）、ニット10点（20%）、カットソー5点（10%）、ブラウス4点（8%）、スエット2点（4%）、Tシャツ、パーカ、カーディガン、シャツがそれぞれ1点（2%）となる。

³² トップにスエットの例は CanCam (2021: 56) に2例、パーカの例は CanCam (2021: 61) に、Tシャツの例は CanCam (2021: 23) にある。先のコーデ39点中、トップスにニットのプルオーバーを用いているのは21点で全体の53.8%を占めている。

スタイルと比べた時、この両スタイルを「かわいい」という名の下に置くのは違和感を覚える。もし「かわいい」というコンセプトを CanCam が 2005-2006 年期以降も使い続けていけばの話であるが。結論から言えば、CanCam は「かわいい」から他の方向に向かっているのではないかと思われるのである。

清楚系と「かわいい」の関係

先に CanCam 全盛期に CanCam の清楚系スタイルは「かわいい系」と表現されたと指摘したが、その後の CanCam の編集サイドが「かわいい」をどう扱ってきたかを、CanCam 3 月号のファッション関連記事のタイトルと歴代編集長の「かわいい」に対する意見を交えて、みてみよう。

2005-2006 年の CanCam 3 月号（大西豊編集長）においては蛭原が纏うファッションスタイルに「かわいい」が用いられていたことは既に見た通りである。それ以後、「かわいい」の表明は断続的に行われていく。2007 年大西のあとを継いだ兵庫真帆子編集長の下、蛭原友里は 2008 年 12 月号で CanCam を卒業。翌 2009 年の 3 月号では「やっぱりカワイイが好き CLUB」と題する春服速報が掲載されている（CanCam 2009: 115-121）。兵庫の後継者、加藤睦美編集長下の 2010 年 3 月号では「春準備スタート 2 週間コーディネート」という記事でモデルの舞川あいくが「ミーハーかわいい OL」を演じており（CanCam 2010: 70-77）、加藤を継いだ嶋野智樹編集長下の 2011 年 3 月号では「かわいいものしか欲しくないッ！」で春の新作小物紹介がなされ（CanCam 2011: 38-51）、同じく嶋野編集長下の 2012 年 3 月号では「衝撃かわいい春ヘア」が掲載されている（CanCam 2012: 168-177）。

上記において「かわいい」は必ずしも服のスタイルへの言及として用いられているわけではないが、2013 年秋に井亀真紀が編集長に就任すると、「かわいい」というコンセプトが CanCam に明確なかたちでアパレル記事で用いられてくる。2013 年井亀編集長の下、CanCam は「世界のかawaiiが集まる場所」であることが宣言され（CanCam.jp 2013）、年が明けた 2014 年インタビューに答えて「今の日本の女の子の、独特の世界観を脳内に入り込んで、『かわいい』を発信していきたい」と語り（CanCam.jp 2014）、これを反映して、2014 年 3 月号には「春は“女の子モノトーン”がかawaiiすぎ！」と題した記事が掲載され（CanCam 2014: 48-57）、2015 年 3 月号では「かわいい」と「きちんと感」が共存するコーデ提案の特集記事「23 歳からは“モテるシンプル”」が掲載されることになる（CanCam 2015: 34-43, 56-143）。この時、「かわいい」を演じた看板モデルは山本美月であった。

2015 年秋、編集長は井亀から塩谷薫へバトンタッチされ、CanCam のかわいい路線を引き継ぐことが宣言されて（CanCam.jp 2015）、2016 年 3 月号に「かawaiiいめ OL・美月の春靴&春バッグ完全コピー 3 セット」が掲載されるが（CanCam 2016: 108-115）、2017 年 3 月号（塩谷編集長）には「かわいい」という表現を入れたタイトルを持つファッションアイテム紹介記

事は姿を消す。代わりに、体を鍛える「大特集号」に「かわいく鍛える」と「かわいい」というコンセプトが用いられている（CanCam 2017: 83-131）。「かわいい」という表現は2018年3月号（塩谷編集長）でも2019年3月号（高田浩樹編集長）でも記事のタイトルには用いられておらず、2020年3月号（高田編集長）で「小室安未と雪のかわいい関係」で再び現れるも（CanCam 2020: 12-17）、2021年3月号（安井亜由子編集長）では再び「かわいい」は姿を消している。ただ、同号で印象的なのは表紙に印刷された「新しい私になりたい」だ。CanCamは「かわいい」スタイルを提案する代わりにある意味無色の「新しい私」になれるスタイルを提案しているのである。CanCamは自らが推す清楚系スタイルを「かわいい」で限定するのをやめたということなのかもしれない。

であれば、これまで CanCam 的清楚スタイルが占有していた「かわいい」で言及されていたファッション誌消費の意味領域が真空地帯となった形になる。ここに2012年の創刊以来「かわいい」を掲げ LARME が復刊することになるわけだ（2020年9月）。

旧カワイイ系と新カワイイ系

2005-2006 年期から 2021 年の間、CanCam の「かわいい」系スタイルは開放的な清楚から肌隠しの清楚に変わって来たわけだが、この一連の CanCam の「かわいい」を次節の LARME が推す「かわいい」（スタイル）と合わせて「カワイイ」と表記し、CanCam のスタイルを「旧カワイイ系」と言及し、LARME のスタイルを「新カワイイ系」と呼ぶことにする。

5.2 新カワイイ系LARME

2020年5月号で一旦休刊し、同年9月に2020年秋号として戻ってきた LARME。2017年から2021年までのスタイル的变化をまとめると、甘めアイテムの激減と黒または黒系の色の使用の増加で、LARME 全体に、妖精っぽさ（後述）がなくなり、若干大人っぽいストリートカジュアルに舵を切ったということだろう。

それでは、図2で LARME のスタイルを考察してみよう。同図で LARME はピンクでハイライトしてある。まずは、LARME は JJ 以外の赤文字3誌に対して依存関係にあるファッション誌だと言うことが分かる。LARME はまた、フェミニン系の美人百花や ar に対しても依存関係にあることも分かる。LARME の購読者は LARME のファッションスタイルが、これらフェミニンスタイルや CanCam 的清楚系スタイルと親和性があると思っている可能性が高い反面、図2に示されているように、赤文字誌（そして、美人百花と ar）の購読者は LARME のスタイルに対して親和性を感じていないと考えられる。

上記の親和性を念頭においてネットに目を転じてみると、『ファッション雑誌ガイド』では LARME のスタイルは「10代後半～20代のカワイイ&ガーリースタイル」とであるとされている（ファッション雑誌ガイド n.d.c）。キーワードはやはり「カワイイ」だ。LARME は2012

年に創刊されて以来、毎号表紙に「甘くて、かわいい女の子のファッション絵本」との宣言文を掲載しており、この宣言文は2020年復刊されてからもLARMEの表紙に印刷され続けている。この宣言文はまたLARMEのホームページのランディングページにも掲載されている。「カワイイ」はLARMEにとっても必須のコンセプトと言ってよい。

LARME2017のスタイル

2017年のLARMEのスタイルは甘めスタイルだ。上記でLARMEのCanCam的清楚系スタイルとの親和性を示唆したが、その一例として花柄のワンピースを取り入れているコーデを挙げることが出来るかもしれない。しかしながら、CanCamにも掲載されていそうなワンピースもLARMEは甘めコーデに仕上げていく。花柄ワンピースにベレー帽(LARME 2017:15)やレースのチョーカー(LARME 2017:31)といったアイテムを足していく訳だ。LARME 2017年3月号は、こういった甘さを醸し出すアイテムの採用が大きな特徴の一つとなっている。

LARMEの甘めスタイルの典型例は、しかしながら、パステルカラー(または、淡い色)の「ヒラヒラ系」アイテムで演出されるスタイルだ。例えば、シアン系パステルカラー(あるいは、淡いシアン系色)のオーガンジーティアードスカート(LARME 2017:26)、同じくシアン系パステルカラーのチュールスカート(LARME 2017:26)、黄緑色系パステルカラーで裾がチュールのフリルでエッジングされたスカート(LARME 2017:88)、ピンク系パステルカラーで正面に八の字形のフリルが縫い付けられたミニスカート(LARME 2017:37)。こういったアイテムがLARMEの甘さを典型的に演出するスタイルである。

トップスの例を挙げると、ピンク系パステルカラーのパゴダスリーブ付きチュールブラウス(LARME 2017:36)、オレンジ系パステルカラーのパフスリーブ付きのシフォントップ(LARME 2017:36)などの甘めアイテムを挙げることができる。レース生地アイテムも「ヒラヒラ系」のアイテムとして挙げておく必要があるだろう。例えば、レースのガウン(LARME 2017:28)、エクステンションカフ付きのレースブラウス(LARME 2017:35)、肌が透けて見える5分袖のレーストップ(LARME 2017:37)など。LARME 2017年3月号の冒頭でおとぎの国の妖精というセッティングで特集記事が組まれているが、まさに、そのイメージが上記の甘めアイテムで具現されていると言ってもよいだろう。

だが、その一方で、ストリート系コーデも注目しておく必要がある。例えば、シャツとデニムミニスカートのコーデ(LARME 2017:30)、オフショルニットトップとデニムミニスカートのコーデ(LARME 2017:46)がまずは挙げられるが、LARMEのストリート系コーデで注目すべきは、黒を入れたミニスカートコーデだ。例えば、ピンクのマイクロミニスカートに、黒のMA-1ジャケット、ピンク系パステルカラーのパーカーのコーデ。ピンクのミニプリーツスカートに、黒のセーラージャケット、グリーン系パステルカラーのパーカー、シアン系パステルカラーの花柄ロングTシャツ(以下「ロンT」)のコーデ。黒のミニのタイトスカートに、

薄いピンクのパーカ、シアン系パステルカラーの花柄ロンTのコーデ（この3例はいずれもLARME 2017: 25）。更に「Mini vs Long」と題された記事にも黒を入れたミニスカートコーデが掲載されている（LARME 2017: 45-49）。ここで注目したいのはLARME（2017: 25）に採用されている韓国系スタイルの提案に力を入れているブランド pipilottie（2017年7月1日に&lottieに改名）の存在だ。同ブランドのアイテムを入れた開放的モノトーンミニスカートコーデには韓国ストリートスタイルと親和性があると考えられる（後述）³³。

LARME2021のスタイル

2021年のLARMEのスタイルだが、2017年との違いは下記の通りだ。（1）甘めアイテムの激減と（2）黒または黒系色を採用したアイテムの多用。この結果2021年のLARMEには、子供っぽさからある程度脱したストリート系スタイルへとLARMEは傾斜することになる。

甘めアイテムの激減から説明する。まずパステルカラーが殆ど姿を消している。ピンク系パステルカラーのベルベットスカート（LARME: 2021: 6）、同じくピンク系パステルカラーのオーガンジーワンピース（LARME: 2021: 7）、オレンジ系パステルカラーのレースのワンピース（LARME: 2021: 11）など生残りを見かけるものの、パステルカラーのアイテムは数えるほどしかない。衣服のカテゴリーでいえば、チュールスカートが一点掲載されるのみ（LARME: 2021: 27）で、2017年のヒラヒラ系妖精ファッションはほぼなくなっている。服の構造的変化に言及すると、服に起伏が殆どなくなっていると言える。

パステルカラーの減少は、明度の低い黒、あるいは、黒に近い色（ダークまたはダークグレイッシュ系）を使用しているアイテムが増えたことで、なお一層パステルカラーの減少が強調される形となっている。いくつか例を出すと、青紫のワンピース（LARME 2021: 2-3）、黒のリボンと灰色のワンピース（LARME: 2021: 10）、「春の着まわし開幕戦スタート」で紹介されているギンガムのレオタード、黒のキャミソール、ギンガムの台形スカート、黒のシンメトリセットアップ、黒のロングワンピース（LARME 2021: 14-25）が挙げられる。他に黒を用いたコーデはLARME（2021: 27-31, 34-36, 42-49）などでも紹介されている。

さて、この黒または黒系統の色の増加の理由だが、二つ考えられる。一つは量産型・地雷系ファッションの影響だ。LARMEが2020年秋に復刊した時、この復刊号の冒頭を飾ったのは量産型・地雷系ファッションの特集記事だった（LARME 2020: 12-21）。吉木千沙都が量産型コーデを纏い、なえなのが地雷系コーデを纏っての登場である。2020-2021年の量産・地雷

³³ &lottieの経営母体であるcoogeeは2017年4月に当時もLARMEのレギュラーモデルだった吉木千沙都を招いて原宿ラフォーレでポップアップショップのオープニングセレモニーを行っているが、このショップは韓国ブランド（「chuuの姉妹ブランド」）のとのコラボとなっている（PRTIMES 2017）。coogeeはアジアのファッション全体に目を向けたブランド創造会社で、そのホームページには次のようなメッセージが掲載されている。「トレンドがボーダレスに広がった今、日本からもトレンドを生み出せるように、視野がアジアに溶け合う事で個人がより豊かな生活を送れるように、少しでも皆様が成長するためのキッカケ作りに貢献ができればと考えています。」(coogee n.d.)

の両スタイルの一例として、フレアミニスカートとフリルブラウスの組み合わせで、色は黒、白、ピンクが主流というコーデがある。量産・地雷両スタイルの境界線は不明確だが、地雷系ファッションが黒が多用されるという (Joshime 2020)。この影響が LARME (2021) にも引き続け現れていると考えられる。数は少ないが LARME (2021) にも明らかに地雷系スタイルと呼べるものが掲載されている。黒のリボンのミニ丈ベビードールドレス (LARME 2021: 10)、黒リボン付き白のブラウスとギンガムチェックのミニスカートコーデ (LARME 2021: 17) がその例である。

もう一つの理由は韓国ストリートファッションの影響である。LARME (2021) のモデルの neo が纏っているコーデがその例となるが、noe が主演の記事のタイトルはこうなっている。「モノトーンを基調とした韓国風ストリート/NEO/YG STREET STYLE」 (LARME 2021: 38-48)。(「YG」とは韓国の芸能プロダクション YG エンターテインメントを指し、この芸能プロダクションは nonagon というストリートファッションブランドを運営している。) neo のコーデは、色で言えば、黒、白、オフホワイトの3色構成で、その例として、黒のクロップトトップと千鳥柄ミニスカートのコーデ (LARME 2021: 42)、同じく黒のクロップトトップと白のサテタイトミニスカートのコーデ (LARME 2021: 48) が挙げられる。(因みにこのサテンスカートは&lottie のアイテムを使用している。)モノトーンの組み合わせについては Hack Media (2016) は韓国ではシックな黒、茶色を好むと報告している。また、韓国では体のラインが明らかになるスタイルが好まれているとの指摘はよくなされており (Hack Media 2016, JOAN 2019, noritter 2021)、モノトーンでミニスカートコーデは韓国ファッションからの影響も十分に考えられるところである。ただ、この記事 (LARME 2021: 38) のタイトルにもあるように、純粋に韓国スタイルではなく飽くまでも韓国風であることは留意すべき点である。黒のクロップトトップの上にパフスリーブのモヘアニットのレイヤードコーデ (LARME 2021: 38) やガウンワンピースを羽織ってのレイヤード (LARME 2021: 42,44) は多分に日本的だろうと思われる。

さてこのような地雷型・韓国風スタイルが「カワイイ」スタイルとして LARME (2021) は推して来たわけである。清楚系スタイルが去ったと思われるカワイイの真空地帯に。

5.3 ボーイッシュ志向系

20代初頭のファッションにおいて清楚系の衰退が進行する中、20代後半女子の領域においては、キュートなガーリースタイルが敬遠され、ボーイッシュへのシフトが起こっていたようだ。GISELe と FUDGE の発行部数が増えたのはこのボーイッシュへの潮流に乗ったからだと言えよう。

それではまず、GISELe と FUDGE のスタイルがどのようなものなのかファッション誌間依存関係図で見てみよう。図2を見ていただきたい。GISELe と FUDGE は茶色でハイライトし

ている。GISELe と FUDGE は、CLUÉL も入れた 3 誌で相互依存関係を形成し、GISELe は更にこれとは別個に GINGER と相互依存関係を結んでいることが分かる。GISELe を中心とするアラサーカジュアル誌群が形成されていることがこの依存関係図から見て取れる。

『ファッション雑誌ガイド』は FUDGE のファッションスタイルを「20代～30代のトラッド&ハイカジュアルスタイル」と説明し、GISELe のスタイルを「20代～40代のカジュアル&大人カジュアルスタイル」と説明しているが(ファッション雑誌ガイド n.d.d, n.d.e)、この 2 誌のスタイル的特徴を語るには、この 2 誌がボーイッシュなアイテムを取り入れたコーデを多く提案している点に着目し、そのスタイルに関するトレンド的背景も考慮する必要がある。

FUDGE のスタイル

まずは FUDGE のスタイルから見ていこう。FUDGE が最も頻繁に提案しているコーデは、シャツを入れたコーデだ。ボーイッシュで女性的な飾りや構造をしていないシャツを入れたコーデである。例えば、ストレートデニムパンツとチェック柄のシャツ (FUDGE 2017: 43)、ゆったりめ目のパンツとストライプ柄のロングシャツ (FUDGE 2017: 85)、ストレートブルーデニムパンツとオフホワイト V ネックニットベストの下に着られた白シャツ (FUDGE 2017: 75) といったボーイッシュコーデが FUDGE の一推しのコーデと言える³⁴。2021 年 3 月号からは、チノパンと合わせた白シャツとデニムシャツ (FUDGE 2021: 36)、白デニムパンツと重ね着されたスエットシャツとシャツ (FUDGE 2021: 46)、スエットパンツと重ね着されたストライプシャツと水色のシャツ (FUDGE 2021: 57)、ウォッシュトテーパーデニムパンツと薄いベージュのシャツのコーデ (FUDGE 2021: 61) を挙げておきたい。なお、言うまでもなくボトムスもボーイッシュで、女性的飾りが付いたり女性的フォルムをしたボトムスは殆ど使用されない³⁵。また、シルエット的には基本はスキニー以外のゆったり感のあるパンツが採用されている。

GISELe のスタイル

続いて GISELe だが、まずはデニムパンツコーデの多さが第一の特徴だ。GISELe のトップスは FUDGE のそれよりフェミニンなものが多いが、それらがデニムパンツと組み合わせられフェミニンでありながらもボーイッシュスタイルも保持しているというコーデが出来上がった

³⁴ 2017 年 3 月号でボーイッシュなシャツを入れた他のコーデの例は次の頁を参照されたし。FUDGE (2017: 12, 27, 31, 39 [頁右のモデル], 66 [頁の左右両端のモデル], 67 [頁右端のモデル], 68 [頁右のモデル], 76, 84 [頁下段のモデル], 105, 117, 125)。

³⁵ 2021 年 3 月号のボーイッシュなシャツを入れた他のコーデの例は次の頁を参照されたし。FUDGE (2021: 19, 21, 25, 27, 34-36, 45 [頁の右端のモデル], 46 [頁上段の真ん中と右端を除いたモデル], 48, 52, 55-60, 73 [右端二人のモデル], 81, 86, 109 [頁右端のモデル], 110 [頁左上のモデル], 111 [頁右下のモデル])。

ているのが GISELe の特徴である。例えば、デニムのオーバーオールにフリルネックのブラウス (GISELe 2017: 23)、細目デニムパンツに左右の鎖骨が見える V ネックブラウス (GISELe 2021: 37)、スリムパンツにノースリーブハイネックニットトップ (GISELe 2021: 62)、白のテーパードクロップトデニムパンツにベルスリーブ付きオフショルブラウス (GISELe 2021: 63) といったコーデがこのコーデの例となる。また、女性的要素とラフなデニムパンツを軸とした挑戦的ボーイッシュコーデもこのコーデの一形態である。例えば、黒のレザーブルゾンと黒 T シャツのトップにウォッシュトデニムパンツと黒パンプスの組み合わせ (GISELe 2017: 48) やチャコールのジャケットとグレイ T シャツのトップスにウォッシュトデニムパンツと黒のパンプスの組み合わせ (GISELe 2021: 43) がその例となる。これ以外にはユニセックス、あるいは、ボーイそのものと思われるようなコーデも GISELe の特徴として挙げておく。前者の例は、デニムパンツとボーダーニットトップ (ブルオーバー型) の組み合わせ (GISELe 2017: 54; GISELe 2021: 50³⁶)、後者の例は黒レザートップ、および、スリムデニムパンツと黒のショートブーツの組み合わせ (GISELe 2017: 49)、黒のタートルネックに濃紺の長袖 T シャツのトップを黒スキニーデニムパンツで合わせたコーデ (GISELe 2021: 103³⁷) を挙げておこう。

さて、上記のように 2 誌のスタイルを概観すると、2 誌のスタイルをボーイッシュと呼んでよさそうだが、この 2 誌はスカートベースのフェミニンなコーデも提案している。なので、この 2 誌のスタイルを「ボーイッシュ志向系」と呼ぶことにする。

この 2 誌に関してはもう一点付け加えるべきことがある。それはこの 2 誌が嘗てキレイめガーリー誌であり、ファッションスタイルをキレイめガーリーからボーイッシュへ転換することで発行部数を回復することが出来たと考えられることである。

5.3.1 ボーイッシュ志向系へのシフト

FUDEGE の場合

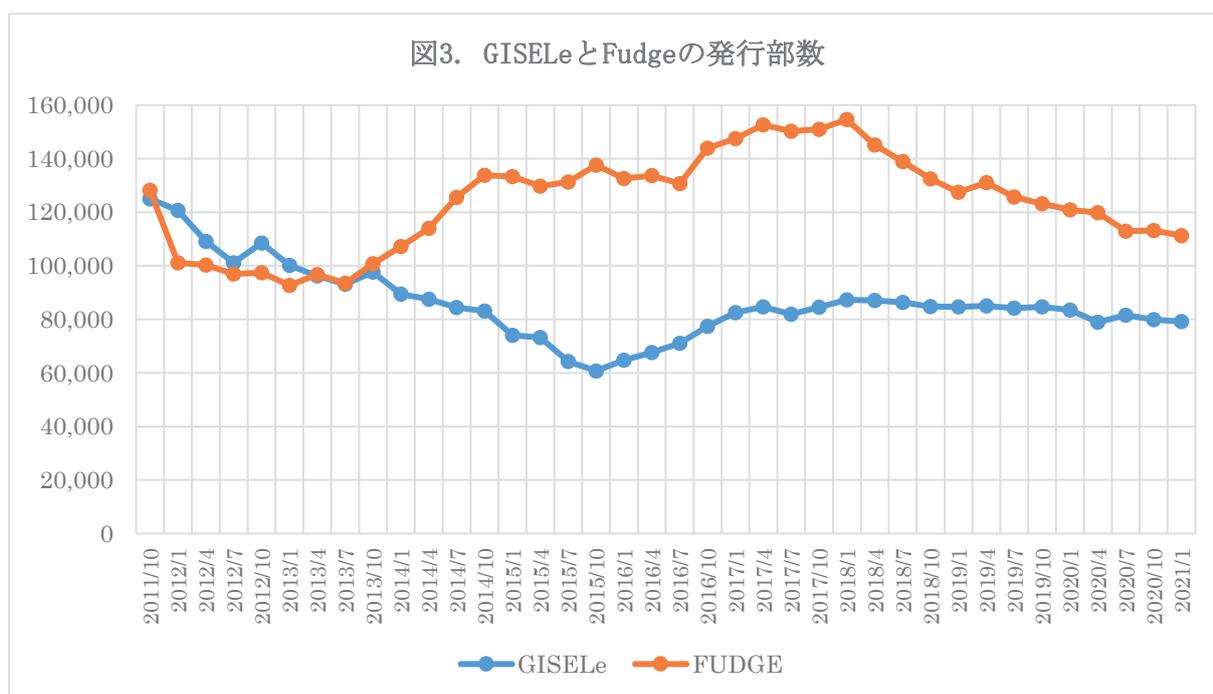
FUDGE から見ていこう。FUDGE が現在のボーイッシュ志向系へ移行したのは 2014 年 3 月号からで、それ以前はキレイめガーリースタイルを推していたのである。FUDGE は少なくとも 2011 年からワンピース (あるいはドレス) を一押しアイテムとして紹介しており、その中核にはハイエンドのミニドレスが存在している。FUDGE (2011) から例を取ると、マーク・ジェイコブスのベアトップドレス (FUDGE 2012: 14)、マウリッツォ・ペコラーロのコラムドレス (FUDGE 2011: 30)、カレン・ウォーカーのホルタードレス (FUDGE 2012: 90) がその例となる。勿論、ミディアムレンジ、及び、ローエンドミニワンピースも紹介されている (FUDGE 2011: 54, 55, 91, 110, 114, 128)。過度の女性的飾り (フリルなどの) のないこれらの

³⁶ この頁の左端のモデルのコーデ。

³⁷ この頁の上段真ん中のモデルのコーデ。

ドレスは上品なスタイルを体現していると共に、肌見せにより解放感も醸し出している。こういったドレス（またはワンピース）を膝丈まで視野を広げると、彩度の高い色を採用しているアイテムの提案を行っていることに気づかされる。例えばモザイク状に混在する白と明るい赤（FUDGE 2011: 28）、ゴールド（FUDGE 2011: 29）、黒と白のモノトーンストライプとの対比で鮮やかさが強調されている彩度の高い赤（FUDGE 2011: 31）、あるいは明るい青（FUDGE 2011: 121）のドレスがその例となる。

このドレス一推しの傾向は FUDGE（2012, 2013）でも継続されることになる。2012 年の FUDGE では FUDGE（2012: 12-15, 22, 24, 28, 29, 34, 35-37, 65, 66, 74, 79, 81, 88, 92, 97, 118, 120, 148）で、2013 年の FUDGE では、FUDGE（2013: 14, 15, 32-48, 50, 52, 53-59, 61, 68, 70, 71, 88, 89, 92, 93, 94, 97, 100, 117, 122）でミニドレス（又はミニワンピース）が紹介されている。加えて、FUDGE（2012, 2013）では、ミニスカート、あるいは、ショートパンツベースのコーデもかなり紹介されている。ピンクのレイヤードミニスカート（FUDGE 2012: 17）、スパンコールのミニタイトスカート（FUDGE 2012: 41）、タータンチェックのギャザーミニスカート（FUDGE 2012: 67）、白のティアードミニスカート（FUDGE 2013: 62）、明度やや高めブラウンのティアードミニスカート（FUDGE 2013: 81）を入れたコーデがその例だ。また、ショートパンツベースのコーデと例としては、プラスチックでコーティングされたデニムショートパンツ（FUDGE 2012: 16）、ピンクベージュのショートパンツ（FUDGE 2012: 51）、レースで覆われた白のショートパンツ（FUDGE 2012: 53）、マルチカラーのツイードショートパンツ（FUDGE 2013: 23）、シルバーのショートパンツ（FUDGE 2013: 66）、彩度を若干抑えたマルチカラーツイードのショートパンツ（FUDGE 2-13: 90）が挙げられる。



これらミニスカート、及び、ショートパンツベースのコーデに関して言えば、トップスは2012年ではシャツかブラウスが主流で（FUDGE 2012: 41, 44, 51, 54, 56, 77, 93, 98, 112;）、2013年ではニットが主流となっている（FUDGE 2013: 22, 23, 25, 26, 28, 66, 100）。これらトップスも、ドレスと同様、過度な女性的装飾はない。肌見せをするガーリーなボトムスと組み合わせられることでガーリーでありつつもある意味清楚性を有するコーデの提案がなされている。こういったガーリーコーデが2014年には殆ど姿を消す。

2014年3月号ではその表紙に「GILRL's TRAD オシャレ女子の春色トラッド入門」とあるように、FUDGEはボーイッシュなトラッドスタイルに舵を切る。それ以降FUDGEはトラッド・ボーイッシュコーデの提案をメインに行うファッション誌に変容するのである。

さて、ここで注目すべきことは、このボーイッシュ志向へのシフトとFUDGEの発行部の回復が同時期に起こっていることである。図3を参照されたい。FUDGEの発行部数が2013年第4四半期（図3では「2013/10」と表記）から増えているのが確認できるだろうか。

GISELe の場合

2012年3月号から見ていくが、GISELeスタイルは彩度の高い色の肌見せガーリースタイルからじわりじわりとモノトーン系の肌を見せないボーイッシュスタイルへと変化していることが分かる。まず、2012年の例を出すと、明るい赤のマイクロミニワンピース（FUDGE 2012: 18）、白と青緑のギンガムチェックのミニ丈のベビードールドレス（FUDGE 2012: 24）があり、ミニスカートコーデを見ると、小鳥プリントの半袖トップとオフホワイトレザースカートのコーデ（FUDGE 2012: 22）、オレンジ色のパフスリーブ付きギャザーブラウスと白地に薄いグレーのドット柄のシフォンミニスカートのコーデ（FUDGE 2012: 55）、黄色のパフスリーブ付きギャザーブラウスとブラウンの地に白の花柄キュロットのコーデ（FUDGE 2012: 28）とキュート系肌見せで、且つ、鮮やかな色、あるいは、優しく淡い色を用いたアイテムのコーデが目を引き形となっている。2013年においては、淡い黄緑に黒のフリルがついたマイクロミニワンピース（FUDGE 2013: 96）、白のライダーズジャケット、暖色のピンクが目立つスタープリントシャツ、彩度の高い黄色のレースミニスカートのコーデ（FUDGE 2013: 77）、ロゴ半袖Tシャツ（白地に黒のロゴ）と彩度の高い鮮やかな緑・ピンク・黒のトライバルプリントミニスカート（FUDGE 2013: 112）、白・淡い青に黄色が目立つ迷彩色のシフォンタンクトップにデニムショートパンツのコーデ（FUDGE 2013: 95）、淡い緑のツイード半袖トップ・ショートパンツのセットアップ（FUDGE 2013: 97）が目目を惹くコーデの例である。膝上丈まで視野を広げると、淡い黄色の半袖レーストップと薄いピンクの膝上丈ペンシルスカートや（FUDGE 2013: 74）白と赤紫ストライプ柄の長袖ニットトップとオフホワイト地に淡いオレンジの花柄のペンシルスカート（FUDGE 2013: 74）が視界に入ってくる。

2014年になると、鮮やかな黄色のレースのミニワンピース（FUDGE 2013: 74）が目を引き

く他、白地に黒の花柄のクロップトブラウスと淡い青緑のフレアミニスカート (FUDGE 20213: 72)、ビジュリー付き半袖白ニットトップスとピンク・オレンジと薄い水色・黄緑を混ぜたトロピカルフレアミニスカート (FUDGE 20213: 106) があり、キュート路線は継続されている感はあるが、ショートパンツコーデで 2012 年、2013 年のような目を引くものはなくなっている。ただ、ひざ丈スカートについては、モノトーンのジャングルプリントシャツと組み合わせられたピンクのフレアスカート (FUDGE 20213: 104) が目立つ存在となっている。

そして、2015 年、鮮やかな色のミニワンピースは姿を消す。ミニスカートでは、オフホワイト長袖ニットトップスと緑のスエードラップミニスカートがあるが、色が彩度の低い緑となっており (FUDGE 20213: 90)、白地に明度の低い暖色のストライプのセットアップ上下 (ジャケット+ミニスカート) はあるものの (FUDGE 20213: 96)、キレイめガーリーというよりは当時はやったノーマルコアに引張られたスタイルと言うべきかもしれない。かろうじて GISELe 2015 年の表紙の紫のレースワンピースコーデがキレイめガーリーさを主張していると言ってよいかもしれない。そして GISELe 2016 年 3 月号の表紙にあるのは看板モデル、アリサ・コロタワが纏うデニムコーデとなる訳だが、この辺りで GISELe は発行部数を回復し始めるのである。

というわけで、図 3 で GISELe の発行部数の増減を確認すると、GISELe がボーイッシュ志向系へ舵を切った後の 2016 年の第 1 四半期以降、GISELe の発行部数を伸ばし始める。FUDGE と同じように GISELe もキレイめガーリーからボーイッシュ志向系へ舵を切って発行部数が伸びていったと考えられるのである。さて、繰り返しになるが、FUDEGE も GISELe もガーリーであるがキレイめスタイルだ。FUDGE と GISELe のボーイッシュ志向へのシフトで発行部数を増やせたとするならば、それは、20 代後半女性のスタイルの好みはガーリーからボーイッシュへと変わっていくという大きな潮流が存在していたことを意味していると考えられる。

ただ、GISELe に関してはもう一つ大切な点があることも指摘しておかなければならない。それは、2015 年 3 月号まで掲載されていたセレブファッション記事が 2016 年 3 月号では大幅に頁数が減っていることである。それと同時に没固有性を有するモデルを採用したファッション記事が増えているのである。セレブ記事におけるモデルは主に米英のセレブで彼女らはそれぞれ名を有する有名人として紹介されている³⁸。彼女らは記事内において自分の名で呼ばれるという点において固有性を有する人であったことを指摘しておきたい。こういったセレブ記事が没固有性を有するモデルを中心に据えたミニマルレイアウトを採用した記事に入れ替わっていく訳である。

GISELe の発行部数の回復は恐らく次のようなプロセスで起こったのだろう。まず、20 代

³⁸ 例えば GISELe (2015: 18-36) には次のセレブのコーデが紹介されている。Alexa Chung、Cara Deleginge、Rosie Huntington-Whitely、Chloem Moretz、Olivia Palermo、Nicole Richie、Suki Waterhouse、Taylor Swift、Rita Ora、Karlie Kloss。

後半女子（或いはアラサー女子）の間にガーリーからボーイッシュへのスタイル嗜好変化が起こっており、GISELe はボーイッシュ志向系に路線変更したことで発行部数回復のポテンシャルを得、没固有性を有するモデルとそれを目立たせるレイアウトの採用で発行部数が上がっていったというプロセスである。発行部数が回復し始めた後、GISELe は更にファッション情報のデータベース化を行っていきののだが、そこが 2018 年第 2 四半期以降発行部数を減らしていった FUDGE と読者求心力を保持しえた GISELe との違いなのかもしれない。

更にもう一点加えておきたい。先に、20 代初頭女子においては清楚系が人気を失ってきている現状を見たところだが、これに 20 代後半女子がキレイめガーリー系スタイル敬遠している状況を重ね合わせると、2010 年代初頭から 20 代女子全般においてキレイめスタイルに対する離反が起こっていたと推察されるのである。

6. 衰退を加速化させられている清楚系スタイル

20代清楚系スタイルが衰退していることは既にみた通りだが、この衰退に関しては編集側の方針が結果的には自らが推すスタイルの衰退を加速化させる結果となっていると考えられるケースがみられるのである。そのケースとはアイドルの取込みである。

6.1 女性アイドルの参入

女性アイドルの取込みがファッション誌の発行部数の減少を押しとどめるどころか、逆に発行部数の減少を速めていると日刊サイゾー（2015）、南（2015）は述べているが、それはまさにモデルが自律化していったことで起こった現象だと言える。

女性アイドルの取込みは発行部数減少を抑えられない

女性アイドルグループの出現は 1997 年のモーニング娘ぐらゐまで遡れる。その後数年のブランクがあり、本格的な女性アイドルグループの出現は 2005 年結成の AKB48。同年に℃C-ute も結成。その後、2008 年に SKE48、ももいろクローバーZ が結成され、これに 2010 年の NMB48、さくら学院、2011 年の乃木坂 46、HKT48、E-Girls、2015 年の欅坂 46（2020 年 10 月に櫻坂 46 に改名）、NGT48、2016 年の欅坂アンダーグループ（2019 年に日向坂 46 に改名）と続く。この流れの中で、ファッション誌にこれらアイドルグループが浸透するのはある意味時間の問題だったのかもしれない。

既に述べたことだが、元モーニング娘の久住小春が CanCam の専属モデルとなったのが 2011 年。Larme 創刊号（2012 年）の表紙を飾ったのは白石麻衣（乃木坂 46）と渡辺麻友（AKB48）。Larme は創刊時にかなり売れたようだが、翌 2013 年白石麻衣が Ray の専属モデルとなるも、Ray の発行部数は回復しなかった。同年 E-girls の楓が CanCam の専属モデルに、同じく E-girls の藤井加恋が JJ の専属モデルに、同じく E-girls の佐藤晴美は Ray の専属モデルとなる。

2014年、元さくら学院の松井愛莉がRayの専属モデルになる。2015年ファッション誌へのアイドル進出が加速化する。この年、齋藤飛鳥（乃木坂46）がCUTiE4月号で専属モデルデビューする。が、同誌は同年9月号で休刊。同誌休刊後、齋藤飛鳥はSweet専属モデルへ転身。同じく2015年、西野七瀬（乃木坂46）はnon-noの、橋本奈々未と松村沙友里（共に乃木坂46）はCanCamの、北野日奈子（乃木坂46）はZipperの、元°C-uteの鈴木愛理はRayの専属モデルとなっている。Zipperは2017年12月号で休刊。

いずれの場合も（LARME以外は）当該ファッション誌の発行部の回復にはつながっていない。にもかかわらず、赤文字4誌に限ってみれば、CanCamは、山下美月（乃木坂46）を2018年に、加藤史帆（日向坂46）を2019年に専属モデルとしており、JJは樋口日奈（乃木坂46）と土生瑞穂（欅坂46）を2018年に、高本彩花（日向坂46）を2019年に専属モデルとしている。また、Rayは佐々木久美（日向坂46）を2019年に、金川紗耶（乃木坂46）と村瀬紗英（元NMB48）を2020年に専属モデルとし、アイドルのモデル採用を控えていたViViも2021年櫻坂46の山崎天を専属モデルとして採用している。

CUTiEの休刊を受けて、日刊サイゾー（2015）は、女性アイドル、特にAKB48のメンバーのモデル登用がCUTiEの休刊につながったとの見方を示し、それを受けて、ファッションジャーナリストの南充浩（2015）は、アイドルがモデルとなった場合、そのアイドルのファンでなければ当該誌を読まないのではないかと述べている。つまり、こういったアイドルの不人気の根本的原因は、女性アイドルがカリスマモデルとはなり得なかったからであり、アイドルの林立により各々のアイドルの人気は一部のファンに限られることとなり、そのようなアイドルがファッション誌のモデルとなったことで、ファンでない既存読者が雑誌離れを起こしたという理論となる。既存読者の雑誌離れはとりもなおさず、ファッション誌が推すスタイル消費を妨げるものである。よって、アイドルモデルはファッション誌から自律していたと言えることになる。

では一体アイドルモデルの何が自律の要因となっているのか、ガルちゃんに立てられたトピックに寄せられたネットユーザーの意見を拝聴してみよう。

アイドルの自律とはどのようなもの？

『ガルちゃん』に2020年5月「何故ファッション雑誌にアイドルが出るようになったのか」というトピックが立てられ、それに191名のネットユーザーがコメントを寄せている（ガールズちゃんねる2020）。内訳は女性アイドルについて、否定的なコメントをしているユーザーが89名（46.4%）、次いで女性アイドルに対してコメントをしていないユーザーが74名（38.7%）、アイドルに中立的なコメントしているのが20名（10.5%）、アイドルに肯定的意見を述べているユーザーが8名（4.2%）となっている。というわけで、最も多いのはアイドルに否定的なコメントだ。

否定的コメントは延べ数で97あり、このうち9割は何らかの理由をつけたコメントをしており、残りの1割は理由なしのコメントである。(ただ単にアイドルが嫌いと言ったコメント。)理由提示の9割の内、アイドルモデルの固有性に直接かかわるコメントが43コメントで、間接的にかかわるコメントが44であった。直接かかわるものとはアイドルの身体的特徴とモデルとしての演技への批判である。この批判の内、具体的にアイドルのどの身体的特徴がファッションモデルとしてふさわしくないのかコメントしたものが19、モデルとしての演技ができていないとコメントしたものが2。それ以外の22のコメントはそれが身体的特徴に関わるのかモデルとしての演技に関わるものなのか不明なコメントである。

モデルの固有性に間接的にかかわるコメントとは、ファッション誌の外の世界に関わるもので、本稿で「ノイズ」と分類したものになる。ノイズコメント44は2グループに分けられる。一つは、編集側の都合(ファッション誌業界内での取引等)でアイドル選定がなされているとの批判で、35コメントとなる。もう一つは、ファッション誌面上に登場するアイドルにはファン、つまり、オタクが付いてくることになるわけだが、そのオタクに対する嫌悪感を吐露したコメントが9。このオタクに対するコメントは編集側の都合への批判でもあり、この都合批判の内最も多いのは、アイドルのモデルとしての取込みはオタクを読者として取込みたいからだという批判でコメント数は17であった。いま、オタクに対する批判というカテゴリーを設けるなら、アイドルの「ノイズ」の第1位は、編集側の都合の35コメントで、第2位はオタクに対する批判の26コメントということになる。

『ガルちゃん』のアイドルへの否定的コメントをまとめると、第1位はファッション誌編集者の都合に対する批判(35コメント)となり、第2位はオタクへの批判(26コメント)で、第3位がアイドルの固有性に対する批判(21コメント)となる。本稿ではこの三つの批判をもってアイドルの自律の要因とみなす。

これら三つが読者離れを引き起こす要因であるとするならば、アイドルモデルの自律性は、アイドルの身体的特徴や演技によって高められるということもあるが、それよりも、ファッション業界の都合やアイドルについてくるオタクへの批判によってそれ以上にアイドルモデルの自律性は高められている可能性が高くなっていると言える。

女性アイドルのファッション誌取込みについては、モデルのノイズがファッション誌が推すスタイルの衰退にどれほど貢献したかをはっきりと指し示すデータを見つけるのは容易ではない。が、女性アイドルに続いて男性アイドルのファッション誌取込みが行われ始めている現状(2021年第1四半期現在)において、間違いなくアイドルのファッション誌参入は(男性アイドルもファッションモデルであるとの解釈が妥当であるという条件下において)、以下に見るように、ファッション誌が推すスタイルの衰退を速めていると考えられるのである。特にアイドルの追っかけ、いわゆる、オタクの存在はファッション誌が推すスタイルの衰退に極めて大きな影響を及ぼしていると考えられるのである。

6.2 モテ系誌のジャニーズアイドルの取込み

まずは赤文字誌の発行部数を見てみよう。表1を見ていただきたい。これは2021年第1四半期を基点に過去半年、2年、5年と遡り、遡った先の四半期の発行部数を母数として百分率でそれぞれのファッション誌の発行部数の増減を示したものである。過去5年の発行部数をみると赤文字誌はどれも大幅な発行部数の減少となっている。赤文字的清楚系の衰退は現在進行中というわけだ。

だが、その一方で、表1には不思議な現象も起こっている。過去半年の発行部数がRay以外は10%台またはそれ以上の高い伸びを示しているのである。赤文字誌の清楚系スタイルが読者の親任を再び受け始めたということだろうか。いや、現実はそうでないようだ。

表1. 2021年第4四半期を基点とした赤文字誌の発行部数の増減

	過去半年%	過去2年%	過去5年%
JJ	14.0	-53.7	-65.6
CanCam	24.5	-27.8	-45.6
ViVi	21.7	-11.0	-46.7
Ray	-26.5	-31.8	-59.5

赤文字誌の購読者急増にはジャニーズアイドルが関係している。ジャニーズアイドルがどのような形でファッション誌と関係してくるのかの説明は後にするとして、まずは赤文字誌のジャニーズアイドルの紹介記事（以下「ジャニーズ記事」）の掲載状況から見ておこう。通常、ファッション誌の男性アイドル紹介記事は、アイドルを裁ち落とし写真などの大きな写真で紹介するグラビア記事になる。CanCam（2018: 153-160）やCanCam（2021: 112-122）のSixTONESの紹介記事、CanCam（2020: 115-130）のSixTONESとSnowmanの紹介記事がその例である。

そこで、表2を見ていただきたい。これは2019年4月号から2021年5月号の間に赤文字4誌がどのアイドルの記事を掲載し、それぞれの号の表紙に誰を掲載したかのリストである。表紙にジャニーズアイドルが掲載されている場合はシェードをかけてある。この表より赤文字4誌にあってはジャニーズ記事の掲載が2019年4月号発行の頃には常態化していたのが見て取れる³⁹。編集方針の違いを反映してだろう、勢力的にジャニーズ記事を掲載した雑誌（ViViとCanCam）と、それほどジャニーズ記事掲載に力を入れていなかった雑誌（JJとRay）があることもこの表は示唆してくれている。ちなみに、SankeiBiz（2020）は、2019年ごろから「男性アイドルを表紙に起用する女性誌も増えていた」とは伝えているが、表2より見える赤文字4誌のアイドル掲載状況はこのSankeiBizの報道内容と合致する。

³⁹アイドル記事の頁数が判明している場合は丸括弧内で頁数を表示している。

表2. 赤文字誌の表紙の人物とアイドルのリスト

	CanCam		ViVi		JJ		Ray	
	表紙	取りあげられたアイドル	表紙	取りあげられたアイドル	表紙	取りあげられたアイドル	表紙	取りあげられたアイドル
2021年5月	生見愛瑠	Mr.J 高橋海人(King & Prince)	[通常版]emma [特別版]kemio, 松田元太(Travis Japan)	(特集)kemio・松田元太(Travis Japan) (10ps)			[通常版]高橋ひかる [特別版]Sexy Zone	(特集)Sexy Zone
2021年4月	山下美月	M.J 玉森裕太(Kis-My-Ft2), 松村北斗(SixTONES), Boys and Men	King & Prince	(特集)King & Prince (12ps)			SixTONES	(特集)SixTONES
2021年3月	[通常版]中条あやみ [特別版]SixTONES(表紙初登場)	Mr.J New SixTONES (10ps)	[通常版]谷まりあ [特別版]SixTONES 松村北斗(表紙初登場)	(特集)松村北斗(SixTONES) (4ps), 松田元太(Travis Japan), 井上瑞稀(HiHi Jets), Issei, 金指一世(美少年), 中村嶺亜(7 men侍)(8ps)				
2021年2月	[通常版]E-girls [特別版]E-girls	(特集)E-girls Mr.J Sexy Zone	[通常版]藤田ニコル [特別版]永瀬廉(King & Prince)	永瀬廉(King & Prince), 目黒蓮(Snow Man)	E-girls	(特集)E-girls (17ps), なにわ男子(6ps)	吉田朱里	
2021年1月	[通常版]NiziU [特別版]NiziU	(特集)NiziU(16ps), Mr. J Travis Japan (8ps), Boys and Men	[通常版]NiziU [特別版]NiziU	(付録/特集)NiziU, (特集)岸優太・神宮寺勇太(King & Prince) (12ps)	Sexy Zone	(特集)Sexy Zone (9ps)	なにわ男子(表紙初登場)	(特集)なにわ男子
2020年12月	堀田茜	Mr.J Hey! Say! JUMP (10ps), IZ*ONE (8ps), Stray Kids (6ps)	八木アリサ	(特集)Travis Japan (10ps), Travis Japan, HiHi Jets	樋口日奈, 土生瑞穂, 高本彩花	美少年(8ps)	鈴木愛理 [増刊号]岡崎紗絵	A.B.C-z
2020年11月	トラウデン直美	Mr.J なにわ男子(8ps), Boys and Men	emma	二宮和也(嵐), 山田涼介(Hey! Say! Jump)	JO1(表紙初登場)	(特集)J801	今田 美桜	Snow Man
2020年10月	楓・中条あやみ	Mr.J 亀梨和也, SixTONES	JO1	(特集)JO1(10ps), 山下智久	TOMORROW X TOGETHER(表紙初登場)	(特集)Tomorrow x Together	松井 愛莉	美少年
2020年9月	山下美月	Mr. J SixTONES (10ps), 美少年(7ps)	平手友梨奈	(特集)平手友梨奈(10ps), 永瀬廉(King & Prince), 道枝駿佑(なにわ男子), 佐藤龍我(美少年), 山下智久	藤井 夏恋	(特集)永瀬廉(8ps), Travis Japan, NiziU	永瀬廉(King & Prince)	(特集)永瀬廉(8ps)
2020年8月	条あやみ	小林豊(Boys and Men)	水原希子, kemio	山下智久	宇野 実彩子			
2020年7月	まい	Mr. J なにわ男子	[通常版]中島健人(Sexy Zone), 平野紫羅(King & Prince) [増刊号]愛花・立花恵里・八木アリサ・emma	(特集)中島健人・平野紫羅(12ps), 中島健人, 平野紫羅, 道枝駿佑(なにわ男子), 山下智久	丹羽 仁希	中島健人(Sexy Zone), 平野紫羅(King & Prince)	鈴木愛理, 岡崎紗絵(7・8月合併号)	
2020年6月	安達祐実	Mr.J 岡田准一	ローラ	(特集)山下智久・亀梨和也, 中島裕翔(Hey! Say! Jump), 岸優太(King & Prince), 森本慎太郎(SixTONES)			中島健人(Sexy Zone), 平野紫羅(King & Prince)	(特集)中島健人, 平野紫羅
2020年5月	[通常版]中条あやみ, 山下美月 [特別版]中島健人(Sexy Zone), 平野紫羅(King & Prince)	Mr.J 中島健人(Sexy Zone), 平野紫羅(King & Prince)	emma	なにわ男子, 山下智久	土生 瑞穂	藤井流星, 神山智洋(ジャニーズWest)	吉田朱里, 太田夢莉, 渋谷凖咲, 村瀬紗英	(特集)Queenet・次世代NMB48
2020年4月	中条あやみ, 楓, 堀田茜, 石川恋	Mr. J 重岡大毅(ジャニーズWEST)	藤田ニコル	山下智久, Hey! Say! Jump	藤井 夏恋	SixTONES	賀喜遙香, 金川紗耶, 清宮レイ, 田村真佑	Sexy Zone (2ps), JO1
2020年3月	山下美月	Mr. J SixTONES, Snow Man	平野紫羅(King & Prince)	(特集)野紫羅	土生 瑞穂	SixTONES・Boys & Men (14ps)	岡崎紗絵	Snow Man (4ps)
2020年2月	カン・テリ	Mr.J 山田涼介(Hey! Say! JUMP)	八木アリサ, emma, 藤田ニコル, 谷まひ	(特集)SixTONES, Snow Man (12ps)	藤井 夏恋	Seventeen, 西畑大吾(なにわ男子)	渡辺梨加	SixTONES (5ps)
2020年1月	中条あやみ	Mr.J 小瀧望(ジャニーズWEST)	[通常版]八木アリサ [増刊号]片寄涼太		土生 瑞穂	美少年	吉田朱里	なにわ男子(初登場)(7ps)
2019年12月	King & Prince	(特集)King & Prince, Mr.J King & Prince	小松 菜奈	平手友梨奈, 松村北斗(SixTONES)	(芸能関係者20名)	Snow Man	高橋ひかる	佐藤勝利(Sexy Zone), 高橋海人(King & Prince)
2019年11月	宇野実彩子	Mr.J 風間俊介	橋本 環奈	ジャニーズWEST	(女性のイラスト)		吉沢亮, 中村里帆	北山宏光(Kis-My-Ft2)
2019年10月	[通常版]松村沙友理, 山下美月, 加藤史帆 [増刊号]Hey! Say! JUMP	Mr.J Hey! Say! JUMP, 平野紫羅(King & Prince)	emma, 吉沢 亮	(付録)SixTONES	(女性モデル5名)	Hi Hi Jets	鈴木愛理	平野紫羅(King & Prince)
2019年9月	松村沙友理	Mr.J KAT-TUN	長谷川 潤		(女性モデル9名)	なにわ男子	新田 真劍佑	重岡大毅(ジャニーズWest)
2019年8月	[通常号]BTS [増刊号]BTS	BTS, Mr.J 岡田准一	今田 美桜	岡田准一	山賀琴子	山下智久	松井愛莉	SixTONES
2019年7月	楓	Mr. J 山下智久, Boys and Men	emma, 八木アリサ	玉森裕太(Kis-My-Ft2)	山賀 琴子	玉森裕太(Kis-My-Ft2)	Hey! Say! JUMP	Hey! Say! JUMP
2019年6月	楓, 堀田茜, 中条あやみ	ジャニーズWEST, 高橋海人(King & Prince)	Koki		滝沢 カレン	永瀬廉(King & Prince)	白石 麻衣	永瀬廉・神宮寺勇太(King & Prince)
2019年5月	中条あやみ	Mr.J 藤ヶ谷太輔(Kis-My-Ft2), 永瀬廉・神宮寺勇太(King & Prince)	藤田ニコル	King & Prince	滝沢 カレン	SixTONES	Red Velvet	
2019年4月	中条あやみ	Mr.J Sexy Zone, Boys and Men	emma	ジャニーズWEST	川口 春奈	中島裕翔(Hey! Say! JUMP)	鈴木愛理	Snow Man

ジャニーズアイドルの自律性

いま仮に、ジャニーズアイドルをモデルだとみなしたとすると、彼らが男性であることを考えただけでも自律性は極めて高いと言える。なぜなら、当然のことながら、彼らは女性のコーデを纏っていない。本当ならば女性向けのアパレル記事があるところにジャニーズ記事があるわけで、その分ファッション誌の推すスタイルのプロモートを妨げる結果となっているからだ。たが、話の焦点はそこにはない。焦点はジャニーズアイドルの「ノイズ」である。そのノイズとはジャニーズアイドルのファン、ジャニオタに関わるものである。

6.3 コロナ禍のジャニオタ取込み

女性アイドルのモデル採用の背後には女性アイドルの男性ファン取込みが視野に入っていたと Asagei+ (2015) と伝えている。同様のことがジャニーズアイドルの取込みについても言えるが、ジャニオタは、ファッション誌が推すスタイルのプロモートに貢献しているのだろうか。そこが焦点となる。

ジャニーズの取込み

コロナ禍で三蜜を避けるためコンサートなどのイベントが中止となり、それまでアイドル誌購入に興味を示さなかったジャニオタがアイドル誌 (Myojo、Potato など) を購入し始めるようになったのだが、それが顕著となるが 2020 年の第 2 四半期だという (SankeiBiz 2020)。先に見たジャニーズアイドルが赤文字誌の表紙に載り始めた時期と重なる。勿論、コロナ以前からアイドル誌購入を行っていたジャニオタも相当数いたこと⁴⁰は言うまでもないだろうが、このアイドル誌購入はジャニオタの「推し活」の一環を成すものである。自分が推す (応援する) アイドルと触れあう行為としての雑誌購入である。「好きなアイドルに活動を続けてもらうためには、[アイドル誌を—筆者] 買い支えて人気を維持する必要がある」あるため、「同じ雑誌を何冊も買う人」も増えたと SankeiBiz (2020) は伝えている。

図 4 を見てもらいたい。これは赤文字 4 誌の 2020 年の第 4 四半期 (あるいは、2021 年の第 1 四半期) までの発行部数の推移を示したグラフである。前に多くのジャニオタがアイドル誌購入を 2020 年第 2 四半期から始めたと言及したが、図 4 のグラフを見ると ViVi 及び CanCam の発行部数が 2020 年第 4 四半期からプラスに転じているのが分かる。(但し JJ は 2020 年第 3 四半期から発行部数を伸ばしている。)

ジャニオタによるファッション誌購入はジャニオタが管理していると考えられるブログやウ

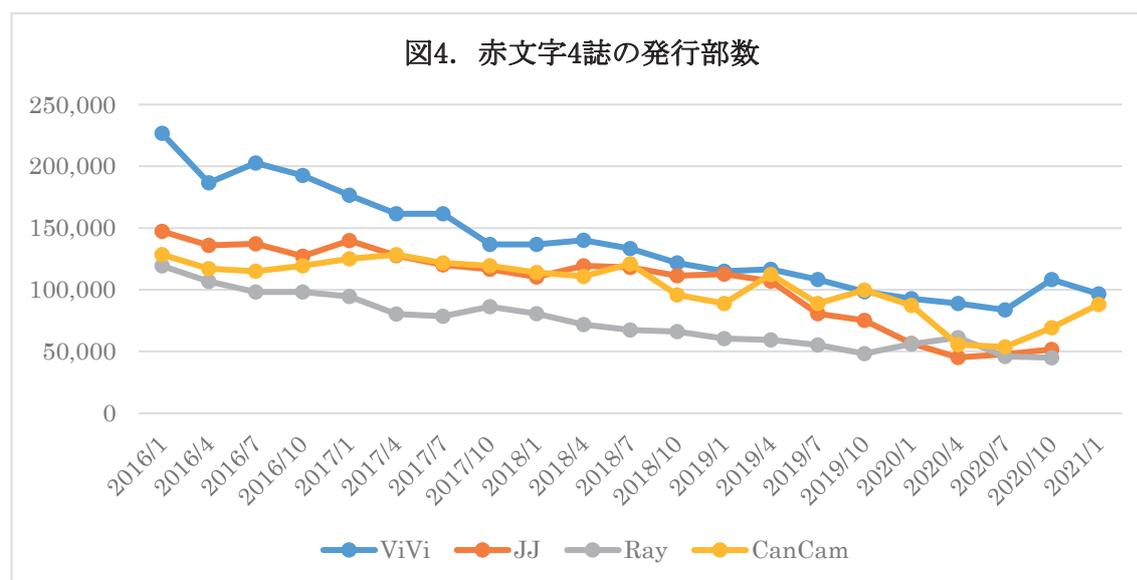
⁴⁰ ブログ『それは恋とか愛とかの類ではなくて』(2016) は、9665 名のジャニーズオタクに対して行ったアンケート調査を公開しており、「あなたがしているジャニオタ活動は？」との問いに 6891 名が「雑誌を買う」と回答していると報告している。

ウェブサイトに明言されていることにも言及しておこう。例えば、『A え日です。』（2021）では「ファッション誌」から、『管理栄養士のオタクライフ』（2020-2021）では「ファッション誌全般」からジャニーズ情報を収集するとの記述があり、『スイセンノウ—愛は不変—』（2020）では「自担⁴¹、自担Gが表紙のときはなるべく全て買うようにしている」と書いてあり、『オタクのススメ』（2020-2021）には an-an、CanCam、Ray からジャニーズ記事を収集しているとの記述がある。

捨てられるファッション誌

このようにファッション誌からもジャニーズ情報を収集しているジャニオタだが、彼女らによるファッション誌消費は実はファッション情報消費につながっていない可能性があることを指摘しておかなければならない。ジャニオタが必要としているのはジャニーズ記事である。購入した雑誌の数が増えると、雑誌はかさばっていく。収納スペースには限りがある。この対処策として、雑誌からジャニーズ記事だけを取り去り、雑誌本体を破棄する方法が考案されることになる。先に紹介したジャニオタのサイトは全て、この対処策を詳しく説明したサイトとなっている。ジャニーズ記事を切り取られた雑誌本体は捨てられる運命にあるわけだ。

さて、このような雑誌処理作業がジャニオタによって行われている一方で、ファッション誌内では特筆すべきことが起こっている。ファッションアイテム価格の高騰である。しかも、日本人の賃金がコロナ禍で更なる減少を続けている中での高騰である。



⁴¹ 「自担」(じたん)とは、アイドルグループの中で自分が一番応援しているメンバーを指すことばである。

6.4 価格高騰

2020年初頭からのコロナ禍で赤文字誌 2021年3月号がファッションアイテムの価格をいくらにしたのかサンプル調査したものが表3になる。この表は2017年3月号と2021年3月号の全頁に掲載されたすべてのデニムパンツ、ニットトップス、ブラウス、シャツ、ワンピースの価格の平均を出して、2017年の数値を分母として2021年の数値の増減を百分率で計算した数値をまとめたものである。赤文字4誌はどれも全体的にアイテム価格をかなり上げているのが分かる。特にCanCamは価格上昇は群を抜いている⁴²。デニムパンツとブラウスの価格は2倍以上に、シャツは1.5倍以上に跳ね上がっており、全体的に見て価格上昇率の低いRayでさえブラウスの価格は1.8倍となっている。

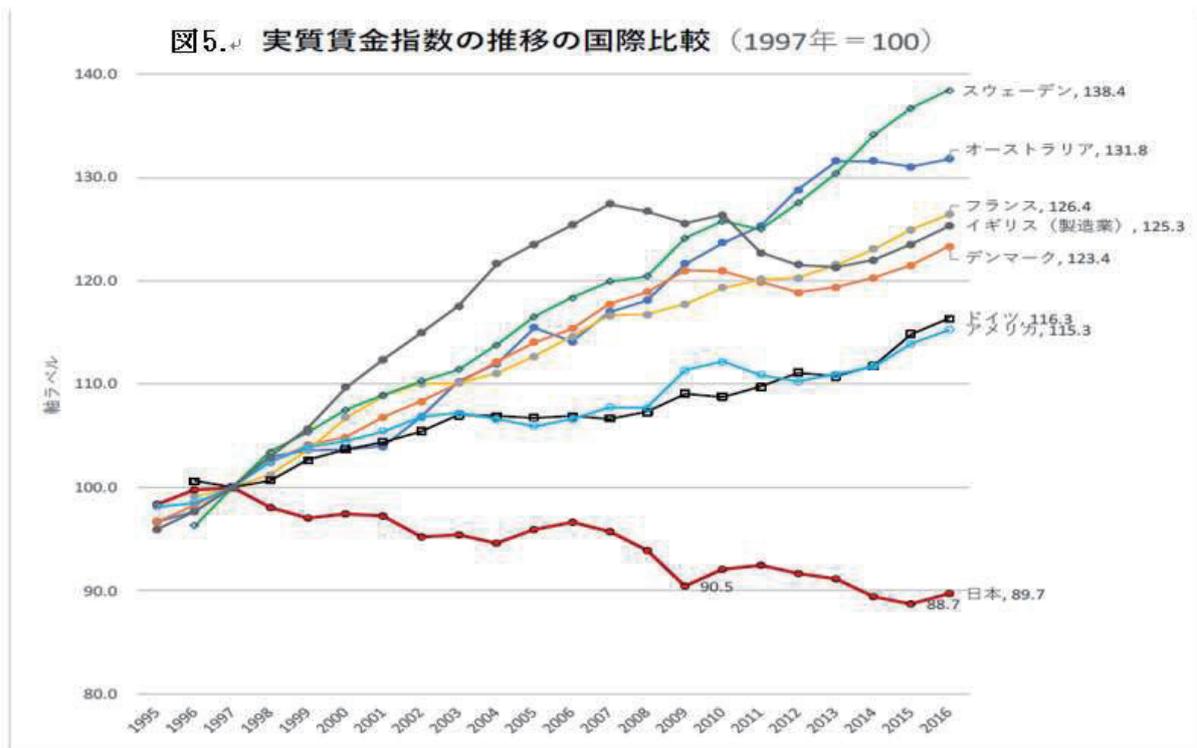
手が届かなくなった旧カワイイ系

このように、高騰するアイテム価格だが、それを購入する側の読者は慢性の実質賃金の下落に悩まされている。周知のことと思うが、日本人の実質賃金は1997年をピークに下がり続けている。図5は全労連のホームページに公開されている実質賃金推移の国際比較を転載し

表3.アイテム価格比較

		デニムパンツ	ニット	ブラウス	シャツ	ワンピース
CanCam	2017年3月号	13853	10546	10507	9308	14416
	2021年3月号	47255	15373	32277	23825	15754
	増減%	241.1	45.8	207.2	156.0	9.3
JJ	2017年3月号	19823	11444	12992	18200	21430
	2021年2月号	17671	15392	23351	16668	22922
	増減%	-10.9	34.5	79.7	-8.4	7.0
ViVi	2017年3月号	13209	8179	12995	10409	37973
	2021年3月号	15338	9373	20612	10822	40337
	増減%	16.1	14.6	58.6	4.0	6.2
Ray	2017年3月号	6924	6570	9847	9225	12393
	2021年2/3月号	8161	6959	18018	N/A	11112
	増減%	17.9	5.9	83.0		-10.3

⁴² 手頃価格のスエットやパーカの価格調査はしていないので、表4が赤文字4誌が掲載するアイテム価格の全貌を捉えていない可能性はある。だが、フェミニンなアイテムとして定番である考えられるニットとブラウスの価格上昇を見ると、少なくとも清楚系スタイルを体現するアイテムの価格は上昇していると言ってもよいと思われる。また、CanCamの価格上昇については一言すれば、CanCamは二十歳前後からアラサーまで対象としたファッション誌への移行を目指しているのかもしれない。



たものである（全労連 2016）。この国際比較で日本の実質賃金だけが減り続けているという異常事態が見て取れる。1997 年から 2016 年まで実質賃金はほぼ一貫して減少しており、1997 年の実質賃金を 100 とすると、2016 年（平成 28 年）の実質賃金は実に 89.7 まで減少している。その後も日本人の実質賃金は 2017 年、2018 年と減り続け（ロイター 2019）、2019 年、2020 年も更に減るといふ現象にみまわれている（itmedia 2020、ロイター 2021）。

総務省（2021）の物価調査結果によると、「被服及び履物」の物価指数は 2020 年の平均を 100 とすると、2016 年の平均の物価指数は 98.1、2017 年の平均の物価指数は 98.3 だという。2021 年の数値は本稿の執筆時まだ出ていないが、この総務省の数値より推定するに、2017 年から 2021 年までの「被服及び履物」の物価上昇率は 2% に満たないとみなしても良いだろう。ということは、表 3 にみる商品価格上昇率は「被服及び履物」の物価上昇率を大幅に上回ることになる。広告収入が必要なためだろうか、ここまで商品価格が高くなると、もはやファッション情報を求める読者にとっては手の届かない商品を赤文字誌は提示していると言ってよい。

ジャニオタが新たな読者としてファッション誌消費に参入している状況にあつての商品価格の高騰である。先に示唆したようにジャニオタによる雑誌購入は本来ファッション情報の消費を目的としない。なので、ジャニオタは商品価格が上がったとってファッション誌を買い控えることはないだろう。であれば、商品価格を上げてもジャニオタが読者としている限り、発行部通の減少にはつながらない。しかし、ファッション（アイテム）消費を目的と

する読者はどうだろうか。ファッション誌を買い続けようと思ってもそこに掲載される商品は以前にもまして買うことが出来なくなっているわけだ。自ら推す清楚系スタイルがファッション情報消費を目的とする読者に消費されない方向に赤文字誌は舵を切ったわけだ。赤文字誌は、男性アイドルをファッション誌参入させることで、結果的に自ら推すスタイルの衰退に拍車をかけたと言える。

ただ、日本経済全体が衰退している状況で、ジャニオタを取込みつつ、ファッションアイテムの価格を上げることはファッション誌生き残りのためには仕方ないことであったと言えるのも事実だろう。この点に関しては結語のセクションで論じたいと思う。

7. 読者求心力のあるファッション誌

清楚系スタイルが衰退を続ける中、LARMEとGISELeはどのようにして読者求心力を保持することに成功したのだろうか。それを情報のデータベース化と情報量の増大という観点から考察してみることにする。

7.1 新カワイイ系LARMEの台頭

LARMEの読者求心力から先に見ていく。LARMEは四半期ごとの発行部数を日本雑誌協会には届け出していないが、同協会が発行する『Magazine Data』には証明書付きの数値ではないが、発行部数の届け出を行っている。それによると、LARMEの月間発行部数は、2017-2018年版で18万部、2019-2020年版で15万部となっている（日本雑誌協会 2016, 2017, 2018, 2019）。2020年5月号で一旦休刊したことを考えると、発行部数は2017年秋頃にはじり貧の状態であったのかもしれない。（2019年版『Magazine Data』は2017年10月1日から2018年9月30日までの一年間の年間平均発行部数を提示している。）そのLARMEが2020年9月に復刊したのだが、この復刊号は2020年5月号の「3倍以上の売り上げを記録し完売した」という（藤谷2020）。その後の発行部数については、例えば、LARME 2021年秋号（同年9月16日発売）の人気度を見てみると、発行日翌日9月17日のオンライン書店hontoの女性ファッション誌売れ行きランキングで同号のLARMEは2位にランクされており、同じランキングでViVi10月号が25位、Ray10月号が49位、ViVi10月号が61位、CanCam10月号が62位であることを考えると、復刊以降のLARMEの発行部数は高めに推移していると考えてよさそうだ。LARMEは読者求心力を維持していると判断する。

7.1.1. リレーショナル型データベースを構築したLARME

表4を見ていただきたい。これは2017年3月号と2021年3月号に掲載されたアパレル記事における2種類の情報量を比較したものである。表4に示されているのは、赤文字4誌とGFL誌の合計7誌の一頁当たりの情報量と一頁当たりに登場するモデルの延べ人数である。2017年の数値

と比べて明らかに増加していると考えられる数値については黄色のシェードをかけてある。

まずこの表で分かるのは、一頁当たりの情報量及び一頁当たりのモデルの数、両方とも増やしているのはGISELeとLARMEのみだという点である。CanCamを除いて⁴³赤文字誌全体では一頁当たりの情報量を減らす傾向にあるのが見て取れるが、GISELeとLARMEはこのトレンドの逆を行っていることになる。つまりミニマルレイアウトをやめてマキシマルの方向に舵を切っている可能性が高いということになる。

マキシマルデザインを採用した場合、まず起こるのはレイアウト的不明瞭さだ。めちゃモテ時代のCanCamのレイアウトがその典型例だと言える。2005-2006年期のCanCamにはとにかく多くの情報が詰め込まれていた。一頁当たりの情報量が多いと誌面上にまとまりがなくなり、何らかのルールを用いてレイアウトしたという印象が薄くなっていく。CanCam 2005年5月号のレイアウトを見て山本（2007）が「背景におかれた大量の写真によって文字などは読みにくく、目を引くがメリハリのない印象を受ける」と述べたのはそれを物語っている。

LARMEはそういった道は歩んではいけないようだ。情報量は増えてもそれをきれいにまとめる工夫をしている。ただ、そのまとめ方は特別なことではない。表形式にしてまとめるという方法だからだ。（これがリレーショナル型データベースである。）例えば、7人の「モデルのおうちの時間の楽しみ方」をまとめた表（LARME 2021: 112-113）がその例だ。表の使用はこの一例だけだが、情報をユニットにまとめそれを縦・横等間隔で並べるもの（つまり、併進対称性を用いたレイアウトにするの）もリレーショナル型データベースのバリエーションだとみなせば「ダイエット研究所」と題した記事でのダイエット情報の提示の殆どがリレーショナル型データベースでなされていると言える（LARME 2021: 51-58）。高々8頁に渡る記

表 4. GISELe2017年3月号と同誌 2021年3号の情報量比較

2017年		2021年	
1頁当たりの総情報量	1頁当たりのモデル数	1頁当たりの総情報量	1頁当たりのモデル数
<i>Fudge</i>	3.46	3.41	1.82
<i>GISELe</i>	3.56	4.52	2.76
<i>JJ</i>	4.22	3.50	3.32
<i>CanCam</i>	3.48	3.98	2.32
<i>ViVi</i>	6.81	4.74	3.74
<i>Larme</i>	4.54	5.18	3.42
<i>Ray</i>	7.36	5.72	4.89

⁴³ 但し、CanCamの情報量は他の赤文字誌と比べても少ない部類に入ること指摘しておく。

事だが6ポイントほどの文字で大量の情報が詰め込まれている頁となっている。このような並進対称的レイアウトを用いた情報の詰込みはLARME (2021: 65-71) のメイク記事にも用いられている。

こういったデータベース化は情報量を増やす際には必要な編集テクニックだと思われる。かつてはCanCamも用いていた編集法ではあるが、今ではミニマルレイアウトと相性が良くないのかここ数年リレーショナル型データベースによる情報提示は行っていない。そう考えるとLARMEのデータベースでの情報提示はかなり思い切った編集だと言うべきだろう。

7.1.2 幻想的世界観の提示

情報詰込み型の LARME が 2020 年秋に復刊した際、この復刊号は思い切った画像を掲載している。これがファッション誌消費における幻想的世界観の提示となる。

LARME が 2020 年 9 月に復刊した時、その最初の見開き 2 頁にあったのは紫に染まった渋谷の映像であった。あまりにもディストピア的な幻想的世界観の提示である。続く頁には、歌舞伎町で量産型・地雷系コーデに身を包んだインフルエンサーなえなのと吉木千里が登場する。これまでのファッション誌のロケの常識を覆すものであったと言えよう。LARME (2021) には、LARME2020 年秋号のようなディストピア的映像は提示されていないが、「The Stranger」と題された記事では、インフルエンサー景井ひな、および、女性アイドルユニット *femme fatale* メンバー頓智気なぎさの暗い過去が語られている。人生における苦悩の吐露は LARME (フランス語で「涙」) 基本路線である。LARME は復刊後その基本路線に立ち返ったと言える。LARME 編集長の中郡は YouTuber いなわびとんのインタビューでなぜ LARME という雑誌名にしたかをこう説明している (いなわびとん 2020)。

2011 年に震災あったじゃないですか。そっからネガティブなこととか、そういうことをみんなが言いづらい空気と言うか、自分より不幸な人がいっぱいいるしとか、そういうのも多分あってなのか、それでも頑張ってハッピーに生きてますみたいなのがあまりにも強くなりすぎている感じがあって、嫌でそれが、だから、LARME も涙という意味にしたし... [LARME は—筆者] フランス語で涙 っていう意味なんですけど、そういったネガティブな印象もある言葉だけれども、でも、その方がラルムが涙の代わりになって癒して、あの、癒す存在になればっていう意味なんだし、笑顔の写真は使わないというのを最初にやってたんで。笑顔でなくて いいです。

LARME は潜在的にディストピア的世界観と親和性があったということが出来るだろう。

この世界観はファッション誌内に入れ代わり立ち代わり登場する笑わないモデル達によって増幅しているようだ。(但し、佐々木彩夏は例外。) 登場するモデルも *femme fatale* の名もさ

ることながら、そのメンバーの戦慄かなの、同じく地下アイドルグループ悲劇のヒロイン症候群の月雲巫女（つくもみこ）、胡桃兎愛（くるみとあ）（LARME 2021: 102-103）。これらのユニークなモデル達が、雑誌誌面背景色であるパステルカラーでつなぎ合わされる。そこでは誰が特に目立つという赤文字誌的編集（例えば、モデル間に序列をつけトップモデルを裁ち落とし写真等で紹介し他のモデルに決定的な差をつける編集）は行われず、それぞれのモデルが眼立ちながらも雑誌中に次々と立ち現れるモデルの中に埋没していく、そんな中でディストピア的世界観が雑誌中に充満していると筆者は見る。

このモデルの埋没の過程は、GISELe のデータベース構築の解説後に話すことにする。

7.2 データベース化したGISELe

キュートなガリーからボーイッシュ志向へ舵を切り、没固有性を有するモデルを採用したミニマルレイアウトで発行部数挽回に成功した GISELe はその後、階層型データベース誌に変身していたのだが、そのデータベースとはどのような形なのか、ファッション記事の構造から説明していこう。

7.2.1 アパレル記事の構造

ファッション雑誌のアパレル記事はいくつかの記事の複合体で、複数の記事が親子関係を構築しながら階層を形成するところに大きな特徴がある。このアパレル記事複合体を構成する記事は見出しと本文から成り、親記事の見出しを二つまたはそれ以上の子記事が共有することで階層が生まれる。階層数は2ないし3である。[1] に示されたような構造がアパレル記事の構造となる。

[1] アパレル記事構造

- ① 見出し 本文 [親記事]
 - a. 見出し 本文 [子記事 1]
 - i. 見出し 本文 [孫記事 1]
 - ii. 見出し 本文 [孫記事 2]
 - b. 見出し 本文 [子記事 2]
 - i. 見出し 本文 [孫記事 1]
 - ii. 見出し 本文 [孫記事 2]
 - iii. 見出し 本文 [孫記事 3]
 - c. 見出し 本文 [子記事 3]
 - i. 見出し 本文 [孫記事 1]
 - ii. 見出し 本文 [孫記事 2]

このアパレル記事はまず親記事①があって、その下に三つの子記事 (a~c) が配置され、その子記事の下に孫記事 (ローマ数字の記事) が配置されるという形になっている。これを最上位の親記事から見ると、最上位の記事①から末端の孫記事まで全記事がツリー状につながるとい構造になっている。そして、これら末端記事 ([3] の場合は孫記事) のあとには「商品詳細」が配置されることになる。「商品詳細」では、その頁で紹介されている商品 (モデルの写真が近傍にある場合は、そのモデルが纏っているファッションアイテム) のカテゴリー名、価格、その商品を提供した商店名、または、その商品のブランド名などが紹介される。下記はその商品詳細の一例である (GISELe 2017: 12)。

白シャツ 12,000 円+税/PEGGY LANA、黒 G ジャン 10,800 円+税/MOUSSY (ともにバロックジャパンリミテッド) グレーデニムパンツ 12,000 円+税/リーバイス®(リーバイス・ストラウス ジャパン)

抽象から具象への階層化

さて、このアパレル記事の階層を見出しに焦点を当てて見てみると、最上層から最下層への移行が抽象から具象への移行となっていることが分かる。最上層の親記事の見出しは最も抽象性の高い表現が使われるが、途中の見出しで具象性の高い見出しに置き換わっていき、最下層に配置された商品詳細で、最も具象性の高い記述 (具体的に紹介されたアイテムが何者であるか特定される意味領域) に達するようになっているのである。因みに上記の商品詳細がどのような談話環境に配置されているかを見ると [2] のようになる。

[2] GISELe (2017: 14-16)

- | | |
|----------------------------------|-----------|
| ① <u>EVERYTHING IS ACCEPTED!</u> | 大きな範疇のテーマ |
| a. <u>「必要な新しさ」</u> はデニムが教えてくれる | やや抽象度が下がる |
| i. 01 <u>THE STRIKING BACK</u> | シャツの背中に注目 |
| ● シャツ 12,000 円+税... | 商品詳細 |

見出しの抽象度をみるには見出し中のテーマの抽象度を見るといい。通常アパレル記事の見出しには「テーマ」となる表現が含まれている。文法的には主題とか主語とか呼ばれているものであるが、ここでは深入りはしない。(興味がおありの方は南里 [2021] の§2.1.を参照願いたい。) 上記の分析において下線が施されているのがテーマに当たる部分である。このテーマは記事中で階層が上であればあるほど抽象性が高くなり、下であればあるほど具象性が高くなる。[2] で示されていることは次の様なことだ。まず、アパレル記事最上層で、非

常に広いテーマ「Everything」が取り上げられ、その下の階層 a で「必要な新しさ」がテーマとして選択され、さらにその下のレベルでは「THE STRIKING BACK」がテーマとして選択されている。「THE STRIKING BACK」とは、この見出し近傍に位置する写真中のモデルが着ているシャツの背中デザインの目を見張る素晴らしさを意味している表現である。直前の「必要な新しさ」と比べて具象性の高いテーマが選択されていることが分かるだろう。そして、この具象化された最下層のテーマの後に、先の商品詳細が配置されることになる訳である。

衣服の解剖とデータベース化

最上層の見出しは最も抽象性が高く、それが次第に具象性を増して、最も具象性の高い商品詳細に至る。漠然としイメージが具象的映像に変化していくコンテキストがここで形成されるわけだが、この過程に衣服の解剖を GISELe は挿入していくのである。

上記の具象化には 2 種類あって、一つは衣服解剖の挿入を行わないもので、もう一つは衣服解剖の挿入を行うものである。[2] は前者の例で、下に紹介する [3] は後者の例となる。

[3] GISELe (2017: 54)

- | | |
|--|--------------------|
| ① G パンと「 <u>新しいニット</u> 」 | 単品の範疇 |
| a. <u>TEAM BORDER!</u> | デザインの限定 |
| i. 01 一枚でもインナーとしても活躍する
<u>リブ&細目ボーダー</u> | 服 (の一部が醸し出す機能) の解剖 |
| ● 水色×赤ボーダーニットトップス... | 商品詳細 |

最も抽象性の高い見出しで「新しいニット」というファッションアイテムの範疇名が提示され、次のレベルで、ボーダー柄というデザインに絞り込みがなされ（「TEAM BORDER」とはボーダー柄のトップスの集まりを指す）、その次のレベルで「リブ&細目ボーダー」という特定の組み合わせが紹介され、その後商品詳細へと記事は進んでいく。衣服の解剖がおこなわれている見出しはテキスト [3] の i になる。

衣服解剖は典型的に、連体修飾節と被修飾名詞の関係で具現される。連体修飾節で、特定のアイテムやデザイン、又は、特定のアイテムやデザインの組み合わせの機能や、それらアイテムやデザイン（の組み合わせ）が醸し出す印象（例えば「フェミニン」や「大人っぽさ」）が述べられ、被修飾名詞でその機能や印象をもたらすものが何であるか明かされるのである。

[3] の例で言えば、「一枚としてもインナーとしても活躍する」という機能が連体修飾で紹介されていて、この機能が被修名詞である「リブ&細目ボーダー」によって実現されることを示している。特定のボーダーニットトップスに「一枚としてもインナーとしても活躍する」機能があると宣言し、それがそのニットトップスを解剖して見出された「リブ&細目ボーダー」

によってその機能が担われていると GISELe は宣言しているのである。

これは正に衣服の解剖である。

このような衣服の解剖は他の雑誌でも当然行われているが、GISELe はそれをアパレル記事の階層関係に組み入れている点で他の雑誌と異なる点に注意したい。GISELe (2017: 34-37, 46-47, 50-54, 56-61, 63, 68, 77, 79, 86, 88-91)、GISELe (2021: 29, 31-32, 35-38, 41, 45, 50, 60, 62-63, 65-67, 69-72, 74-75, 77-79, 81, 84-87, 91, 93, 96, 101, 103-109) に衣服解剖の例があるので参照のこと。

先に、衣服解剖の挿入を行わないテーマの具象化（「具象化 1」）と衣服解剖の挿入を行うテーマの具象化（「具象化 2」）があると指摘したが、この 2 種類の具象化は、具象化 1 が先に来て具象化 2 が行われている。加えて、GISELe は例えば赤文字誌と異なって、その頁の殆どがアパレルアイテム紹介記事である。抽象度が高い見出しがツリー状に末端記事（この衣服解剖が組み込まれている）までつながり、そこから商品詳細へと繋がっていく構造がほぼ雑誌全体に広がっている雑誌が GISELe なのである。事実上雑誌全体が「階層型データベース」を構成しているのである。

このようなデータベース化した情報提示方法を用い読者求心力を維持していることを考えると、GISELe のサポーターはファッション情報オタクと呼ぶにふさわしい読者だと思われる。コロナ禍にあってファッション誌を支えられるのはこういった情報オタクであるということになるだろう。

7.3 モデルの没固有性と没固有化

では、なぜ GISELe は衣服の解剖が行えたのか。そして、具体的に LARME はどういったプロセスで没固有化されているのか。思考実験的に紐解いてみよう。

GISELe の場合

南里（2020）は衣服コードの解剖を行い得た GISELe は没固有性を有するモデルを採用していたことを指摘している。何故それが可能だったか。

清楚系スタイルの歴史は大きな物語に遡るが、そこではモデルの固有性がいかんなく発揮されていた時代だと言える。ファッション誌上の蛭原友里の言動が CanCam が推すスタイルそのものであったと言ってよいだろう。蛭原と蛭原が纏う服は一体化していたのだと考えられる。エビ売れ現象が起こったのは蛭原が推す衣服を纏うことで蛭原を感じるためだったのではないだろうか。これは偏にモデル蛭原友里の固有性が衣服と表裏一体の関係にあったからだと言える。つまり、モデルの固有性を衣服と一体化させることで、衣服を売ってきたわけなのである。であれば、固有性を有するモデルをファッション誌に登場させモデルが纏う衣服の解剖などできるはずもない。GISELe は没固有性を有するモデルを採用することで服の

表 5. モデルの出現頻度の 5 誌比較

	1 頁辺りのモデル延 数	1 頁辺りのモデル異 なり数	アパレル記事登場の モデル異なり数	一人のモデルが何頁 に出現しているか
LARME	3.42	1.29	19	3.42
CanCam	2.32	1.29	9	6.22
Ray	4.89	1.37	10	10.80
ViVi	3.74	1.88	10	8.60
JJ	3.32	2.08	14	7.93
赤文字誌平均	3.57	1.66	10.75	8.39
平均の何倍	0.96	0.78	1.77	0.41

解剖に成功したのだろうと考えられる。

LRMEの場合

2017 年の LARME モデルは「ラルムメイク」とヒラヒラ服でモデル間の見分けがつかない状態になっており、これによりモデルは没固有化されたと南里（2020）は述べている。（2017 年 3 月号のラルムメイクは、眉根のない眉と、顔全体を白っぽくし頬をやや濃いめのピンクにするのが特徴であった。）復刊した LARME のモデルについて言えば、個々の判別は容易だ。中村理沙（LARME 2021: 1）と戦慄かなの（LARME 2021: 15）の区別がつかないとは考えにくい。また、復刊後の LARME のモデルはその名が当該頁に明示されていることが多い。モデルは明らかに固有性を有していると考えられ、本稿冒頭で述べた読者求心力を持つファッション誌のモデルは没固有性を有するとの仮説と矛盾するように見えるだろう。だが、LARME はモデルの没固有化をモデルの採用人数で行ったと考えられるのである。

表 5 を参照していただきたい。これは、LARM と赤文字 4 誌における、アパレル記事一頁あたりのモデルの延べ数、同じく一頁あたりのモデルの異なり数、アパレル記事全体に登場したモデルの異なり数、アパレル記事での同一モデルの登場頻度（同一モデルがアパレル記事何頁現れているか）を比較したもので、赤文字誌のそれぞれの数値の平均値を表の下から 2 番目の列に提示し、LARME の同じ数値がこの数値の何倍であるかを表の一番下の列に提示している。

この表を見る限り、LARME は赤文字誌より、一頁あたりのモデルの延べ数は少なく異なり数も小さい。つまり、頁ごとに出ているモデルの認識は赤文字誌より LARME の方が容易だということになる。しかしながら、アパレル記事全体で見ると LARME モデルの異なり数は赤文字誌の 2 倍弱（1.77 倍）となっている。つまり、どの赤文字誌よりも LARME の方が多

くの異なるモデルと誌面上で出会う構造になっているわけだ。同一モデルがアパレル記事に出ている頁数は平均 3.42 頁と赤字の数値の 4 割しかない。ファッション誌冒頭から頁をめくっていくという状況において LARME は短時間で多様なモデルと出会う構造となっている。恐らく初見の読者にとって一人一人のモデルの記憶は難しいだろう。多様なモデルを数多く見せられれば一人一人の印象は薄くなっていく。彼女らの個性、あるいは、固有性は薄れていくことになる。つまり、モデルの没固有化が起こっていると考えられるのである。一人一人の固有性、あるいは、個性が明確な形で読者の記憶に残らなければ、当然モデルの自律性も低下してく。一人一人のモデルの自律性が抑えられれば、ファッション誌中において「決定的な一つの物語」（東 2007）を構築することが可能となり、ディストピア的世界観の提示も可能となるはずである。

8. 結語

本稿では2000年から2021年までの20代女子向けファッション誌の変容を、CanCam、GISELe、LARMEを中心に観察及び考察してきたわけだが、この観察・考察をまとめると次のようなことになる。

2000年から2021年までのファッション誌の変化は清楚系ファッション誌の衰退だとまず言うことが出来る。清楚系誌（赤字誌）は固有性を有するモデルを採用し続けてきたのだが、最初はカリスマモデルが存在していた。このカリスマモデルの時代はファッション誌消費における大きな物語の時代であり、モデルの固有性は、そのカリスマ性と希少性のゆえにファッション誌からの自律を意味しなかったと考えられる。ところがその後、アイドルモデルが増えるにつれモデルの固有性がファッション誌に対して自律性を持つようになる。その際モデルはその固有性のゆえに批判を受け、ファッション誌が推す清楚系スタイルは読者により情報消費されなくなり、ファッション誌は読者求心力を低下させていくこととなる。アイドルのファンが読者としてファッション誌消費に回っているケールが発生しているが、これが続けば、読者総数に占めるファッション情報消費を目的とする読者の割合は低下し、いずれは当該ファッション誌はファッション誌であることを放棄しなくてはならなくなるだろう。（CanCamは既にファッション誌であることからライフスタイル誌へ脱却を図っていると考えられる。）

今の（「カリスマ的」ではなく）「小さな」モデル乱立の時代はまさに、ファッション誌消費におけるポストモダンの時代だと言うべきものだが、このポストモダンの到来と共に、読者求心力を持つ非清楚系誌が登場することになる。この読者求心力をもったファッション誌は没固有性を有するモデルか、没固有化されたモデルを採用し、雑誌全体をデータベース化するか、雑誌全体で一つのディストピア的世界観を提示することで読者求心力の回復に成功しているファッション誌であると考えられる。更に、雑誌全体をデータベース化したファッ

ション誌は、没固有性を有するモデルを採用したことで、衣服をモデルから解放することに成功し、それにより衣服の解剖が可能となったと考えられるのである。

上記のまとめからファッション誌に読者求心力を持たせるには、まずは衣服をモデルから解放させることが肝心だと言える。そうすることによって、衣服を思いのまま解剖・解説することができるだろうし、雑誌全体で世界観が表出できるようにもなると考えられる。

ただ、GISELeやLARMEのようなデータベース型ファッション誌には、その情報量の多さのゆえに、情報オタクと呼ぶべき読者層が必要であることにも言及しておく必要があるだろう。だが、その際、若者の活字離れに対処していく必要が出てくるだろう。文化庁が平成30年度に行った『国語に関する世論調査』（16歳以上の男女約2千人から回答）によれば一か月に何冊本を読むかとの問いに「読まない」と答えたものが47.3%で、「1, 2冊」と答えたものが37.6%を占めると言う（文化庁 2019）。ただ、ここで諦めるのではなく、若者に「読ませるファッション教育」を施すことを真剣に考えてみてはどうだろうか。今のファッションスタイルが過去のスタイルとどうつながっているのか。例えば、1970年代後半のニュートラスタイルががどのような経緯で今の清楚系スタイルと繋がっているのか。1960年代中頃に確立したアイビールックはニュートラとどう繋がっているのか。こういったファッションの歴史を解説しながら、若者のファッションリテラシーを高めていけばコアなファッション誌を定期的に読むインセンティブにもなるかもしれない。

本稿ではまたカワイイの新旧交代劇が起こったのではないかと示唆した。カワイイを標榜してきた清楚系誌が推す清楚系スタイルは、ひたすら肌を隠し体のラインを分からなくする方向へと変化してきた。大きい物語の時のスタイルと比べると、地味でうち向きに感じられる。そこに、体のラインを強調する韓国スタイルを背景に新カワイイ系のLARMEが現れたと言える。清楚系スタイルの衰退によって生まれたカワイイの真空地帯に地雷系・韓国風のストリートスタイルが入ってくる形となっているわけだが、これは日本における韓国のファッションスタイルの影響の大きさを意味しているのかもしれない。参考としてラクマのアンケート調査結果に言及しておこう。ラクマラボ（2020）が2020年に行ったファッションに関するアンケート調査で、ファッションで参考にする国がどこであるかと問うたところ、これに、日本の10代女子の77.3%が、そして、20代女子の56.7%が韓国を挙げているのである。韓国ファッションはかなりの日本女子を魅了していることが推察される。（但し、これは日本以外の国を挙げる質問となっていることにも留意する必要はあるだろう。）南里（2020）では韓国人モデルのファッション誌は現れないだろうと示唆したが、もしかしたらその状況は変わっているかもしれない。ただ、憧れはモデルの没固有性にあるとするUkon（2016）の言が正しいとすれば、日本的エレメントを一切排除したコンテキストに韓国人モデルを置くという編集法を取ることが肝要だろう。

不確かながらにさらに続けると、日本人女性が韓国ファッション（あるいはK-Popアイドル）

に見ているものは韓国ファッションの中にある西洋的なファッションなのかもしれない。

日本政府による財政的失策の責任

本稿でのファッション誌考察の締めくくりとして、日本政府の財政政策における失策について言及しておこう。本稿の§6.4.で日本の実質賃金の下落に言及したが、実質賃金の下落が四半世紀という長きにわたって起こっているのは、政治・経済がノーマルな状態にある（つまり、戦争や紛争で国の存立が脅かされている状況にあるのではない）国の中では唯一日本だけである。この異常な経済現象を小島健輔（2021）はこう解説する。

毎年の平均給与から「国民負担率」分を差し引いた「実質消費支出力」を計算すると、2000年の295.0万円がリーマンショックの2009年には254.9万円に落ち込み、8%に増税した2014年には240.3万円とさらに落ち込み、10%に増税後の2020年では238.9万円と00年の81%まで落ち込んだ。

年々少なくなっていく可処分所得を前にわれわれ日本人は急速にものを買えなくなっている。ものを買えないから、消費が伸びず、企業の収益は下がり、それに応じて給与は更に下がっていく。このような状況で服が買えなくなっていくのは当然のことで、更に当然の結果としてファッション誌が買えなくなっていわけである。そう考えると、日本のファッション誌は過去四半世紀負ける戦いを強いられ続けてきたと言ってよい。

消費税率や社会保障費の引き上げ、そして、過去四半世紀以上に渡り日本円建ての国債の発行残高を（中央政府ではなく）国民の借金と偽り、国家破綻をあおり、痛みを伴う改革と称し国民の実質賃金を減らしてきた財政政策における日本政府の、わけても、財務省の責任は極めて重大だと言わねばならない（三橋2017）。国債の原資は国民の金融資産ではなく、政府の日銀当座預金であり、国債の発行は国民に対する通貨の発行に他ならない（中野 2021: 79-84; 三橋貴明公式チャンネル 2020）わけだが、それが国家破綻に結び付けられ緊縮財政の正当化へと発展してきたわけだ。小島（2021）の次のような結論は極めて正当であると言えるだろう。

政策を抜本転換させるか政権交代させないと、このままでは日本は貧困の海に沈没してしまう。

この狂気に満ちた財政政策が続けば、20代初頭女子をターゲットとするファッション誌など早晚消滅することだろう。ただ、それでも財務省の言う通り緊縮財政を続けるのであ

れば、経済的焦土と化した日本国土には財務省しか生き残っていないことだろう。きっと彼らの生命力は人知が及ばないレベルにあるのだろうから。

やり残しの仕事

LARME のモデルの没固有化の解明については正直言ってまだ調査・研究・分析が足りないと思っている。筆者がファッション誌研究をファッション誌の構造という「形」の分析から始めたのは、そこが数値化しやすかったからだ。そして、今回思い切ってスタイル分析に進んでみた。本稿のスタイル分析がどれほど妥当性があるのか、この後しばらく落ち着いて考えてみたいと思う。それで、LARME の分析の話に戻るが、ようやくファッション誌編集における色使いの領域に迫ることができたのは一つの成果であったかもしれない。これまでファッション誌分析にどのようにして色の分析を入れたらよいのか見当もつかなかったのだが、本稿のデータ分析を通じて色がファッション誌全体のまとめ役となっていることは間違いないと感じている。

現在考えていることを少し話すと、衣服のスタイルと固有性を持つモデルの両者を統合するものは最終的には編集誌面の背景色だろうと考えている。雑誌内のそれぞれの頁の背景色の連結で生まれる色の連続構造を用いることで、雑誌に登場するモデルを効果的に没固有化させることが出来ると考えている。ファッション誌を構成するそれぞれの頁に掲載されている写真の数の変化が雑誌内に波形構造を生み出したように（南里 2020）、同様の波形構造が誌面背景色の連続で作られているはずで（LARME は意識的に背景色構造を作り上げている）、このような波形の複合体を束ねた形で視覚的にファッション誌の構造が捉えられれば、絵と文字が混在するテキスト（絵言語テキスト）の「絵」の部分の生成理論の構築が視野に入ってくることになりそうだ。更に、この波形構造の束の特徴と、ファッション誌内に提示されている言語情報の分析結果を照合すれば、そこで絵言語テキストの包括的分析方法が確立することになる。そこまで行けば筆者のファッション誌研究は終わりとなる。

また、2021 年のファッションビジネス学会での発表後、D2C についての質問を頂いたが、この質問がきっかけで、D2C ブランドには極めて面白いファッションスタイルを提案しておられるブランドが多いことに気づかせていただいた。これに関連して、小ロットで高品質のファッションブランドを応援するファッション誌の可能性もあると筆者は考えている。だが、その可能性を探る前に、ウェブサイトの分析方法を確立していなければならぬ。今後これも合わせてやっていきたいと思う。

参考文献

itmedia（2020）「19 年の実質賃金は、前年比 0.9%減 最も月給が低かった業界は？」

<https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2002/07/news105.html>.

ITトレンド (2021)「データベースとは？基礎知識を初心者にわかりやすく解説！」 <https://it-trend.jp/database/article/890065>.

Asagei+(2015)「乃木46メンバーがファッション誌に大量進出している「特別な事情」とは？」 <https://www.asagei.com/excerpt/33777>.

東浩紀 (2001)『動物化するポストモダン：オタクから見た日本社会』講談社現代新書.

東浩紀 (2007)『ゲーム的リアリズムの誕生：動物化するポストモダン 2』講談社現代新書.

東浩紀 (2013)『セカイからもっと近くに：現実から切り離された文学の諸問題』創元社.

いなわびとん (2020)「編集長に聞いてみよう！LARME 中郡暖菜さん」 https://www.youtube.com/watch?v=HNJ5rkunJaM&ab_channel=いなわびとん.

Imidas 2002年版 (n.d.)「神戸エレガンス」 <https://imidas.jp/fashion/detail/L-17-1-704-02.html>.

Ukon,Toru (2016)「ファッション雑誌講座第1回「なぜ日本人がモデルではないのか？」」 https://themmagazine.net/editors_voice/2016/1831/.

内田樹 (2008)『ひとりでは生きられないのも芸のうち』理想社.

A え日です。(2021)「ジャニーズオタクのための【見せない収納】雑誌編。」 https://ae-day.com/magazine_storage/.

Elastic (2006)「『JJ』低迷の原因は『可愛ゴー』」 <https://elastic.seesaa.net/article/435882421.html>.

eltha (2018)「篠田麻里子『MORE』モデル10年で卒業 “アイドル兼モデル”パイオニアとして活躍」 <https://beauty.oricon.co.jp/news/2111994/full/>.

オーディションナビ (2020)「モデルになりたい！なるためのルートや条件は？」 <https://audition-navi.net/want-to-be-model/>.

大塚英志 (2003)『キャラクター小説の作り方』講談社現代新書.

オタクのススメ (2020-2021)「雑誌の切り抜きはどうする？収納まとめ【基本】」 <https://otaku-susume.com/magazine-matome/>.

Oricon News (2011)「元・モー娘。久住小春、雑誌『CanCam』専属モデルに“転職”」 <https://www.oricon.co.jp/news/2001972/full/>.

ガールズちゃんねる (2020)「何故ファッション誌にアイドルが出るようになったのか」 <https://girlschannel.net/topics/2750884/>.

管理栄養士のオタクライフ (2020)「【完全版】ジャニヲタの大量！雑誌収納術～ドライバーでの解体方法～」 <https://noeat-nolife.com/magazine-storage-method/>.

CanCam.jp (2013)「2013年を総括！CanCam編集長が考える「かわいい」の現在」 <https://cancam.jp/archives/6760>.

CanCam.jp (2014)「CanCam編集長が仕掛ける！2014年は「黒髪美少女」と「フレトー女子」の時代！」 <https://cancam.jp/archives/6770>.

CanCam.jp (2015)「CanCam新編集長就任！日本の「かわいい」はこうなります【後編】」

https://cancam.jp/summary/archives/172990?post_date=20151023140809.

coogee (n.d.) 「アジアに溶け合う」 <http://coogee.jp/>.

小島健輔 (2021) 「日本人は知らない...日本人がどんどん『貧しく』なっている『本当の理由』」
<http://www.fcn.co.jp/thesis/gendai210220/>.

SankeiBiz (2020) 「出版不況のなかで生き残る雑誌は...雑誌厳冬期に『男性アイドル誌』が快
進撃」 <https://www.sankeibiz.jp/business/news/201213/bsm2012130830001>.

J-Cast (2009) 「「CanCam」「JJ」が凋落 女性誌売れなくなった理由」 <https://www.j-cast.com/2009/05/30042033.html?p=all>.

週刊大衆 (2019) 「蛭原友里、伝説の“エビ売れ”と現在 39 歳の美貌に驚愕の声『本当にすごい』」 <https://taishu.jp/articles/-/68927?page=1>.

小学館 (2019) 「エビちゃん、の名場面を網羅したメモリアルなフォトブック！『YURI
EBIHARA 2002-2019 THE DAYS』」 <https://www.shogakukan.co.jp/news/229459>.

JOAH (2019) 「気になる韓国人と日本人のファッションの違いって？」 <https://joah-girls.com/articles/E0k8j>.

Joshime (2020) 「「量産型」「地雷系」が可愛すぎる！2つのオタクの特徴を解説します♪」
<https://joshime.com/archives/158177>.

Think (2020) 「【モデルになりたい】仕事内容と条件、夢をかなえる方法について」
<https://thinkinc.jp/blog/1911/>.

スイセンノウ—愛は不変— (2020) 「暇を持て余したオタクの『ジャニオタ収納』」
<https://amdr.hateblo.jp/entry/2020/07/18/022035>.

Sponichi Annex (2021) 「まゆゆ乃木坂・白石麻衣と創刊号で競演「いいなあ、かわいくて！」」
<https://www.sponichi.co.jp/entertainment/news/2012/09/14/kiji/K20120914004111450.html>.

全労連 (2016) 「実質賃金指数の推移の国際比較」 https://www.zenroren.gr.jp/jp/housei/data/2018/180221_02.pdf.

総務省 (2021) 「2020年基準消費者物価指数全国2021年(令和3年)8月分」総務省報道資料.

それは恋とか愛とかの類ではなくて (2016) 「ジャニヲタ 9,665 人に聞きました！「ジャニヲタの定義」に関するアンケート集計結果」 <https://moarh.hatenablog.jp/entry/2016/07/01/141033>.

高橋幸 (2017) 「「モテたい」願望の表明による「女らしさ」の強化：2000年代『Can Can』における「モテ」表象の分析」『日本女性学会学会誌』(25) pp.84-92.

WWD (2016) 「蛭原友里と高垣麗子が「アネキャン」モデルを卒業 蛭原は「正直寂しい」」
<https://www.wwdjapan.com/articles/264877>.

タレント辞典 (2018) 「蛭原友里」 <https://talent-dictionary>.

com/%E8%9B%AF%E5%8E%9F%E5%8F%8B%E9%87%8C.
digital-zasshi.jp (n.d.) 「エビ売れ」 <https://www.digital-asshi.jp/apparel-dictionary/ebiure/>.
読者の力 (2021) 「人気雑誌の最高発行部数」 <https://www.digital-dokusho.jp/bestseller/magazine-highestcirculation/>.
中野剛志 (2021) 『変異する資本主義』ダイヤモンド出版.
南里敬三 (2020) 「ネットから見たファッション誌が売れない理由：GFL 誌はそれをどう克服したか」『大分大学国際教育研究センター紀要』(1), pp.194-219.
南里敬三 (2021) 「GISELe の言語空間」『大分大学国際教育推進センター紀要』(2)、pp.67-99.
日本雑誌協会 (2016) 『Magazine Data 2017』日本雑誌協会.
日本雑誌協会 (2017) 『Magazine Data 2018』日本雑誌協会.
日本雑誌協会 (2018) 『Magazine Data 2019』日本雑誌協会.
日本雑誌協会 (2019) 『Magazine Data 2020』日本雑誌協会.
日刊サイゾー (2015) 「AKB48 の表紙起用がトドメ 「CUTiE」休刊に、アイドル起用続くファッション誌業界が戦々恐々」 https://www.cyzo.com/2015/07/post_23180_entry.html.
noritter (2021) 「韓国人っぽいファッションとは？日本人とは違う 7 つの特徴をご紹介！」
<https://noritter.com/5481>.
三橋貴明 (2017) 『財務省が日本を滅ぼす』小学館.
三橋貴明公式チャンネル (2020) 「絶対に TV でカットされる国の借金の真実【三橋貴明×山本太郎】 Part1」 <https://www.youtube.com/watch?v=ynVn-3tLhj4&t=669s>.
南充浩 (2015) 「ファッション雑誌が大部数を売る時代は二度と来ない」
<https://minamimitsuhiro.info/archives/1193.html>.
Hack Media (2016) 「ここが違う！！日本人女性と韓国人女性のファッションセンス」
<https://code-file.jp/77480>.
PRTIMES (2017) 「人気韓国ショップと日本初のコラボも実施！！セレクトショップ「pipilottie」が初のポップアップショップ「pipi&lottie」をラフォーレ原宿にオープン！！」
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000023861.html>.
ファッション雑誌ガイド (n.d.a) 「CanCam」 <https://www.magazine-data.com/women-magazine/cancam.html>.
ファッション雑誌ガイド (n.d.b) 「ViVi」 <https://www.magazine-data.com/women-magazine/vivi.html>.
ファッション雑誌ガイド (n.d.c) 「LARME」 <https://www.magazine-data.com/women-magazine/larme.html>.
ファッション雑誌ガイド (n.d.d) 「FUDGE」 <https://www.magazine-data.com/women-magazine/fudge.html>.
ファッション雑誌ガイド (n.d.e) 「GISELe」 <https://www.magazine-data.com/women-magazine/gisele.html>.

magazine/gisele.html.

藤谷千明 (2020) 「“ゆめかわいい” 提示した雑誌「LARME」復刊号の狙いは？」

<https://realsound.jp/book/2020/10/post-633868.html>.

ふじいろワンロード (2020) 「ジャニオタ収納術 vol.5 雑誌を解体したい」 [https://anzmfp-](https://anzmfp-7239.hatenablog.com/entry/2020/04/18/011038)

[7239.hatenablog.com/entry/2020/04/18/011038](https://anzmfp-7239.hatenablog.com/entry/2020/04/18/011038).

藤谷千明 (2020) 「“ゆめかわいい”提示した雑誌「LARME」復刊号の狙いは？ 人気インフル

エンサー起用などの施策を考察」 <https://realsound.jp/book/2020/10/post-633868.html>.

文春オンライン編集部 (2020) 「女の子が“モテ”を連呼した 2000 年代『エビちゃんブーム』

には何が託されていたのか」 <https://bunshun.jp/articles/-/39775>.

山本麻子 (2007) 「女性ファッション誌におけるレイアウト・デザインについて『赤文字雑誌

がファッションに及ぼす影響』『デザイン研究特集号』16 (1) , pp.14-21.

よっちゃん徒然日記 (2006) 「CanCam の発行部数が 80 万部とは凄」

<https://kerennmina.exblog.jp/3432500/>.

ライバーラボ (2022) 「モデルになりたい？きつい5つの条件・モデルになる条件 11 つ【ハ

ード】 <https://media.primeagain.co.jp/model-naruniha/>.

ラクマラボ (2020) 「「ファッションの参考にする国」に関するアンケート調査結果を発表 女

性は 10 代～ 30 代で「韓国」が 1 位、男性は全年代で「アメリカ」が 1 位に」

<https://lab.fril.jp/fashionresearch0721>.

レオタール、ジャン＝フランソワ (1986) 『ポスト・モダンの条件』小林康夫訳、水声社。

ロイター (2019) 「実質賃金、18 年「決まって支給する給与」は 2 年連続減少＝勤労統計」

<https://jp.reuters.com/article/japan-2018-wage-idJPKCN1PW2X2>.

ロイター (2021) 「月実質賃金は 1.9 %減、10 カ月連続マイナス＝毎月勤労統計」

<https://jp.reuters.com/article/wagedec%20idJPKBN2A82MH>.

渡辺明日香 (2016) 『Tokyo ファッションクロニクル』青幻舎。

Complexity of Intercultural Communication in Selected Scenes: DeVito's Theory Applications

Kaori I. Burkart

Learning interpersonal skills is essential to becoming more effective communicators in an increasingly complex and global society. Such abilities are vital in a variety of settings: at work, at school, at home, and even in one's neighborhood. However, we are not innately equipped with the necessary skills and must learn to be more tolerant and considerate, especially when communicating with those with differing beliefs and value systems from our own. In this article, three different interpersonal communication scenarios are highlighted to facilitate discussion of conceptual definitions of interpersonal skills and the effectiveness or lack thereof in each specific situation. This is done by applying DeVito's interpretations. The three communication scenarios explored are: 1) homosexuality through intercultural communication perspectives, 2) nonverbal communication by children, and 3) organizational communication in schools.

1. Intercultural Communication between Heterosexual and Homosexual Groups

In a monocultural, monolingual, and monoracial country like Japan the terms "intercultural" and "international" communication are used interchangeably. "Intercultural" communication is often considered to be communication with people who are non-Japanese native speakers or those with non-Japanese cultural heritage. In societies with broader views, however, intercultural communication is considered at both the international and domestic levels. DeVito (2008) indicates that culture "refers to the lifestyle of a group of people... (which) includes everything that members of a social group have produced and developed" (p. 32). Therefore, "intercultural communication" encompasses a much wider scope. As an example of this, consider homosexuals within LGBTQ as a particular cultural group. This group has slowly made its way toward some level of acceptance in mainstream culture but remains marginalized and stigmatized. Some heterosexuals remain extremely homophobic and intolerant. Issues of interest include what makes people homophobic, who is likely to be prejudiced against homosexuals, and how intercultural communication can take place between people of different sexual orientations.

Historically, homosexuality was considered as a neurotic or mental disorder until 1973 when the American Psychiatric Association publicly announced it as “a way of life” (Lim & Johnson, 2001, p. 545). Although slowly recognized and acknowledged by heterosexual populations over the last fifty years, homosexuals are still stigmatized, suffer from prejudice, and are marginalized by so-called mainstream culture or the majority. Sexual identity awareness is a normal part of psychological development through mid-childhood and adolescence, but it is more difficult for those who are unsure about identifying with a heterosexual orientation. In recognizing their homosexuality, they face not only social stigmatization but also more serious problems such as risk of physical and psychological harm (Harrison, 2003). Even several decades after the American Psychiatric Association announcement, negative attitudes toward homosexuality remain strong. In traditional research, it is known that parents and families are very influential during the enculturation process, when developing one’s own cultural beliefs and values (O’Bryan, Fishbein, & Ritchey, 2004; DeVito, 2008). That is, cultural beliefs and values are likely passed from one generation to another through communication rather than genetically. Focusing on how prejudice and discrimination are formed and how they can be eased through intercultural communication is key in fostering healthy and mutually beneficial communication.

Prejudice, discrimination, social stigmatization, and marginalization toward homosexuals may occur by intergenerational transmission. Parents may have significant influences on their children’s view of homosexuality. According to a study conducted by O’Bryan, et.al., (2004), children are affected in certain domains of prejudice and intolerance by either their mothers or fathers. Mothers have more influence in health-related prejudices such as obesity and HIV/AIDS while fathers have more influence on prejudice against homosexuality and gender stereotyping. In a separate but related study Ritchey and Fishbein (2001) reveal that European-American adolescents with authoritative parents tend to have lower incidences of prejudice and stereotypes toward those different from themselves. Therefore, parents have a strong influence in either decreasing and increasing prejudice and stereotype levels.

Homophobia is more likely among the heterosexual male population; they tend to have little proper knowledge or positive interactions with those in homosexual communities. Lim and Johnson (2001) reveal that Korean social work undergraduate and graduate students have highly homophobic attitudes, especially those who identify themselves as heterosexual male, value traditional gender roles, and claim Christian religious beliefs. The study also indicates

that a lack of positive interaction and formal curriculum devoted to learning about homosexual populations is also strongly correlated with homophobia.

Harris (2004) discovered that there are more commonalities than differences among four groups (homosexual male and female and heterosexual male and female) in their interpersonal behavior, which could possibly explain more “between-group interaction and cultural integration” (p. 210). That is, focusing only on the differences can lead to fear and phobia but exploring familiarities and similarities can guide individuals through negative emotions and help them become more tolerant and respectful of those who are different. Likewise, one’s stereotypes and prejudices toward people who are different will generate more apprehension than in those people who have not yet developed strong stereotypes or prejudices (DeVito, 2008).

Consequently, the phenomenon of prejudice against homosexuality is one variety of miscommunication and misperception in terms of intercultural integration. It could occur in any communication situation. Intercultural communication between heterosexual and homosexual people can be positively and effectively enhanced by the acknowledgement of one’s own ethnocentricity. It is also important that heterosexuals learn more about homosexuality from unbiased perspectives. Kim and Penry Williams (2021) emphasize that ethnocentric perspectives generate prejudice and set up roadblocks for effective communication across cultural groups for people of differing cultural backgrounds. Hopefully, exercising self-awareness and acknowledging bias generated from being in the majority (i.e., heterosexual) and related ethnocentricity can help build less prejudiced knowledge about others. Positive interactions can encourage people to develop less phobic attitudes toward individuals of different sexual orientations.

2. Nonverbal Communication by Children

Nonverbal communication is soundless. DeVito (2008) states that it is contained in gestures, facial expressions, body language such as touching and postures, or simply by silent moments in conversations. Nonverbal communication also includes tonality and physical appearance. Children communicate differently from adults, often using nonverbal communication; it is important for adults to pay attention to the nonverbal messages of children. Important issues on this topic include the nature of nonverbal communication and strategies for promoting more effective nonverbal communication.

In the past, research has acknowledged that nonverbal communications run throughout conversations and convey messages more directly and clearly than those involving verbal

communication only. DeVito (2008) indicates that people tend to communicate via nonverbal behaviors, both intentionally and unintentionally, and that these behaviors can be difficult to control. To acknowledge and analyze one's own nonverbal behaviors and communication patterns is essential to becoming an effective communicator. Simultaneously, observing and analyzing others' behavior patterns will be helpful in facilitating fruitful communications.

Healthy and constructive learning environments can be promoted by teachers who value meaningful communication with their students. Since it is difficult to control nonverbal behavior while communicating with others, teachers should be more conscious of both their own and their students' verbal and nonverbal cues (Salend & Sylvestre, 2005). When they interact with students, they should use congruent and culturally appropriate nonverbal and verbal communication. With students of different cultural and language backgrounds, it is especially important to pay attention to their nonverbal behavior, because they are most likely to be influenced by gender, family environment, and cultural beliefs and values (Calişkan, 2009). For example, a newly immigrated student from Japan may not be comfortable with direct eye contact with his teacher because it is considered rude or disrespectful in his culture. He could simply be too shy to look at his teacher or may be embarrassed about a lack of language ability. From the student's perspective this nonverbal behavior does not intend a negative message but is simply a reflection of cultural background. As DeVito (2008) states, "Cultural sensitivity will help counteract the considerable difficulty most people have in understanding the nonverbal messages of people from other cultures" (p. 100).

Teachers also need to be aware that their own communication patterns are continually sending signals to students and indicate degrees of agreement, disagreement, encouragement, discouragement, enthusiasm, concern, and attention. Responding only subjectively with their own beliefs or reacting with threats or with negative emotions can lead to clash and conflict (Stanulis & Manning, 2002). Teachers' efforts toward effective communication will help create positive relationships with their students. Wilson and Locker, Jr. (2007) indicate that teachers' immediacy, or psychological availability and friendliness, can be indicated both verbally and nonverbally and greatly influences student learning outcomes. Teacher use of welcoming nonverbal communicative behavior is helpful in building rapport with students and provides additional relationship cues (Wahyuni, 2018). Overall, awareness of one's own nonverbal communication patterns and observation of others' nonverbal communications is crucial to creating better learning environments for both teachers and students.

3. Intercultural Communication in the School Environment

Communication in organized environments comprise some of the most ordinary but complex interpersonal messages due to the variety of relationships involved. School is a common place for organizational communication and communication between teachers and students is key to academic success. Effective communication between teachers and students must be promoted in all learning environments and can eventually equip all participants with better interpersonal skills. Teacher-student relationships and constructive syllabi as examples of effective forms of communications in school settings are important areas of discussion.

School is an essential environment for students of all ages. Academic success is a vital foundation which connects learners to successful careers, socioeconomic mobility, and accessibility to more and better goods and services. Communication that takes place at school is a fundamental tool for transferring information, and effective learning environments are promoted only through meaningful teacher-student interaction (Karadag & Caliskan, 2009). Students' academic success is likely to be associated with satisfying classroom experiences. An early but vital communications exchange between teachers and students is via a syllabus at the beginning of a new course. Qualified teachers should be able to provide their students a syllabus that has clear and detailed course policies and learning objectives (Davis & Swanson, 2001; Habanek, 2005). Simultaneously, students' formative feedback can be helpful for the teachers to acknowledge the classroom environment and student progress (Aultman, 2006). To foster positive learning environments, it is important that teachers understand their students' verbal and nonverbal language and behaviors and provide a common learning ground for all students, regardless of socioeconomic background, cultural background, and learning style.

According to the Center on Budget and Policy Priorities, Michel, Leachman, and Saenz (2019) reported that contemporary higher education institutions face serious budget concerns and must struggle for survival in increasingly competitive markets. Institutions have started putting more weight on student course evaluations and rewarding professors exhibiting teaching excellence to ensure customers' (students) satisfaction. Davidovitch and Soen (2006) point out that higher class attendance is associated with higher student course and instructor evaluations. That is, students tend to come to class when the material attracts their attention and interests, and there is a positive correlation between class attendance and student evaluations. Creating interesting courses and maintaining student interest are instructors' responsibilities, which can be promoted by providing clear and precise syllabi discussing course policies and requirements to inform their students about how their learning can be enhanced. Habanek (2005) clarifies this, stating that the syllabus is a major communication tool and a contract which

specifies accountabilities for both professors and students. Ideally it contains details about the course learning objectives, policies, and a schedule. Moreover, it should also include how students can achieve their goals and how their work will be evaluated at the end of the course. A poorly constructed syllabus is a failure of interpersonal and organizational communication and a serious concern in terms of student academic success.

It is crucial that professors involve themselves in their students' learning process by providing constructive feedback. Emotional understanding and helpful critiques delivered in a timely manner will promote better learning environments and improved outcomes (Punyanunt-Carter & Wagner, 2005); this requires good interpersonal skills. Once effective communication patterns are established between both parties, mutually beneficial and satisfactory classroom environments will follow (Davis & Swanson, 2001). Aultman (2006) indicates that professors' welcoming attitudes to student course evaluations will promote mutual understanding between professors and students, which in turn encourages students to become more enthusiastic learners and to take initiative in their own learning processes. Better intercultural communication is key to create more positive learning environments, which is one step forward for students' academic success.

4. Summary

In summary, through discussion of these three broader topics, interpersonal communication requires a certain skill set: self-awareness, cultural sensitivity, and acknowledgement of others. Exercising interpersonal skills is crucial to promoting and maintaining effective intercultural communication. Objectively analyzing our own verbal and nonverbal communication patterns and consciously and actively controlling their negativities will be helpful in building better relationships with others, especially with those who are different from oneself. As DeVito (2008) states, "A high level of self-awareness will enable you to control your thoughts and behaviors and will help you to identify your strengths and weaknesses so that you can capitalize on your strengths and direct your energies to correcting weaknesses" (p. 61). Additionally, people bring different values and beliefs to the table. That they are simply different may sometimes be difficult to accept, but we can learn more from experts who share their culture, providing proper knowledge and positive interaction. Constructive acquaintance is vital in understanding others. These concepts are commonly integrated into interpersonal communication, and they are essential to creating effective communicators.

References

- Aultman, L. P. (2006). An unexpected benefit of formative student evaluations. *College Teaching*, 54(3), 251. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Calışkan, N. (2009). The body language behaviors of the chairs of the disputes according to the disputants. *Education*, 129(3). Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Mitchel, M., Leachman, M., & Saenz, M. (2019). State higher education funding cuts have pushed cost of students, worsened inequality. *Center on Budget and Policy Priorities*.
- Davidovitch, N., & Soen, D. (2006). Class attendance and students' evaluation of their college instructors. *College Student Journal*, 40(3), 691-703. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Davis, J. C. & Swanson, S. (2001). Navigating satisfactory and dissatisfactory classroom incidents. *Journal of Education for Business*, 76(5), 245-250. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- DeVito, J. A. (2008). *Interpersonal Messages: Communication and relationship skills*. Boston: Pearson Education, Inc.
- Habaneck, D. V. (2005). An examination of the integrity of the syllabus. *College Teaching*, 53(2), Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Harris, C. M. (2004). Personality and sexual orientation. *College Student Journal*, 38(2), 207-211 Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Harrison, T. W. (2003). Adolescent homosexuality and concerns regarding disclosure. *Journal of Social Health*, 73(3), 107-112. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Karadag, E. & Caliskan, N. (2009). Interaction and communication in the process of education and shared common area in the classroom. *College Student Journal*, 43(1), 123-128. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Kim H., Penry Williams C. (2021) *Discovering Intercultural Communication. From Language User to Language Use*. Palgrave Macmillan, Cham.
https://doi.org/10.1007/978-3-030-76595-8_3

- Lim, H. S., & Johnson, M. M. (2001). Korean social work students' attitudes toward homosexuals. *Journal of Social Work Education, 37*(3), 545-554. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- O'Bryan, M., Fishbein, H. D., & Ritchey, P. N. (2004). Intergenerational transmission of prejudice, sex role stereotyping, and intolerance. *Adolescence, 39* (155), 407-426. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Punyanunt-Carter, N. M., & Wagner, T. R. (2005). Communication based emotional support differences between professors and teaching assistants. *Education, 125*(4), 569-574. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Ritchey, P. N., & Fishbein, H. D. (2001). The lack of an association between adolescent friends' prejudices and stereotypes. *Merrill-Palmer Quarterly, 47*(2), 188-206. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Salend, S. J., & Sylvestre, S. (2005). Understanding and addressing oppositional and defiant classroom behaviors. *Teaching Exceptional Children, 37*(6), 32-39. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Stanulis, R. N., & Manning, B. H. (2002). The teacher's role in creating a positive verbal and nonverbal environment in the early childhood classroom. *Early Childhood Education Journal, 30*(1), 3-8. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>
- Wahyuni, A. (2018). The power of verbal and nonverbal communication in learning. *Advancing in Social Science, Education and Human Research, 125*, 80-83
- Wilson, J. H., & Locker, L., Jr. (2007). Immediacy scale represents four factors: Nonverbal and verbal components predict student outcomes. *Journal of Classroom Interaction, 42*(2), 4-10. Retrieved from <http://vnweb.hwwilsonweb.com.ezproxy.lib.uwf.edu/>

資料

令和3年度国際教育推進センター関連行事

本学は春と秋の二学期制で、授業は4月と10月に始まります。

前期	
4月1日～4月3日	日本語プレイスメントテスト
4月5日	短期交換留学生開講式（5:30 p.m.）
4月7日	新留学生のための生活オリエンテーション（12:30 - 1:00 p.m.）（短期交換留学生以外） 宿舍入居者オリエンテーション ※オンラインにて実施
4月12日	授業開始
5月3日～5月5日	祝日
7月1日	帰国予定留学生対象ガイダンス（12:30 - 1:00 p.m.） ※オンラインにて実施
7月2日	七夕まつり
7月16日	帰国留学生送別会（6:00 p.m.）
8月1日	留学生のための狂言ワークショップ
8月28日～9月8日	期末テスト
9月9日～9月30日	夏季休業
後期	
9月17日～19日	日本語プレイスメントテスト
9月22日	短期交換留学生開講式，生活オリエンテーション（5:30 p.m.） ※オンラインにて実施
10月1日	授業開始
10月6日	新留学生のための生活オリエンテーション（12:30 - 1:00 p.m.）（短期交換留学生以外） 宿舍入居者オリエンテーション ※オンラインにて実施
10月30日	スピーチコンテスト
11月3日	祝日
11月23日	祝日
11月26日	月曜日の授業
11月予定	消防訓練 ※新型コロナウイルス感染症により中止
12月25日～1月4日	冬季休業
1月11日	祝日
1月14日	金曜日の授業
2月2日	帰国予定留学生対象ガイダンス ※オンラインにて実施

国際交流協定校等				2021.3.31現在
国・地域(数)	大学名	内容	協定 締結年月日	
アジア	中国	(16) 江漢大学	学術交流・学生交流(5)	1989/11/24
		河北医科大学(医学部との学部間協定)	学術交流・学生交流(2)	1992/1/26
		遼寧師範大学	学生交流(5)	1996/3/26
		香港大学	学術交流・学生交流(5)	1999/6/24
		河北師範大学	学術交流・学生交流(5)	2000/7/17
		華中科技大学	学術交流・学生交流(5)	2002/3/12
		深せん大学	学術交流・学生交流(5)	2003/3/27
		対外経済貿易大学	学術交流・学生交流(5)	2006/4/21
		中南財経政法大学	学術交流・学生交流(5)	2006/8/31
		武漢大学	学術交流・学生交流(3)	2009/10/30
		黒龍江大学	学術交流・学生交流(3)	2014/11/5
		内蒙古民族大学	学術交流・学生交流(3)	2014/10/30
		北京林業大学	学術交流・学生交流(3)	2014/12/23
		香港中文大学 (大学間→医学部間へ)	学術交流・学生交流	2016/1/18
		内蒙古大学	学術交流・学生交流(3)	2016/1/25
		陝西師範大学	学術交流・学生交流(3)	2016/2/26
モンゴル	(2)	モンゴル国立医科学大学(医学部との学部間協定)	学術交流・学生交流	2015/4/29
		第3国家中央病院(医学部との学部間協定)	学術交流・学生交流	2015/5/6
カザフスタン	(1)	セメイ医科大学	学術交流・学生交流(5)	2021/2/16
韓国	(15)	嶺南大学校	学術交流・学生交流(5)	1998/6/21
		韓国交通大学校	学術交流・学生交流(5)	1996/3/12
		西京大学校	学術交流・学生交流(5)	1997/2/28
		ソウル女子大学校	学生交流(5)	2003/12/5
		高麗大学校	学術交流・学生交流(5)	2004/2/20
		梨花女子大学校	学術交流・学生交流(5)	2004/8/3
		順天大学校	学術交流・学生交流(5)	2005/8/19
		培材大学校	学術交流・学生交流(5)	2006/6/7
		嘉泉大学校	学術交流・学生交流(5)	2006/6/8
		江南大学校	学術交流・学生交流(5)	2007/2/23
		釜山大学校	学術交流・学生交流(5)	2007/4/5
		江陵原州大学校	学術交流・学生交流(5)	2007/8/9
		光州大学校	学術交流・学生交流(5)	2008/3/14
		大邱大学校	学術交流・学生交流(3)	2012/11/20
順天郷大学校	学術交流・学生交流(3)	2017/1/23		
台湾	(4)	東海大学	学生交流(5)	2003/2/20
		高雄医学大学(医学部との学部間協定)	学術交流・学生交流	2010/4/27
		国立台湾大学(医学部との学部間協定)	学術交流・学生交流	2011/10/17
		開南大学	学術交流・学生交流(3)	2016/5/23
インドネシア	(4)	バンドン工科大学	学術交流・学生交流(3)	2003/8/12
		マラナタ・クリスチャン大学	学術交流・学生交流(5)	2011/9/28
		アイルランガ大学熱帯病研究所(医学部との学部間協定)	学術交流	2013/4/17
		アイルランガ大学	学術交流・学生交流(5)	2019/2/26
タイ	(7)	チェンマイ大学	学術交流・学生交流(5)	2002/8/15
		コンケン大学	学術交流・学生交流(5)	2006/3/8
		チュロンコン大学医学部(医学部との学部間協定)	学術交流・学生交流	2009/11/10
		ラチャウィティ病院	学術交流	2015/1/7
		マヒドン大学	学術交流	2015/8/24
		チュロンコン大学理学部(医学部との学部間協定)	学術交流・学生交流	2019/10/2
		タマサート大学	学術交流・学生交流(3)	2019/11/11

	マレーシア	(1)	マレーシア国立サバ大学	学術交流・学生交流(5)	2018/7/13
	フィリピン	(4)	サン・ラザロ病院	学術交流・学生実習	2006/9/25
			セントルークス病院	学術交流・学生実習	2007/9/25
			サントトマス大学(医学部との学部間協定)	学術交流・学生交流	2013/9/13
			アテネオ・デ・マニラ大学	学術交流・学生交流(2)	2017/10/5
アジア	ベトナム	(10)	ハノイ医科大学	学術交流・学生交流	2008/10/23
			ホーチミン医科薬科大学	学術交流・学生交流	2008/10/24
			チョーライ病院	学術交流	2008/10/24
			ベトナム国家大学ハノイ校経済学部(旧ベトナム国立大学ハノイ校経済大学)	学術交流・学生交流(5)	2009/7/20
			108病院	学術交流	2009/11/16
			ホーチミン市リハビリテーションセンター(福祉健康科学部との協定)	学術交流・学生交流	2017/8/22
			バクマイ病院	学術交流	2018/9/29
			セントポール病院	学術交流	2018/11/6
			フエ医科薬科大学	学術交流	2019/10/8
			ベトナム国家大学ハノイ校外国語学部	学術交流・学生交流(5)	2020/3/6
	カンボジア	(1)	カルメット病院	学術交流	2019/11/29
	シンガポール	(1)	南洋ポリテクニク	学術交流・学生交流(2)	2011/5/13
	ブータン	(1)	ケサル・ギャルポ医科学大学	学術交流	2019/12/26
	ネパール	(1)	カトマンズ大学医学部(医学部との学部間協定)	学術交流・学生交流(5)	2018/2/8
中東	サウジアラビア	(1)	アルファイサル大学	学術交流	2018/8/4
アフリカ	ケニア	(1)	ケニア医学研究所	学術交流	2018/11/8
	コンゴ民主共和国	(1)	ムブジマイ大学	学術交流・学生交流	2022/4/1
オセアニア	オーストラリア	(2)	西オーストラリア大学	学術交流・学生交流(5)	2006/7/4
			ウーロンゴング大学	学術交流・学生交流(1)	2010/4/21
北米	アメリカ合衆国	(6)	サンフランシスコ州立大学	学生交流(4)	1972/11/27
			テキサス大学オースティン校	学術交流・学生交流(5)	1990/8/9
			ノースキャロライナ大学シャーロット校	学生交流(5)	2003/12/16
			サンディエゴ州立大学	学術交流・学生交流(5)	2006/8/25
			アーカンソー大学フォートスミス校	学生交流(5)	2007/5/22
			アイオワ州立大学	学生交流(5)	2017/10/3
中南米	ドミニカ共和国	(2)	サントドミンゴ自治大学	学術交流	1989/12/14
			ルイス・エドワルド・アイバール病院(医学部との学部間協定)	学術交流	1997/1/1
ヨーロッパ	オランダ	(3)	ティルブルグ大学	学生交流(5)	1990/9/18
			NHLステンデン応用科学大学	学術交流・学生交流(5)	2009/1/6
			HUユトレヒト大学	学術交流・学生交流(2)	2011/3/17
	イギリス	(3)	ハートフォードシャー大学	学術交流・学生交流(5)	2009/5/23
			セントラル・ランカシャー大学	学術交流・学生交流(3)	2012/4/27
			マンチェスター大学	学生交流(4)	2014/4/24
	ドイツ	(1)	パダボーン大学	学生交流(7)	1997/9/9
	スウェーデン	(1)	メーラダーレン大学	学術交流・学生交流(5)	2006/9/5
	ハンガリー	(2)	カーロリ・ガーシュバル・カルビン派大学	学術交流・学生交流(5)	2007/11/6
			ブダペスト・メトロポリタン大学	学術交流・学生交流(2)	2017/10/5
	ポーランド	(1)	西ポメラニア工科大学	学術交流・学生交流(5)	2017/8/17
	フィンランド	(1)	TAMK大学	学術交流・学生交流(5)	2009/3/23
	イタリア	(2)	パヴィア大学	学術交流・学生交流(5)	2010/3/30
			ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学アジア・北アフリカ研究学科(経済学部と学部間協定)	学生交流(年間 5回年10)	2021/3/24
	フランス	(3)	レンヌ第2大学	学術交流・学生交流(2)	2010/4/15
			オルレアン大学	学術交流・学生交流(2)	2011/7/1
			ル・マン大学	学術交流・学生交流(2回学期間)	2011/11/2
	チェコ	(1)	パルドゥビツェ大学経済学部(経済学部との学部間協定)	学術交流・学生交流(5)	2019/10/8
	ロシア連邦	(4)	I.M.セチェノフ名称モスクワ国立第一医科大学	学術交流	2016/11/30
			ピラゴフ名称ロシア国立医学研究大学	学術交流・学生交流(5)	2017/3/10
			オムスク国立医科大学	学術交流・学生交流	2017/10/16
			クラコフ名称産科・婦人科・新生児科科学センター	学術交流	2019/6/5
	31か国 103校				

令和3年度国際教育推進センター開講授業科目一覧

授業科目名	学期	単位数	学部	担当教員
1. 日本語・日本事情科目				
日本語1文法	前・後期	2	国際教育推進センター	ブルカート香織
日本語1会話	前・後期	2	国際教育推進センター	ブルカート香織
日本語1総合	前・後期	2	国際教育推進センター	ブルカート香織
日本語1読解	前・後期	2	国際教育推進センター	長池 一美
日本語2文法	前・後期	2	国際教育推進センター	南里 敬三
日本語2会話	前・後期	2	国際教育推進センター	南里 敬三
日本語2総合	前・後期	2	国際教育推進センター	南里 敬三
日本語2読解	前・後期	2	非常勤講師	前田 京子
日本語3文法	前・後期	2	国際教育推進センター	坂井 美恵子
日本語3会話	前・後期	2	国際教育推進センター	坂井 美恵子
日本語3読解 I	後期	2	非常勤講師	大坪 美奈子
日本語3読解 II	前期	2	非常勤講師	前田 京子
日本語3作文 I	後期	2	非常勤講師	前田 京子
日本語3作文 II	前期	2	非常勤講師	前田 京子
多読で学ぶ日本語	前期	2	国際教育推進センター	坂井 美恵子
日本語4文法 I	後期	2	非常勤講師	大坪 美奈子
日本語4文法 II	前期	2	非常勤講師	前田 京子
日本語4スピーキング	前・後期	2	国際教育推進センター	坂井 美恵子
日本語4読解 I	後期	2	国際教育推進センター	西島 順子
日本語4読解 II	前期	2	国際教育推進センター	西島 順子
日本語4作文 I	後期	2	国際教育推進センター	西島 順子
日本語4作文 II	前期	2	国際教育推進センター	西島 順子
日本語4応用 I	後期	2	非常勤講師	大坪 美奈子
日本語4応用 II	前期	2	非常勤講師	前田 京子
日本語5スピーキング	前・後期	2	非常勤講師	(前期)前田 京子 (後期)大坪 美奈子
日本語5読解・作文 I	後期	2	国際教育推進センター	坂井 美恵子
日本語5読解・作文 II	前期	2	国際教育推進センター	坂井 美恵子
日本語5文法 I	後期	2	国際教育推進センター	西島 順子
日本語5文法 II	前期	2	国際教育推進センター	西島 順子
Independent Research Project I	前期	2	国際教育推進センター	南里 敬三
Independent Research Project II	後期	2	国際教育推進センター	長池 一美
日本研究 I (日研生対象)	後期	2	国際教育推進センター	南里・センター教員
日本研究 II (日研生対象)	前期	2	国際教育推進センター	南里・センター教員
大学院入学前予備教育日本語初級集中 (国費予備教育プログラム留学生対象)	前・後期	-	国際教育推進センター	センター教員
医学部学生補講(会話)	前・後期	-	国際教育推進センター	センター教員

2. グローバル科目

授業科目名	学期	単位数	学部	担当教員
日本語文法分析	前期	2	国際教育推進センター	西島 順子
日本語表現技術	後期	2	国際教育推進センター	西島 順子
狂言で大分を学ぶ	前期	2	国際教育推進センター	南里 敬三 西島 順子
日本語学 I	後期	2	国際教育推進センター	坂井 美恵子
Sustainability & Glocal Development in Oita サステナビリティ大分	後期	2	国際教育推進センター	ブルカート香織
Sustainability & Glocal Development in Oita 2	前期	2	国際教育推進センター	ブルカート香織
City Project: Oita and Beppu 歩いて楽しい街:大分と別府	前期	2	国際教育推進センター	南里 敬三
大分地域理解	前期	2	国際教育推進センター	西島 順子
ソーシャルネットワークと大分からの発信2	後期	2	国際教育推進センター	南里 敬三
ビジネスジャパニーズ演習1	後期	2	非常勤講師	前田 京子
ビジネスジャパニーズ演習2	後期	2	非常勤講師	前田 京子
ビジネスジャパニーズ演習3	前期	2	非常勤講師	前田 京子
ビジネスジャパニーズ演習4	前期	2	非常勤講師	前田 京子
Intercultural Communication	前・後期	2	国際教育推進センター	長池 一美
Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies	前・後期	2	国際教育推進センター	長池 一美 南里 敬三
Introduction to Japanese History, Culture and Society	前・後期	2	国際教育推進センター	長池 一美
Japanese Popular Culture Studies	前期	2	国際教育推進センター	長池 一美
Manga Studies	後期	2	国際教育推進センター	長池 一美
Japanese Grammar and Discourse	後期	2	国際教育推進センター	南里 敬三
Ethnographic Study on Rural Japan	前期	2	経済学部	久保田 亮
Globalization of Japan's Economy	前期	2	経済学部	柴田 茂樹
The Politics and Economics of the EU	前期	2	経済学部	DAY Stephen
Theoretical Framework for Integral Calculus	前期	2	理工学部	福田 亮治
The Politics and Economics of Globalization	後期	2	経済学部	DAY Stephen
Introduction to Japanese Management	後期	2	経済学部	碓 邦夫
Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics	後期	2	教育学部	橋本 美喜男

令和3年度 国際教育推進センター提供授業

(専任教員提供分)

【科目名】	日本語1 文法 (2021年度 前期・後期)
【担当者】	ブルカート 香織
【総括】	日本語基本文法及び言語機能の習得をねらいとし、ひらがな、カタカナの習得をはじめ、自己紹介、依頼、好き・嫌い、理由、欲求等の言語表現に必要な文法の習得を到達目標とした。語彙と文法の講義ではゲームやアクティビティを用いて基礎を学び、教科書で基本の練習をし、前分などの創作的宿題を通して言語技能の向上を図った。講義で用いられた配布物や板書は全て Moodle に掲載し、各課終了後に行った小テストで習熟度を確認した。2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、交換留学生が来日できなかったため、受講者のヨーロッパ現地時間に合わせて、夕方からの授業時間に変更して双方向型のオンライン授業を行った。

【科目名】	日本語1 会話 (2021年度 前期・後期)
【担当者】	ブルカート 香織
【総括】	限られた状況で適切な挨拶と簡単な会話ができるようになることをねらいとし、自己紹介、依頼、好き・嫌い、理由、欲求等を限られた語彙で表現できるよう、講義時間内には real-life situation を基盤とした口頭練習で基礎会話力を培った。教科書の聴解練習や実践会話を通した宿題で基本の習得を図った。講義で用いられた配布物や板書は全て Moodle に掲載し、各課終了後に行った小テストで習熟度を確認した。2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、交換留学生が来日できなかったため、受講者の現地時間に合わせて、夕方からのヨーロッパ授業時間に変更して双方向型のオンライン授業を行った。

【科目名】	日本語1 総合 (2021年度 前期・後期)
【担当者】	ブルカート 香織
【総括】	日本語基礎文法・言語機能の導入後、日常生活で総合的に活用することをねらいとし、基礎的な言語機能と限られた語彙や文法表現を用いて、日常場面で自己紹介、依頼、好き・嫌い、理由、欲求等をつかったコミュニケーションの力を培った。2017年度からは、各学期のはじめに日本人

	<p>学生ボランティアを募り、実践練習に力を入れて、各課ごとに学習した文法・言語機能を活用して実際の場面で使ってみることで、基礎日本語の習得と定着を図っていたが、新型コロナウイルス感染症による世界的パンデミックで交換留学生在が来日できず、受講者のヨーロッパ現地時間に合わせて、夕方からの授業時間に変更して双方向型のオンライン授業を行うようになってからは、日本語ボランティアの活動も保留にしている。</p>
--	--

【科目名】	日本語 1 : 読解 (2021 年度 前期・後期)
【担当者】	長池一美
【総括】	<p>このコースではひらがなとカタカナを習得させ、毎週学習する新出漢字 (計 145) の習得とそれを使った基礎的文書の読解力をみにつけることができた。オンラインでの授業実施となり語学習得には難しい点もあったが、履修した学生はこのレベルでの一定の日本語力を身につけることができた。</p>

【科目名】	日本語 2 文法・(2021 年度 前期)
【担当者】	南里敬三
【総括】	<p>日常の体験を時系列的に説明できるようになるとともに、若干の主観的表現を学び、過去、現在の出来事にコメントが出来るようになることを目指した。また、聞き手との社会関係を配慮した表現を授与動詞の使用を通して学ぶとともに、一文中での二つの出来事の前後関係の明示方法および、意志形を使った予定の報告の仕方、受け身、使役表現を使った出来事の説明の説明方法、敬語を使った丁寧な話し方などの学び、初級レベルの文法習得を完了した。</p>

【科目名】	日本語 2 会話 (2021 年度 前期)
【担当者】	南里敬三
【総括】	<p>日常の体験を時系列的に順を追って説明できるようになるとともに、若干の主観的表現を学び、過去、現在の出来事にコメントが出来るようになり、聞き手との社会関係を配慮した表現が選択できるようにもなった。自分のスケジュールの説明、不可抗力で発生した出来事の報告、誰かに何かをしてあげた、又は、してもらったことの報告などを取り交えて会話が対話形式で最低 8 分間できるようにもなる、また、その際、敬語の</p>

	基本的使用ができるようになった。
--	------------------

【科目名】	日本語 2 総合 (2021 年度 前期)
【担当者】	南里敬三
【総括】	<p>日常の体験を時系列的に順を追って説明できるようになるとともに、若干の主観的表現を学び、過去、現在の出来事にコメントが出来るようになり、聞き手との社会関係を配慮した表現が選択できるようになった。また、自分のスケジュール、不可抗力で発生した出来事、誰かに何かをしてあげた、又は、してもらったことなどのトピックをテーマにした会話文が読めて理解できるようにもなり、自分の将来の計画について 660 字程度の作文が辞書なしで書けるようになった。</p>

【科目名】	日本語 3 文法/会話 (2021 年度 前期・後期)
【担当者】	坂井美恵子
【総括】	<p>このコースは、初級レベルで学習した基本的な文法を、話題や場面に応じて適切に運用できるようになること、また、日常会話を支障なく行うために必要となる文型や語彙を習得することを目的とし、日本語 3 文法と日本語 3 会話を各学期週 1 回ずつ開講し、両科目合わせて受講することを条件としている。授業では以下のトピックで必要とされる文型を学び、コミュニケーション能力習得のため、会話や聴解を含むさまざまな練習を行った。また、住んでいる町について、及び自分の国の大学について短いスピーチと質疑応答も行い、多様なシチュエーションでの発話を促した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 友人や家族の紹介 2. 性格 3. 自国の紹介 4. 旅行の計画 5. 異文化体験 6. 日本の生活習慣や印象 7. 将来の希望 8. 30 年後の世界 など

【科目名】	日本語 4 スピーキング (2021 年度 前期・後期)
【担当者】	坂井美恵子

【総括】	<p>この授業は、大学生活をおくる上で必要となる一般的な話題について、正確かつ活発に会話ができるよう、実践的なコミュニケーション能力の習得を目標とした。「助言をする・助言を求める」、「許可を求める・断る」、「提案する」などの場面で必要とされる語彙や表現を学び、ペアワークなどを通して中級レベルの話す力を上級レベルに向上させることを目指して練習を行った。また、文レベルの会話から段落レベルの話ができ、詳しい説明を自発的に行なえるよう、自国の珍しい物の説明、ポーズと状況の説明等を個別もしくはグループによる発表形式で行った。また、期末プロジェクトとして料理を紹介する発表を行った。これらの発表の後では、個別にフィードバックを与えたほか、各自がビデオで自分の発表を見て、自己フィードバックも行った。さらに、フォーマルな場面とインフォーマルな場面で言葉が使い分けられるような練習や、自然なスピードで話される様々な場面の聴解力の向上を目的とした聴解練習も行った。</p>
------	--

【科目名】	日本語4 読解Ⅱ (2021年度 前期)
【担当者】	西島順子
【総括】	<p>この授業は大学で必要なアカデミックな文章を読むための読解力を身に付けることを目的とした。中級・中上級『話す・書くにつながる日本語読解』のテキストを中心にリーディングを行った。テーマは「生き方」「社会」「科学」「環境」など多岐にわたり、読解を通して日本社会に関する知識を得るだけでなく、大学に必要なアカデミックな文章を読む力を獲得することを目指した。語彙と本文の予習を課題とし、授業ではテーマに関するブレインストーミングを行い、問題に答える形式で本文の内容を読み取った。その後、そのテーマに関してディスカッションを行い、理解を深めた。各課が終わるごとに単語クイズを行い、テーマに関わる自身の考えや経験、あるいは自国の状況などをショートエッセイとしてまとめる課題を課した。</p>

【科目名】	日本語4 読解Ⅰ (2021年度 後期)
【担当者】	西島順子
【総括】	<p>この授業は、エッセイや新聞などの読解力を付け、読み取った情報から考える力を養うことを目的とした。中級『わたしの見つけた日本』と中・上級『日本への招待』の教科書を使用し、リーディングを行った。学期の前半は留学生の体験記を読み、日本人の宗教観や人間関係について考え、また、後半は</p>

	新聞や小説、データなど多様な素材を用い、不登校問題や社会における若者の立場について読んだ。読解の後はテーマに関するディスカッションを行った。各国の状況と比較しながら読み、話すことで、より深い理解につなげた。各課の語彙や本文、問題は予習とし、各課が終わるごとに単語クイズを行うと同時に、テーマに関わる自身の考えや経験、あるいは自国の状況などをショートエッセイとしてまとめる課題を課した。
--	--

【科目名】	日本語4 作文Ⅱ (2021年度前期)
【担当者】	西島順子
【総括】	この授業は大学生活で必要となるレポートを書く技術を向上させることを目標とした。『大学で学ぶための日本語ライティング』を使用し、学期の前半は比較的短い文章で情報を正確に伝えたり、意見を述べたりする作文を行った。その後、書き言葉や、段落・構成を意識して書くことを学び、その知識を用いて報告文や意見文、自己アピール文などを400～600字程度で作成する練習を行った。また、協働学習として、互いの作文を読み合い、修正したり感想を述べたりする機会も設けた。学期の最後は、社会問題に関する800字以上の意見文を最終レポートとして課した。

【科目名】	日本語4 作文Ⅰ (2021年度 後期)
【担当者】	西島順子
【総括】	この授業は大学生活で必要となるレポートを書く技術を向上させることを目的とした。学期前半は、日常で必要となるライティングスキルを身に付けるため、改まった場での自己紹介の原稿の作成、あるいは状況に応じたメールの書き方など実用的な練習をした。後半は、アカデミックな場面で必要となるスキルとして、発表原稿やレポートを書く初歩的な練習を行った。文体の基本や、意見を主張する際の典型的な論理構成や表現、グラフの説明の仕方、引用の仕方など、レポート作成に関わる練習に力を入れた。毎週400～600字のミニレポートを課題とした。学期の最後は、社会問題に関する800字以上の意見文を最終レポートとして課した。

【科目名】	多読で学ぶ日本語 (2021年度 前期)
【担当者】	坂井美恵子
【総括】	多読とは辞書を使わないで読めるやさしい本を楽しく速く多く読むことで、英語教育では語彙力や流暢さなど語学力の向上に効果的だという

	<p>多くの研究がある。近年日本語教育でも注目されている教育方法である。この授業では、やさしく短い読み物を読むことから始め、少しずつ長さで日本語のレベルを上げていくことで、日本語で書かれた本をより速く、より多く読めるようになるだけでなく、話す力、書く力も伸ばすことを目指した。今年度はオンラインでの開講であったため、急遽図書館のサイトからオンライン上で読める多読教材を増やしたほか、無料で多読教材が読めるさまざまなサイトの紹介を行った。ネット上でも様々な読み物があり、授業を進める上で問題はなかった。それ以外に、読んだ本についてグループで紹介し合う毎週の活動や、物語を書いたり、おすすめの本の発表したりと、読む以外にも様々な活動を取り入れた。初中級から上級レベルを対象としたクラスである。</p>
--	--

【科目名】	日本語5 読解・作文Ⅰ (2021年度 後期)
【担当者】	坂井美恵子
【総括】	<p>このコースは、上級レベルの学習者を対象に、レポートや学術論文などを読むために必要な文法知識と、文章の論理構造に関する知識を学びながら、論文を独力で読んでいくための基礎的読解力を身につけることを目的とした。読み物は1200字程度から2000字程度の長さへと段階的に進み、文章の構成に関する知識や文法、語彙を学習し、大意把握や必要な情報を読み取る練習を行なった。また、作文の基礎知識（作文用紙の使い方、書き言葉の使い方を含む）や段落の構成を学んだ上で、説明文を書く練習を行い、ピアレビューと教師からのフィードバックに基づき書き直しを行い、完成度を高めた。それと同時に、論説文とは異なった分野の語彙や表現の習得のため短編小説と、話題になった時事問題を扱った新聞記事の読解と要約の練習も行なった。</p>

【科目名】	日本語5 読解・作文Ⅱ (2021年度 前期)
【担当者】	坂井美恵子
【総括】	<p>このコースは、日本語5読解・作文Ⅰでは扱わなかった分野の論説文を読むことにより、専門の論文を読むための読解力の基礎を充実させることを目標とした。具体的には1200字程度から2000字程度の長さの論説文を段階的に読み、論文を読むための基礎となる文章の構成に関する知識や文法、語彙を学習した。また、文章の論理構造について学び、大意を把握したり、必要な情報を読み取る練習も行なった。それと同時に段落</p>

	<p>の構成について学び、要約文や意見文を書く練習を行い、ピアレビューと教師からのフィードバックに基づき書き直しを行い、完成度を高めた。さらに、日本語5 読解・作文 I とは異なった現代作家の短編小説を読み、読解力の向上を目指した。</p>
--	--

【科目名】	日本語5 文法Ⅱ (2021年度 前期)
【担当者】	西島順子
【総括】	<p>この授業は日常会話の多様な文型、また大学の講義を理解するために必要な文型を身に付けることを目的とした。文法的な機能語を体系的に整理、理解するため、「状況」や「例示」「基準」などを表す複合助詞、また「意志」や「判断」「結末」などを表す文末表現を中心に72の文型を学習した。授業では、前の週に学んだ文型の選択問題や並べ替え問題、さらに短文作成の宿題の答え合わせをし、間違いなどを重点的に解説した。その後、新しい文型を導入し、文章内でのそれら文型の使い方や意味の違いを確認する問題を共に考えながら解き進めた。これらの練習を通して、一つ一つの文型の使い方や意味をより正確に理解し、適切に運用する力をつけた。</p>

【科目名】	日本語5 文法Ⅰ (2021年度 後期)
【担当者】	西島順子
【総括】	<p>この授業は日常会話の多様な文型、また大学の講義を理解するために必要な文型を身に付けることを目的とした。文法的な機能語を体系的に整理、理解するため、「順接」や「逆接」「条件」などを表す複合助詞、また「当然」や「心情」「強制」などを表す文末表現を中心に78の文型を学習した。授業では、前の週に学んだ文型の選択問題や並べ替え問題、さらに短文作成の宿題の答え合わせをし、間違いなどを重点的に解説した。その後、新しい文型を導入し、文章内でのそれら文型の使い方や意味の違いを確認する問題を共に考えながら解き進めた。これらの練習を通して、一つ一つの文型の使い方や意味をより正確に理解し、適切に運用する力をつけた。</p>

【科目名】	日本語文法分析 (2021年度 前期)
【担当者】	西島順子
【総括】	<p>この授業は、日常接している日本語を客観的に観察し、言語学的な観点から分析することによって言語一般への関心を喚起し、その分析力を養うことを目標とした。一般的な言語構造やその類型を知り、日本語がどのような体系</p>

	<p>をしているかを理解した。また、認知言語学や語用論、異文化間コミュニケーションなどの視座から問いを与え、それに答えながら日本語の分析を行った。セメスターの中間時期に、外国語として日本語を教える模擬授業の実践を取り入れた。留学生と日本人学生がペアになり、教案を作成し、模擬授業を行った。この活動を通して、言語を教える難しさ、またその面白さを知ると同時に、言語の異なる者が協働することで、日本語を外国語としてより深く理解することを可能とした。</p>
--	---

【科目名】	大分地域理解 (2021年度 前期)
【担当者】	西島順子
【総括】	<p>この授業は、複数の文化や言語の視点をもって、大分の社会や歴史を学ぶことを目的とした。社会を知るテーマでは過疎化を扱い、大分が置かれた現状だけではなく、各国や各地域が抱える問題として議論した。過疎化対策を進める豊後大野市を訪問する予定であったが、コロナの影響で実現できなかった。歴史を知るテーマでは、大分のキリシタン史にフォーカスを当て、宗教や民族が異なることによって生じる差別という普遍的問題を議論した。当時のキリシタンの実態を知るために、竹田市のキリシタン資料館を訪問し、その遺構に触れた。これら活動後にディスカッションを行い、解決策や考えをまとめ、note というメディアプラットフォームで複数の言語で発信、共有を行った。また、それを用いて、グループ発表を行った。日本人学生と留学生が議論しあうことで、それら問題が大分にとどまらない現象であり、普遍的であることに気づき、個人としていかに対峙していくか、考えを深めることができた。</p>

【科目名】	Introduction to Japanese History, Culture and Society (2021年 前期・後期)
【担当者】	長池一美
【総括】	<p>この講義では、日本の歴史および文化についての基礎的な事項について学習し、さらに現代社会のいくつかのトピックについて討議し、日本という国・社会、および日本人についての理解を深めることを目的とした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎的な日本の歴史に精通する。 2) 日本の文化（特に古典文化）についての知識を得る。 3) 現代日本社会のありかたについて学ぶ。 <p>本学での留学前に日本事情についての知識があまりない学生を対象とし</p>

	<p>た授業であるが、この授業で学習することで、日本の歴史、社会、文化の基礎的な知識を習得した。この授業では日本人学生と留学生が受講したため、多文化主義という観点から、日本のポピュラー・カルチャーについて学ぶことができた。今年度から英語を主体として日本語での補足を行うバイリンガル授業として提供した。2言語で授業を開講することによって、英語力のハンデあり、英語のみで教授される授業の履修を躊躇する日本人学生を多く取り込むことができる。また、日本語ベースのプログラムである IGLOBE-J の学生も履修できる科目数を増やすことによって、より一層インクルーシブな授業を提供することができた。</p>
--	--

【科目名】	Intercultural Communication (2021年 前期・後期)
【担当者】	長池一美
【総括】	<p>この授業の前半では異文化コミュニケーションの概念を理解し、日本人と留学生の異文化交流という視点から日本人の深層心理構造と社会の形成について学習した。後半では、異文化理解に付随する諸問題（オリエンタリズム、ディアスポラ、カルチャーショック、など）について多文化理解、グローバリゼーションの視点から学習した。この授業では日本人学生と留学生が受講したため多文化共生の観点から知的交流が実現した。今年度から英語を主体として日本語での補足を行うバイリンガル授業として提供した。2言語で授業を開講することによって、英語力のハンデあり、英語のみで教授される授業の履修を躊躇する日本人学生を多く取り込むことができる。また、日本語ベースのプログラムである IGLOBE-J の学生も履修できる科目数を増やすことによって、より一層インクルーシブな授業を提供することができた。</p>

【科目名】	Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies (2021年度 前期・後期)
【担当者】	長池一美・南里敬三
【総括】	<p>日本のファッションは各時代のブームと共にそれを象徴する美意識を生み出してきた。ファッション雑誌の構成も時代のファッションブームや美意識に比例するかのように様々な方程式を生み出している。この授業では特に女性向けのファッション雑誌のレイアウト、記事内容（コンテンツ）、読者などを分析し、表現されている日本独自の美学について学んだ。また、日本社会、ならびに海外における日本のファッション文化の受</p>

	<p>容について議論し、グローバルな視野を身に付けた。この授業では日本人学生と留学生が受講したため多文化共生の観点から知的交流が実現した。英語を主体として日本語での補足を行うバイリンガル授業として提供した。2言語で授業を開講することによって、英語力のハンデあり、英語のみで教授される授業の履修を躊躇する日本人学生を多く取り込むことができる。また、日本語ベースのプログラムである IGLOBE-J の学生も履修できる科目数を増やすことによって、より一層インクルーシブな授業を提供することができた。</p>
--	---

【科目名】	レポート・論文作成 (2021 後期)
【担当者】	西島順子
【総括】	<p>このコースでは、大学で必要とされるレポートを書く技術を向上させ、論理的な文章が書けるようになることを目標とした。そのために学期中に以下の三つのレポートを段階的に課した。第一に、レポートに特徴的な語彙や文体を学び、問題提起等に見られる論の展開を分析し、それを理解したうえで賛否型のレポートを執筆した。第二に、引用の仕方やデータの提示・分析の仕方を学んだうえで、データを用いたレポートを作成した。第三に、序論・本論・結論の構成を学び、そこで使用される表現を学習、練習したうえで、5000字以上の最終レポートを執筆した。提出された最終レポートは、データや主張を示しながら、自国や日本の社会問題や経済問題などを論じるもので、アカデミックなレベルに達していた。</p>

【科目名】	日本語表現技術 (2021 後期)
【担当者】	西島順子
【総括】	<p>この授業は、話し手として伝えたいことが論理的に伝えられ、内容を精査しながら、効果的に発表や対話ができることを目標とした。まず、単独でのスピーチやディスカッションの基本的な手法を学んだ。その後、留学生と日本人がグループとなりプレゼンテーションの課題に取り組んだ。パワーポイントを用いた発表の形式を知るだけではなく、説得力のあるプレゼンテーションを行うため、発表テーマについて、必要・不要な情報を選び取り、論理的流れを精査する過程を重視した。後半は、建設的な対話力を身に付けるために、論理的で説得力のある話し方を学び、その練習を行った。これら集大成として最後に、実践的訓練となるミニディベートを行った。チームで協力し合い、時間をかけて論点を整理し、説得力のある論理</p>

	展開を準備することを重視した。各活動で相互評価、自己評価、教師評価を行い、各学生が自身の発表や話し方の内省を深めた。
--	--

【科目名】	狂言で大分を学ぶ
【担当者】	南里敬三、西島順子（2021年度 前期）
【総括】	日本の伝統芸能である狂言の基本動作をマスターし、大分地域を題材とするシナリオを作成しそれを実際に能の舞台で演じることで、狂言の心と大分の文化歴史を深く理解できるようになった。狂言の発声・動作の基礎を理解した上で、対面参加の受講者は能楽堂の檜舞台で創作狂言を演じ、オンライン参加の留学生は自宅または自宅近くの空き地で創作狂言を演じた。これら創作狂言は由布岳、九重連山といった大分の自然や、姫島の狐踊りといった大分の風物詩、大友義統といった歴上の人物などを題材としたもので、どれも力作ぞろいであった。

【科目名】	日本語学 I （2021年度 後期）
【担当者】	坂井美恵子
【総括】	この科目は上級レベルの留学生と日本人学生を対象にし、教養教育科目の中の国際理解教育科目として開講しているものである。日本語学の各分野について、基本的なしくみを理解し、自ら分析できる力を養い、日本語に対する知識と興味を深めることを目的とした。扱った内容は、形態論、ラ抜き言葉、文法化、音声、連濁、アクセント、語の短縮、方言、語彙、コーパスと言語研究などである。授業にはできるだけグループディスカッションを取り入れ、学生自らが主体的に日本語について考えられるようにした。留学生が日本語を習得する上で困難だと感じる項目について、日本人学生が留学生に聞き取り調査を行い、その結果をまとめたり、方言や若者言葉など各自が興味のある分野について調査を行い、レポートにまとめるなどの課題を通じ、学びを深めることができた。また、本科目は公開講座としても開講していることから、社会人の受講生もおり、多様な年代の意見を取り入れることができ、学生への大きな刺激となった。

【科目名】	ソーシャルネットワークと大分からの発信 II（2021年後期）
【担当者】	南里敬三
【総括】	この授業では、国東市国見地域と由布院の市街地を訪れ、この両地域を

	プロモートをブログ及びウェブサイトの作成を通じて行った。授業ではまた日本のマスメディアの特徴を学んだ後、現代社会においてどうしてソーシャルメディアが必要であるのかも学んだ。
--	--

【科目名】	Japanese Grammar & Discourse (Autumn Semesters in 2021)
【担当者】	Keizo Nanri
【総括】	This course explored the Japanese language from two perspectives: sentence construction and discourse construction. The sentential exploration was conducted by focusing on 5 case markers (<i>o, ni, to, e, de</i>) the topic marker <i>wa</i> , the subject marker <i>ga</i> , and serial verb construction. The discourse exploration was conducted from the perspective of schema.

【科目名】	歩いて楽しい街：大分と別府（2021年前期）
【担当者】	南里敬三
【総括】	コロナ禍でオンラインの授業となった。授業では、大分市のJR大分駅を中心とする市街地、及び、別府市の駅前地区を取り上げ、前者では市内を人が還流する方法を、後者では市外から人を呼び込む方法をデザイン思考を用いて考え、都市計画図などを作成した。

【科目名】	Sustainability and Glocal Development (Fall 2021)
【担当者】	Kaori I. Burkart
【総括】	This course explored key global and local sustainable development issues related to the natural environment and helped students acquire knowledge, attitudes, and various values essential to creating a sustainable future through familiar themes in their immediate surroundings (e.g., food mileage, plantations and palm oil, the tragedy of the commons, food self-sufficiency). The course was designed to motivate and empower students to reflect on their own behaviors and make collaborative decisions to support sustainable development in a democratic context. Students practiced critical thinking skills through planned learning activities in and outside of class (e.g., online discussions, presentations, in-class group discussions). Students from different countries (e.g., Germany, China, England, Vietnam, Japan) shared diverse perspectives in class. Offered since Spring Semester 2021, the course has been designed to promote English as a common language and accommodate everyone as a part of the International Frontier Program at Oita University. Course instruction was mostly in English

	<p>supplemented with some Japanese. All in-class discussion was conducted in English but writing assignments could be submitted in either English or Japanese. The bilingual environment accommodated both Japanese native speakers and speakers of other languages to associate with one another in a friendly discussion-centered environment. A field trip giving students great opportunities to learn about sustainability efforts taking place in Oita was canceled this year due to the unpredictable nature of the COVID-19 outbreak.</p>
--	---

【科目名】	Sustainability and Glocal Development 2 (Spring 2021)
【担当者】	Kaori I. Burkart
【総括】	<p>This course explored key global and local societal issues through the sustainable development perspectives and helped students acquire knowledge, attitudes, and various values essential to creating a sustainable future through familiar themes in their social surroundings (e.g., poverty, disparity, mass consumptions, fast-fashion, food waste, convenience store). The course was designed to motivate and empower students to reflect their own behaviors and make collaborative decisions to support sustainable development in a democratic context. Students practiced critical thinking skills through planned learning activities in and outside of class (e.g., online discussions, presentation, in-class group discussions). Students were from Germany, China, England, Vietnam ,and Japan. Offered since Spring Semester 2021, the course has been designed to promote English as a common language and accommodate everyone as a part of the International Frontier Program at Oita University. Course instruction was mostly in English supplemented with some Japanese. All in-class discussion was conducted in English but writing assignments could be submitted in either English or Japanese. The bilingual environment accommodated both Japanese native speakers and speakers of other languages to associate with one another in a friendly discussion-centered environment. A field trip giving students great opportunities to learn about sustainability efforts taking place in Oita was canceled this year due to the unpredictable nature of the COVID-19 outbreak.</p>

国際教育推進センター教員，学生・留学生支援課職員名簿

(令和3年度)

センター長・教授

下田 憲雄

専任教員

センター次長・教授

南里 敬三

教授

坂井 美恵子

教授

長池 一美

准教授

ブルカート 香織

講師

西島 ^{よりこ} 順子

学生・留学生支援課（留学生・留学担当）（令和3年度末現在）

課長

岡崎 政典

副課長（留学生係長兼務）

安部 義博

留学生係

和智 麻未

留学生係

佐藤 晃一

留学生係

江藤 幸代

留学生係

織部 可奈子

国際交流会館

市原 玲子

大分大学国際教育推進センター 紀要
第3号
令和3年度
(2021年度)

発行 令和4年3月31日
発行者 大分大学国際教育推進センター
〒870-1192
大分県大分市大字旦野原700番地
電話 097-554-7444・7131
FAX 097-554-7437
<http://www.gaia.oita-u.ac.jp/>



国立大学法人

大分大学